GeoVision inc
The Vision of Security

GV-Video Server

ユーザーズマニュアル

Before attempting to connect or operate this product,
please read these instructions carefully and save this manual for future use.

© 2010 GeoVision, Inc. 版権所有。
著作権法により、本マニュアルの全部あるいは一部を、GeoVision 社の書面による承諾を得ることなく複製することは禁止されています。

本マニュアルに記載の情報の正確さにつきましては万全を期していますが、GeoVision 社は、誤植あるいは誤記に関して一切責任を負わないものとします。

GeoVision, Inc.
台湾台北市内湖区内湖路
一段 246 号 9 階
電話: +886-2-8797-8377
FAX: +886-2-8797-8335
http://www.geovision.com.tw

当マニュアルにて使用されている商標:*GeoVision*、*GeoVision* ロコおよび GV シリース製品は、GeoVision, Inc.の登録商標てあり、*Windows* および *Windows XP* は、マイクロソフト社の登録商標てす。

2010 年 5 月

初めに

GV-Video Server ユーザーズマニュアルにようこそ。

GV-Video Server は、さまざまなニーズに合わせて設計されたラインナップを用意しています。特定モデルにのみ使用できる独自のファームウェアがあります。本マニュアルは、下記のモデルとファームウェアバージョン向けに作成されています。

モデル	ファームウェアバージョン
GV-VS02	1.46
GV-VS02A	1.01
GV-VS04A	1.0
GV-VS12	1.02

GV-VS02 をお使いの場合、**ハードウェアバージョン 2.0** または**ファームウェアバージョン 1.46** 本体のみの特定機能があります。

本マニュアルでは、GV-Video Server とそのアクセサリの概要について説明しています。

目次

第1章　概要 1

1.1　パッキングリスト 1

1.1.1　GV-VS02 1

1.1.2　GV-VS02A 1

1.1.3　GV-VS12 2

1.1.4　GV-VS04A 2

1.2　システム要件 3

1.3　PoEサポート 3

1.4　GPSサポート 3

1.5　オプション 4

1.6　各部の説明 5

1.6.1　前面 5

1.6.2　背面 9

第2章　はじめに 13

2.1　ネットワーク機器の接続 13

2.2　IPアドレスを指定する 13

2.3　基本設定 15

第3章　GV-Video Serverにアクセスする 16

3.1　監視映像にアクセスする 16

3.2　メインページにある機能 17

3.2.1　ライブ表示ウィンドウ 17

3.2.2　ライブ表示ウィンドウのコントロールパネル 19

3.2.3　ライブ映像のスナップショット 20

3.2.4　ビデオ録画 20

3.2.5　ピクチャインピクチャとピクチャアンドピクチャ表示 20

3.2.6　アラーム通知 23

3.2.7　映像と音声設定 24

3.2.8　リモート設定 24

3.2.9　カメラ名表示 25

3.2.10　イメージ補正 25

3.2.11　PTZコントロール 26

3.2.12　ビジュアルPTZ 27

3.2.13 I/Oコントロール 28
3.2.14 ビジュアルI/O 29
3.2.15 ネットワークステータス 29

第4章 管理者モード 30

4.1 ビデオ&モーション 32
4.1.1 マルチキャスト 32
4.1.2 ビデオ設定 34
4.1.3 モーション検知設定 38
4.1.4 プライバシーマスク 39
4.1.5 テキスト表示 40
4.1.6 撮影環境変化アラーム 41
4.1.7 ビジュアルI/O 43
4.1.8 映像チャンネルソース設定 44
4.2 デジタルI/OとPTZ 45
4.2.1 PTZ設定 45
4.2.2 I/Oコントロール 46
4.2.3 GPS/Wiegand 48
4.2.4 ブザー 50
4.3 イベントと警告 51
4.3.1 電子メール 51
4.3.2 FTP 53
4.3.3 Center V2 55
4.3.4 VSM 57
4.3.5 GV-GIS 59
4.3.6 バックアップセンター 61
4.3.7 ビデオゲートウェイ 63
4.3.8 ViewLogサーバー 64
4.3.9 3GPP 64
4.4 モニタリング設定 65
4.5 録画スケジュール 66
4.5.1 録画スケジュールの設定 66
4.5.2 I/Oモニタリング設定 67
4.6 リモートViewLog 67
4.7 ネットワーク 68
4.7.1 LAN 68
4.7.2 無線クライアントモード 70
4.7.3 TCP/IP 72

4.7.4 UMTS 74
4.7.5 マルチキャスト 75
4.7.6 IPフィルタ 77
4.8 管理 78
4.8.1 日付と時刻設定 78
4.8.2 GPSマップ設定 80
4.8.3 保存設定 81
4.8.4 ユーザーアカウント 83
4.8.5 ログ情報 84
4.8.6 システムログ 84
4.8.7 ツール 86
第 5 章 録画と再生 87
5.1 録画 87
5.2 再生 87
5.2.1 USB大容量記憶装置デバイスを使った再生 88
5.2.2 Remote ViewLogを利用した再生 89
5.2.3 GPSトラックの再生 90
5.2.4 サマータイムイベントの再生 92
第6章 高度なアプリケーション 93
6.1 システムファームウェアのアップグレード 93
6.1.1 Webインターフェースを使用する 94
6.1.2 IPデバイスユーティリティを使用する 95
6.2 バックアップおよび復元設定 96
6.2.1 設定をバックアップする 96
6.2.2 設定を復元する 97
6.3 GPSトラッキング 98
6.4 工場出荷時の既定値に復元する 100
6.5 電子透かしを検証する 101
6.5.1 AVIファイルにアクセスする 101
6.5.2 Watermark Proofを実行する 101
6.5.3 Watermark Proofウィンドウ 102
第7章 DVR設定 103
7.1 IPカメラの設定 104
7.2 ビデオサーバーからカードホルダデータを受信する 108
7.3 MultiViewを使用してのリモートモニタリング 109

7.4 E-Mapを使ってリモートモニタリング 111

第8章 CMS設定 113

8.1 Center V2 113
8.2 VSM 115
8.3 ディスパッチサーバー 116

第9章 補助デバイスコネクタ 117

9.1 GV-VS02、GV-VS02AおよびGV-VS04A 117
9.1.1 ピンの割り当て 117
9.1.2 リレーアウトプット 118
9.2 GV-VS12 119
9.2.1 PINの割り当て 119
9.2.2 RS-232ターミナルブロック 120

第10章 携帯電話接続 121

10.1 PDA 122
10.1.1 GView V2をインストールする 122
10.1.2 GView機能を有効にする 122
10.1.3 GV-Video Serverに接続する 123
10.1.4 GV-Video Serverから録画を再生する 124
10.1.5 その他の機能 125
10.2 Windowsスマートフォン 130
10.2.1 MSView V2 / V3をインストールする 130
10.2.2 MSView V2 / V3機能を有効にする 130
10.2.3 GV-Video Serverに接続する 130
10.2.4 GV-Video Serverから録画を再生する 132
10.2.5 その他の機能 132
10.3 Symbianスマートフォン 133
10.3.1 SSView V3をインストールする 133
10.3.2 SSView V3機能を有効にする 134
10.2.3 GV-Video Serverに接続する 134
10.3.4 クイック接続 135
10.3.5 GV-Video Serverから録画を再生する 135
10.3.6 その他の機能 135
10.4 3G携帯電話 136
10.4.1 3G携帯電話機能を有効にする 136
10.4.2 GV-Video Serverに接続する 136

仕様 138
映像 138
オーディオ 138
管理 138
ネットワーク 139
パワーオーバーイーサネット 139
コネクタ 139
アラーム 139
付録 141
A　サポートされる無線LAN USBアダプタ 141
B　サポートされるモバイルブロードバンドデバイス 141
C　Internet Explore 8 の設定 142

第 1 章 概要

GV-Video Server は、アナログカメラの映像をネットワーク上に配信します。IPカメラと同様にデジタル映像をインターネットによってリアルタイムで視聴することが可能です。 GV-Video Server とアナログカメラとが接続された環境下で、Web ブラウザを通して、カメラ映像を見ることができます。また GV-Video Server と GV-System を接続することによって、お手持ちの監視システムをアップグレードし、新しいIP監視システムネットワークを構築することが可能になります。

1.1 パッキングリスト

1.1.1 GV-VS02

図 1-1

1. AC 電源コード x 1
2. DC オス-オス コネクタ x 1
3. 電源アダプタ x 1
4. ウォールフック x 1
5. Conical Anchor x 4
6. ネジ x 4
7. GV-Video Server ソフトウェア DVDx 1
8. GV-Video Server ユーザーズマニュアル x 1

1.1.2 GV-VS02A

図 1-2

1. AC 電源コード x 1
2. DC オス-オス コネクタ x 1
3. 電源アダプタ x 1
4. ウォールフック x 1
5. Conical Anchor x 4
6. ネジ x 4
7. GV-Video Server ソフトウェア DVDx 1
8. GV-Video Server ユーザーズマニュアル x 1

1.1.3 GV-VS12

図 1-3

1. AC 電源コード x 1
2. 電源アダプタ x 1
3. I/O ケーブル(RJ-45 コネクタ x1 付き)
4. ウォールフック x 1
5. Conical Anchor x 2
6. ネジ x 4
7. ステッカー(位置決め conical anchor 用) x1
8. GV-Video Server ソフトウェア DVDx 1
9. GV-Video Server ユーザーズマニュアル x 1

1.1.4 GV-VS04A

図 1-4

1. AC 電源コード x 1
2. DC オス-オス コネクタ x 1
3. 電源アダプタ x 1
4. ウォールフック x 1
5. Conical Anchor x 4
6. ネジ x 4
7. 3.5 mm ステレオ-RCA ケーブル x 2
8. GV-Video Server ソフトウェア DVDx 1
9. GV-Video Server ユーザーズマニュアル x 1
10. DC 1 オス-4 メスケーブル (GV-Video Server からカメラに電源を供給) -----オプション

1.2 システム要件

Microsoft Internet Explorer 6.x 以降

注：Internet Explorer 8 をお使いの場合、Security Settings（セキュリティ設定）を設定する必要があります。必要な設定が行われていない場合、GV-Video Server にアクセスできません。*付録 C* をご覧ください。

1.3 PoEサポート

PoE（パワーオーバーイーサネット）には、以下が含まれます:

- GV-VS02（ハードウェアバージョン 2.0）、GV-VS02A、GV-VS12、GV-VS04A。

POE（パワーオーバーイーサネット）機能を使用する場合、以下の点に注意してください。

- I/O ターミナル機能は作動しません。装置の背面パネルにある I/O ターミナルブロックには、いかなるデバイスも接続しないでください。
- 録画用に使用するとき、USB ストレージには外部電源装置が必要となります。

PoE アダプタを購入する前に、本マニュアルで後述する *仕様*の「パワーオーバーイーサネット」を参照してください。

1.4 GPSサポート

GPS レシーバーに取り付けた GV-Video Server により、Google マップの車両追跡を実行できます。
GPS 機能をサポートするモデル:

- GV-VS02（ハードウェアバージョン 2.0）、GV-VS02A、GV-VS12、GV-VS04A

GV-GPS Receiver には、UART と RS-232 の 2 種類のインターフェースがあります。

- **UART:**GV-VS02（ハードウェアバージョン 2.0）、GV-VS02A、GV-VS04A
- **RS-232:** GV-VS12

1.5 オプション

オプションデバイスにより、GV-Video Server の機能が拡張され、用途も広がります。詳細については、お問い合わせ下さい。

GV-GPS Receiver	GV-GPS Receiver は、車両追跡と位置確認機能を実行でききる GPS（全地球測位システム）です。UART と RS-232 の、2 種類のインターフェースを利用できます。
GV-Reader	GV-Reader には、送受信アンテナと電子機器が含まれています。Wiegand 技術と RS-485 出力を共にサポートしており、どの標準アクセスコントロールパネルにも対応しています。
GV-Relay V2	GV-Video Server 接続時、5 ボルト以上のリレー出力の負荷を動かすことができます。
GV-Storage System	iSCSI システムでは、インターネットを介してファイルを記録します。

1.6 各部の説明

本章では、GV-Video Server の各コンポーネントについて説明します。

1.6.1 前面

1.6.1.1 GV-VS02

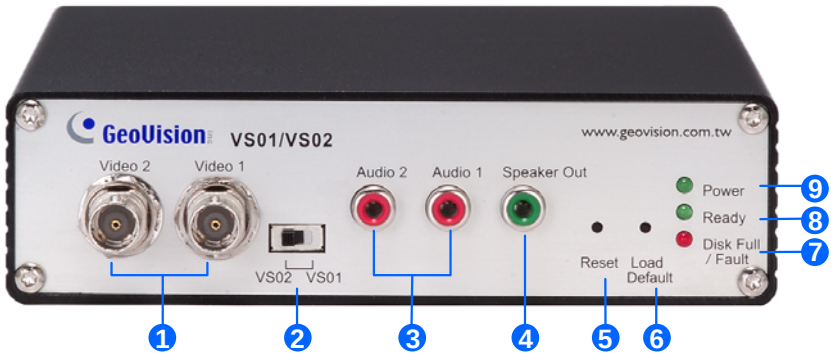

図 1-5

No.	名前	機能
1	映像入力	映像入力用 BNC コネクタ x 2
2	ビデオストリームスイッチ	このスイッチは、ライブ表示での 2 カメラモード用としてデザインされたものです。スイッチの設定によって次のように切替ります。 **VS01** では、Video1のデュアルストリームが表示されます。 **VS02** では、Video1と Video2 が同時に表示されます。 設定を変更後は、必ず GV-Video Server を再起動してください。
3	音声入力	音声入力用コネクタ x 2
4	スピーカー出力	スピーカーデバイス用コネクタ x 1
5	リセットボタン	GV-Video Server を再起動します。
6	デフォルトボタン	すべての設定パラメータを工場出荷時設定にリセットします。 *6.4 工場出荷時のデフォルト設定に復元する*を参照してください。
7	Disk Full/Fault LED	LED が点灯している場合、ハードドライブの空き領域が少ない、またはドライブ故障の可能性があります。
8	Ready LED	LED が点灯している場合、GV-Video Server の接続準備ができたことを示しています。
9	Power LED	LED が点灯している場合、電力が供給されていることを示しています。

1.6.1.2 GV-VS02A

図 1-6

No.	名前	機能
1	映像入力	映像入力用 BNC コネクタ x 2
2	音声入力	音声入力用コネクタ x 2
3	スピーカー出力	スピーカーデバイス用コネクタ x 1
4	リセットボタン	GV-Video Server を再起動します。
5	デフォルトボタン	すべての設定パラメータを工場出荷時設定にリセットします。 *6.4 工場出荷時のデフォルト設定に復元する*を参照してください。
6	Disk Full/Fault LED	LED が点灯している場合、ハードドライブの空き領域が少ない、またはドライブ故障の可能性があります。
7	Ready LED	LED が点灯している場合、GV-Video Server の接続準備ができたことを示しています。
8	Power LED	LED が点灯している場合、電力が供給されていることを示しています。

1.6.1.3 GV-VS12

図 1-7

No.	名前	機能
1	USB ポート	ポータブル保存デバイス接続用 USB ポート x 1
2	スピーカー出力	スピーカーデバイス用コネクタ x 1
3	音声入力	音声入力用コネクタ x 2
4	映像入力	映像入力用 BNC コネクタ x 2

1.6.1.4 GV-VS04A

図 1-8

No.	名前	機能
1	映像入力	映像入力用 BNC コネクタ x 4
2	スピーカー出力	スピーカーデバイス用コネクタ x 1
3	音声入力	音声入力用コネクタ x 2
4	リセット	GV-Video Server を再起動します。
5	デフォルトボタン	すべての設定パラメータを工場出荷時設定にリセットします。 *6.4 工場出荷時のデフォルト設定に復元する*を参照してください。
6	Disk Full/Fault LED	LED が点灯している場合、ハードドライブの空き領域が少ない、またはドライブ故障の可能性があります。
7	Ready LED	LED が点灯している場合、GV-Video Server の接続準備ができたことを示しています。
8	Power LED	LED が点灯している場合、電力が供給されていることを示しています。

1.6.2 背面

1.6.2.1 GV-VS02

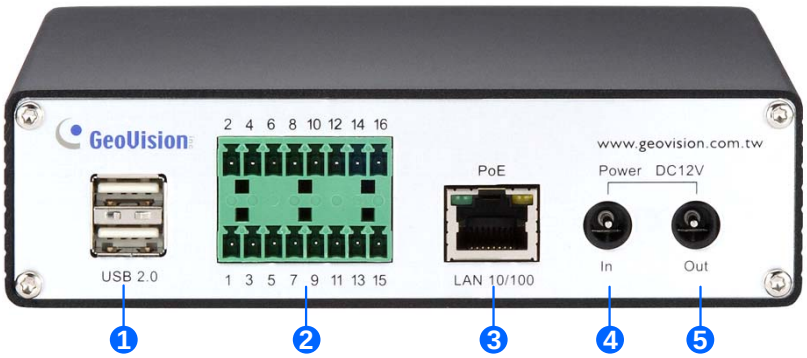

図 1-9

No.	名前	機能
1	USB ポート	ポータブル保存デバイス接続用 USB ポート x 2
2	イーサネットポート	イーサネットケーブル接続コネクタ x 1
3	端子台	デジタル入力、リレー出力、PTZ カメラ、Wiegand デバイス、GPS モジュールコントロール。*第 9 章 補助デバイスコネクタ*を参照してください。 GPS 機能は GV-VS02 (ハードウェアバージョン 2.0)でのみ利用可能です。
4	電源入力	入力用のプラグ
5	電源出力	出力用のプラグ この電源出力は、DC オス-メス電源スプリッターケーブル(オプションのケーブル)でカメラの電源をオンにするために使用できます。

1.6.2.2 GV-VS02A

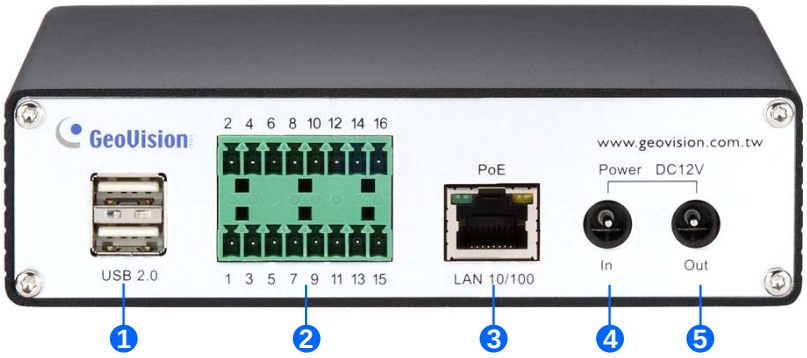

図 1-10

No.	名前	機能
1	USB ポート	ポータブル保存デバイス接続用 USB ポート x 2
2	端子台	デジタル入力、リレー出力、PTZ カメラ、Wiegand デバイス、GPS モジュールコントロール。*第 9 章 補助デバイスコネクタ*を参照してください。
3	イーサネットポート	イーサネットケーブル接続コネクタ x 1
4	電源入力	入力用のプラグ
5	電源出力	出力用のプラグ この電源出力は、DC オス-メス電源スプリッターケーブル（付属していません）を使ってカメラの電源をオンにするために使用できます。

1.6.2.3 GV-VS12

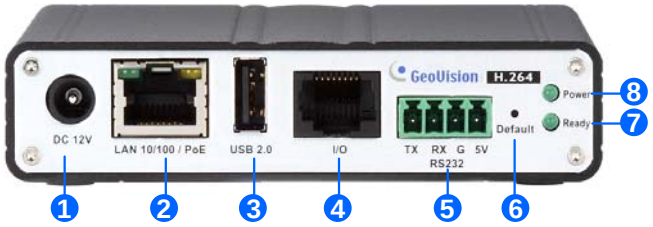

図 1-11

No.	名前	機能
1	電源入力	入力用のプラグ
2	イーサネットポート	イーサネットケーブル接続コネクタ x 1
3	USB ポート	ポータブル保存デバイス接続用 USB ポート x 2
4	I/O / PTZ ポート	デジタル入力、リレー出力および PTZ カメラコントロール用ポート。RJ-45 コネクタ付き I/O ケーブルをこのポートに挿入します。*第 9 章 補助デバイスコネクタ*を参照してください。
5	RS-232 ターミナルブロック	GPS モジュールコントロール用コネクタ。*第 9 章 補助デバイスコネクタ*を参照してください。
6	デフォルトボタン	すべての設定パラメータを工場出荷時設定にリセットします。 *6.4 工場出荷時のデフォルト設定に復元する*を参照してください。
7	Ready LED	LED がオンの場合、GV-Video Server の接続準備ができたことを示しています。
8	Power LED	LED がオンの場合、電力が供給されていることを示しています。

1.6.2.4 GV-VS04A

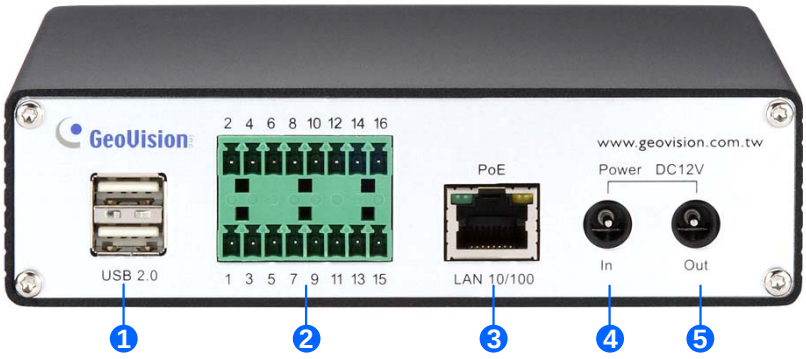

図 1-12

No.	名前	機能
1	USB ポート	ポータブル保存デバイス接続用 USB ポート x 2
2	端子台	デジタル入力、リレー出力、PTZ カメラ、Wiegand デバイス、GPS モジュールコントロール。*第 9 章 補助デバイスコネクタ*を参照してください。
3	イーサネットポート	イーサネットケーブル接続コネクタ x 1
4	電源入力	入力用のプラグ
5	電源出力	出力用のプラグ この電源出力は、DC オス-メス電源スプリッターケーブル（オプションのアクセサリ）を使ってカメラの電源をオンにするために使用できます。

第 2 章　はじめに

本章では、GV-Video Server をネットワーク上で操作するための基本的な設定方法について説明します。

2.1　ネットワーク機器の接続

ここでは、GV-Video Server をネットワーク上に接続するための、基本的なハード周辺機器の接続方法について説明します。ここでは、例として GV-VS02 を使用します。

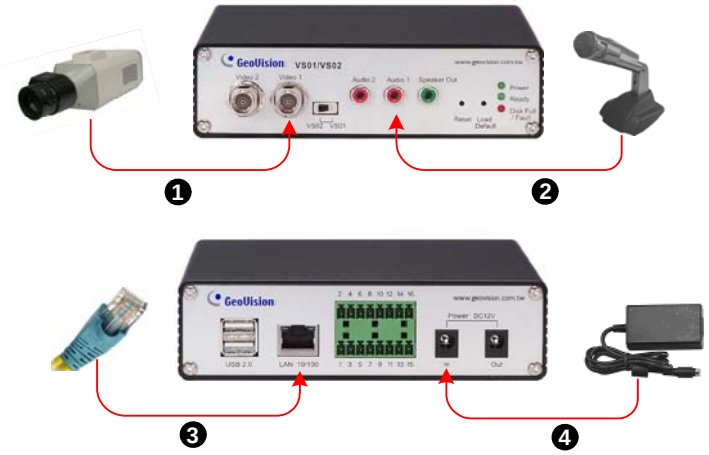

図 2-1

1. ご利用のカメラの映像出力を、BNC 映像入力に接続します。
2. ご利用の音声ソースを RCA 音声入力に接続します。
3. LAN のハブまたはスイッチのケーブルを、10/100Mbps ポートに接続します。
4. 電源供給を電源入力に接続します。
5. Power LED と Ready LED が点灯後、装置の IP アドレスを設定します。

2.2　IPアドレスを指定する

GV-Video Server は、ネットワークにて利用できるよう設計されているため、必ず IP アドレスを設定し、アクセス可能な状態にしておく必要があります。

注：GV-Video Server は既定の IP アドレス **192.168.0.10** が設定されています。 IP アドレス設定に利用するコンピュータは、装置に指定したものと同じネットワークまたは IP である必要があります。

---

1. ウェブブラウザを開き、既定のIPアドレスhttp://192.168.0.10を入力します。
2. ログインとパスワードフィールドの両方に、初期値の **admin** を入力します。**Apply（適用）**をクリックします。
3. 左のメニューから、**Network（ネットワーク）**次に **LAN** を選択してネットワークの設定を行います。

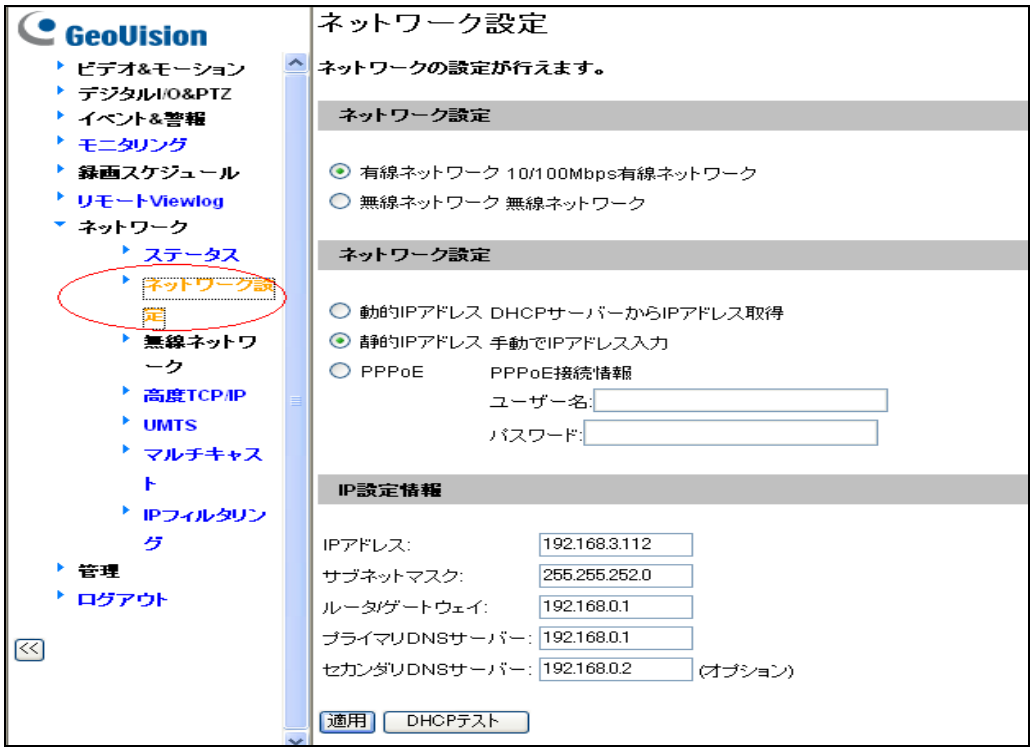

図 2-2

4. **[Static IP address]（静的 IP アドレス）**の選択：**[IP 設定情報]**セクションに、IP アドレス、サブネットマスク、ルーター/ゲートウェイ、プライマリ DNS およびセカンダリ DNS を入力します。
5. **Apply（適用）**をクリックします。Web ブラウザで割り当てられた IP アドレスを入力することで、GV-Video Server にアクセスできます。

重要：

- **［Dynamic IP Address］（動的 IP アドレス）、[PPPoE]**を有効にするためには、GV-Video Server が DHCP サーバー、または ISP のどの IP アドレスを取得するか把握している必要があります。もしくは、あらかじめ Dynamic DNS サービスを利用し、GV-Video Server の動的 IP アドレスに関連付けられたドメイン名を取得する必要があります。

  Dynamic DNS サーバー設定の詳細については、*4.7.3 TCP/IP* を参照してください。

- **［Dynamic IP Address］（動的 IP アドレス）、[PPPoE**］が有効になっているにもかかわらず、装置にアクセスすることができない場合は、一度工場出荷時の既定値にリセットし、再度ネットワーク設定を行う必要があると考えられます。

  工場出荷時のデフォルト設定に戻す場合は、**1.5.1 前面**の *Default（既定）*ボタンを参照してください。

2.3 基本設定

ブラウザベースの設定ページから基本機能について設定できます。これらの機能については、当マニュアルの以下の各セクションで説明します。

- **日付/時刻調整:** *4.8.1 日付と時刻の設定を参照してください。*
- **ログインと特権パスワード:** *4.8.4 ユーザーアカウントを参照してください。*
- **ネットワークゲートウェイ:** *4.7 ネットワークを参照してください。*
- **カメラ画像の調整:** *3.2.2 ライブ表示ウィンドウのコントロールパネルを参照してください。*
- **ビデオフォーマット、解像度およびフレームレート:** *4.1.2 ビデオ設定を参照してください。*

第 3 章　GV-Video Serverにアクセスする

GV-Video Server にログインできるユーザーの種類は、次の 2 つになります。**[Administrator]（管理者）**、**[Guest]（ゲスト）**。管理者ユーザーは全設定へのアクセス権がありますが、ゲストユーザーはライブ映像やネットワークステータスなどへの限定的なアクセス権となります。

3.1　監視映像にアクセスする

設定が完了すると、GV-Video Server はネットワーク上でアクセスすることができるようになります。以下のステップに従って、監視映像にアクセスします。

1. Internet Explorer ブラウザを起動します。
2. ブラウザの**[Location/Address]（場所/アドレス）**フィールドに、GV-Video Server の IP アドレスまたはドメイン名を入力します。

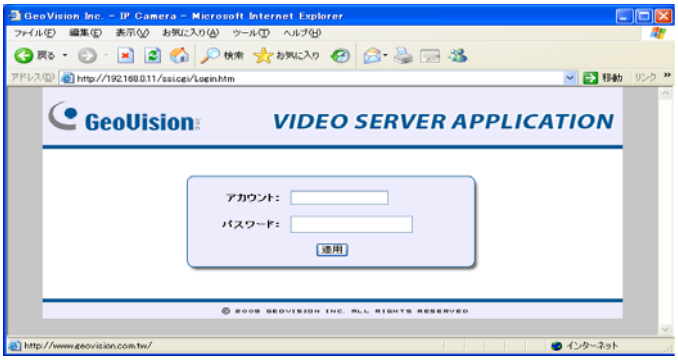

図 3-1

3. ログイン名とパスワードを入力します。
   - 管理者の既定のログイン名とパスワードは、**admin** です。
   - ゲストの既定のログイン名とパスワードは、**guest** です。
4. ブラウザにビデオ映像が表示されます。（図 3-2）

注： マイクロソフトインターネットエクスプローラでビデオ映像の表示をさせるために、ブラウザの Active X コントロールの許可と、GeoVision の ActiveX コンポーネントをコンピュータにインストールする必要があります。

3.2 メインページにある機能

本項では、メインページの**ライブ表示**ウィンドウと**ネットワークステータス**の機能について説明します。管理者とゲストは、2 つの機能にアクセスできます。

ゲストモードのメインページ

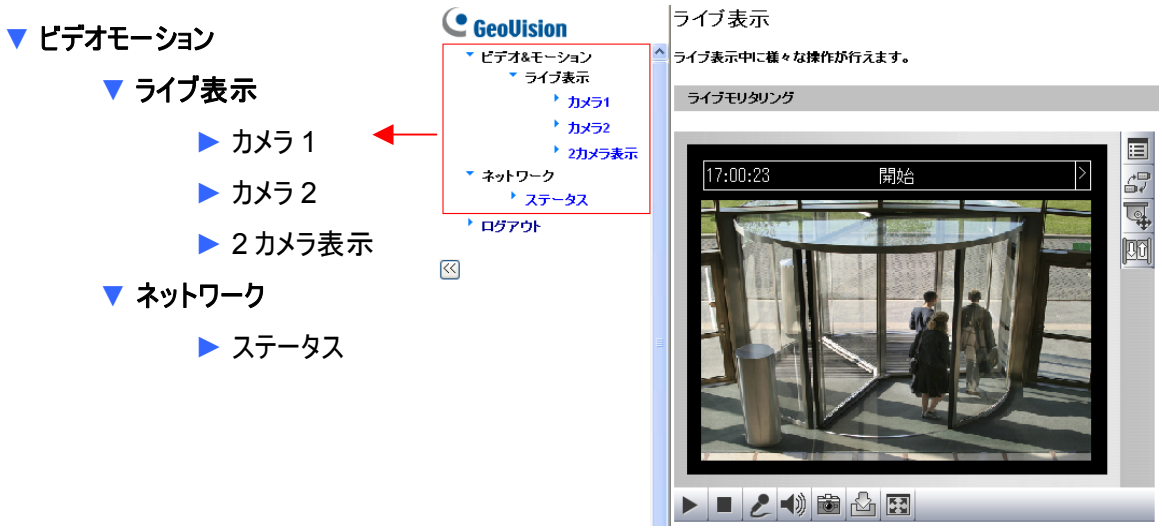

図 3-2

3.2.1 ライブ表示ウィンドウ

左のメニューから **Live View（ライブ表示）**をクリックし、**Camera 1（カメラ 1）**、**Camera 2（カメラ 2）**、または **2 Cameras（2つのカメラ）**を選択してライブ映像を選択します。

注: Camera 1（カメラ1）のデュアルストリーミングを得るためには、装置の Video Stream Switch（ビデオストリームスイッチ）を VS01 にセットしておく必要があります。この機能は GV-VS02 でのみご利用になれます。

図 3-3

No.	名前	機能
1	再生	ライブ映像を表示します。
2	停止	ライブ映像を停止します。
3	マイク	マイク機能の ON/OFF を設定します。
4	スピーカー	スピーカー機能の ON/OFF を設定します。
5	スナップショット	ライブ映像のスナップショットを撮ります。--- *3.2.3　ライブ映像のスナップショット*を参照してください。
6	ファイルの保存	ライブ映像をローカルコンピュータに録画します。--- *3.2.4　ビデオ録画*を参照してください。
7	フルスクリーン	フルスクリーン表示に切り替えます。画像を右クリックすると、**Snapshot（スナップショット）**、**PIP**、**PAP**、**Zoom In（ズームイン）**、**Zoom Out（ズームアウト）**などのオプションが表示されます。 --- *3.2.5　ピクチャインピクチャとピクチャアンドピクチャ表示*を参照してください。
8	I/O コントロール	I/O コントロールパネルまたはビジュアル自動化を開始します。 --- *3.2.13　I/O コントロール*を参照してください。
9	PTZ コントロール	PTZ コントロールパネルまたはビジュアル PTZ を開始します。 --- *3.2.11 PTZ コントロール*と *3.2.12 ビジュアル PTZ* を参照してください。
10	カメラの変更	表示するカメラを選択します。
11	システムメニューの表示	次のメニューが表示されます。**Alarm Notify（アラーム通知）**、**Video and Audio Configuration（映像と音声設定）**、**Remote Config（遠隔設定）**、**Show Camera Name（カメラ名称表示）**、**Image Enhance（画像補正）**。--- *3.2.6 アラーム通知*、*3.2.7 映像と音声設定*、*3.2.8 遠隔設定*、*3.2.9 カメラ名称表示*、*3.2.10 画像補整*をそれぞれ参照してください。

3.2.2 ライブ表示ウィンドウのコントロールパネル

ライブ表示ウィンドウのコントロールパネルを開くには、ビューア上部にある矢印ボタンをクリックします。コントロールパネルの右または左矢印ボタンを使って、次の機能にアクセスすることができます。

矢印ボタンをクリックして、コントロールパネルを表示します。

図 3-4

[情報] ビデオサーバー、コンピュータのローカル時刻、ビデオサーバーのホスト時刻、およびビデオサーバーにログインしているユーザー数を表示します。

[映像] 現在のビデオコーデック、解像度およびデータ転送速度を表示します。

[音声] マイクとスピーカーデバイスが有効時、音声データ転送速度を表示します。

[I/O コントロール] 入出力ステータスをリアルタイムで表示します。このアイコンをダブルクリックすることで、出力を強制的にトリガーすることができます。

[アラーム通知] センサートリガーおよびモーション検出により、キャプチャされた画像を表示します。この機能を使うには、まず[アラーム通知]設定を有効にする必要があります。*3.2.6 アラーム通知を参照してください*。

[カメラ調整] 画像品質を調整します。

[GPS] 詳細については、*6.3 GPS トラッキング*を参照してください。

[ダウンロード] ハードドライブからプログラムをインストールします。

3.2.3 ライブ映像のスナップショット

ライブ映像のスナップショットを撮るには、以下の手順を行ってください。

1. **Snapshot (スナップショット)**ボタン (No. 5、図 3-3)をクリックします。Save As（名前を付けて保存）ダイアログボックスが表示されます。
2. **Save in (保存先)**を指定し、**File name (ファイル名)**を入力したら、**Save as Type (タイプの名前を付けて保存)**として **JPEG** または **BMP** を選択します。画像に名前と日付スタンプを表示するかどうかを選択することができます。
3. **Save (保存)**ボタンをクリックし、ローカルコンピュータに映像を保存します、

3.2.4 ビデオ録画

ライブ映像をローカルコンピュータに一定期間録画することができます。

1. **File Save (ファイル保存)**ボタン(No. 6、図 3-3)をクリックします。Save As(名前を付けて保存)ダイアログボックスが表示されます。
2. **Save in (保存先)**を指定し、**File name (ファイル名)**を入力し、**Time Period (期間)**スクロールバーを動かして映像クリップの長さを 1～5 分の間で指定します。
3. **Save (保存)**ボタンをクリックして録画を開始します。
4. 録画を停止するには、**Stop (停止)**ボタン(No. 2、図 3-3)をクリックします。

3.2.5 ピクチャインピクチャとピクチャアンドピクチャ表示

フルスクリーンモードでは、**PIP (ピクチャインピクチャ)**と **PAP (ピクチャアンドピクチャ)**の 2 つの種類のクローズアップ表示を選択できます。2 種類の表示は、監視領域の明瞭で詳細な画像を表示する上で役に立ちます。

この機能にアクセスするには:

- **Full Screen (フルスクリーン)**ボタン(No. 7、図 3-3)をクリックします。フルスクリーンを右クリックして、**PIP** と **PAP** のオプションを表示します。
- ライブ表示を右クリックして、**PIP** と **PAP** のオプションを表示します。

ピクチャインピクチャ表示

PIP (ピクチャインピクチャ)表示では、映像がクローズアップまたはズームインで表示されるように、映像をトリミングすることができます。

図 3-5

1. **PIP** を選択します。挿入ウィンドウが開きます。
2. 挿入ウィンドウをクリックします。ナビゲーションダイアログボックスが表示されます。
3. 挿入ウィンドウのどこかにナビゲーションボックスを移動すると、選択した領域がクローズアップ表示されます。
4. ナビゲーションボックスサイズを調整するには、カーソルをボックスの隅の方に移動しボックスを拡大または縮小します。
5. PIP 表示を終了するには、画像を右クリックし、**PIP** を再びクリックします。

ピクチャアンドピクチャ表示

PAP (ピクチャアンドピクチャ)表示では、複数の画像をクローズアップ表示して分割映像効果を出すことができます。合計 7 つのクローズアップ表示を定義できます。

図 3-6

1. **PAP** を選択します。下部に挿入ウィンドウが 3 列に表示されます。
2. 画像の上にナビゲーションボックスを描画すると、選択したこの領域が挿入ウィンドウに直ちに反映されます。最大 7 つのナビゲーションボックスを描画できます。
3. ナビゲーションボックスサイズを調整するには、カーソルをボックスの隅の方に移動しボックスを拡大または縮小します。
4. ナビゲーションボックスを画像の別の領域に移動するには、その領域までドラッグします。
5. ナビゲーションボックスのフレームの色を変えたりボックスを非表示にするには、画像を右クリックし、**Mega Pixel Setting (メガピクセル設定)**を選択し、以下のオプションのどれかをクリックします。
   - **PAP モードのフォーカス領域の表示:** 画像のナビゲーションボックスを表示/非表示を切り替えます
   - **フォーカス領域の色の設定:** ボックスフレームの色を変更します。
6. ナビゲーションボックスを削除するには、目的のボックスを右クリックし、**Focus Area of PAP Mode (PAP モードのフォーカス領域)**を選択して **Delete (削除)**をクリックします。
7. PAP 表示を終了するには、画像を右クリックし、**PAP** を再びクリックします。

3.2.6 アラーム通知

インプットトリガーとモーション検出の後、ポップアップライブ映像で警告が出され、キャプチャされた画像が最大 4 つ表示されます。

図 3-7

この機能を設定するには、**Show System Menu (システムメニューの表示)**ボタン(No. 11、図 3-3)をクリックして、**Alarm Notify (アラーム通知)**を選択します。次のダイアログボックスが表示されます。

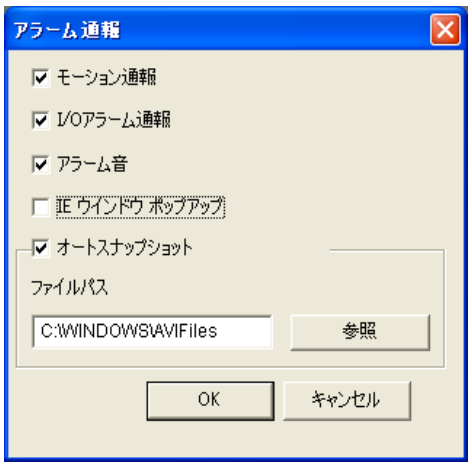

図 3-8

- **モーション通知**: モーションが検出されると、キャプチャされた画像はライブ表示ウィンドウのコントロールパネルに表示されます。
- **I/O アラーム通知**: 入力デバイスがトリガーされると、キャプチャされた画像はライブ表示ウィンドウのコントロールパネルに表示されます。この機能が動作するように、管理者は入力デバイスを適切に接続する必要があります。*4.2.2 I/O コントロール設定*を参照してください。
- **アラーム音**: 動作とインプットトリガー検出時のコンピュータのアラームを有効にします。
- **IE Window ポップアップ:** モーションおよびインプットトリガー検出時に、最小化されたライブ表示ウィンドウがポップアップ表示されます。

- **オートスナップショット**: モーションおよびインプットトリガー検出時、5 秒ごとにライブ映像のスナップショットを撮影します。
- **ファイルパス**: スナップショットを保存するフォルダを設定します。

3.2.7 映像と音声設定

マイクとスピーカーを有効にして双方向音声通信を行ったり、音量を調整することができます。音声設定を変更するには、**Show System Menu (システムメニューの表示)**ボタン(No. 11、図 3-3)をクリックして、**Video and Audio Configuration (映像と音声設定)**を選択します。

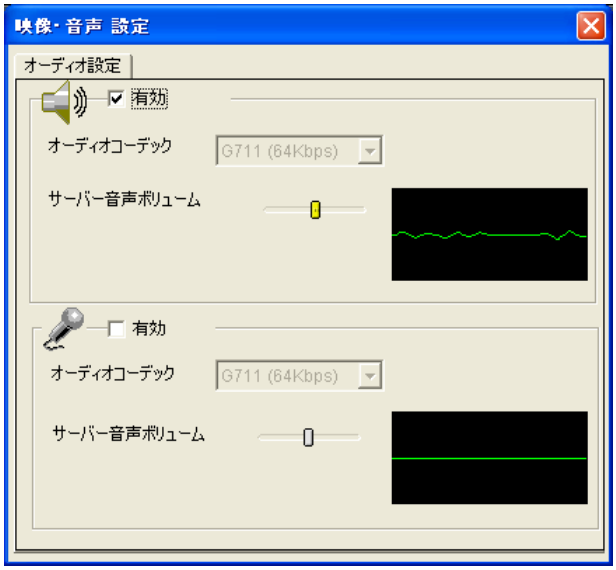

図 3-9

3.2.8 リモート設定

インターネット上で、中央モニタリングステーションの接続ステータスを表示したりファームウェアをアップグレードできます。**Show System Menu (システムメニューの表示)**ボタン(No. 11、図 3-3)をクリックして、**Remote Config (遠隔設定)**を選択します。Remote Config (遠隔設定)ダイアログボックスが表示されます。

[ステータス] このタブでは、CenterV2 や VSM への接続ステータスを表示します。

[ファームウェアアップグレード] このタブで、ネットワークを介してファームウェアをアップグレードすることができます。詳細については、*第 6 章「高度なアプリケーション」*を参照してください。

3.2.9 カメラ名表示

映像にカメラ名を表示させる場合、**Show System Menu（システムメニューの表示）**ボタン（No. 11、図 3-3）をクリックして、**Show Camera Name（カメラ名称表示）**を選択します。

3.2.10 イメージ補正

ライブ映像の画質を補正する場合、**Show System Menu（システムメニューの表示）**ボタン（No. 11、図 3-3）をクリックして、**Image Enhance（画像補正）**を選択します。次のダイアログボックスが表示されます。

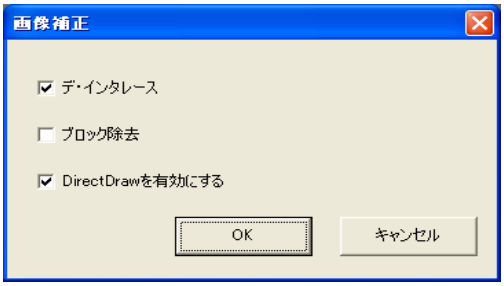

図 3-10

- **デ・インターレース**：インターレース映像を、デインターレースした画像にします。
- **ブロック除去**：低画質映像を高圧縮映像にすることで、ブロック境界を取り除きます。
- **Directdraw を有効にする**：DirectDraw 機能を有効にします。

3.2.11 PTZコントロール

PTZ コントロールパネルを開くには、**PTZ Control (PTZ コントロール)**ボタン(No. 9、図 3-3)をクリックし、**PTZ Control Panel (PTZ コントロールパネル)**を選択します。PTZ デバイスはそれぞれ違う機能を持っています。このため、**Option (オプション)**に含まれる機能表示は、必ずしも同じとは限りません。

この機能は、管理者があらかじめ PTZ を設定している場合にのみ利用できます。詳細については、*4.2.1 PTZ の設定*を参照してください。

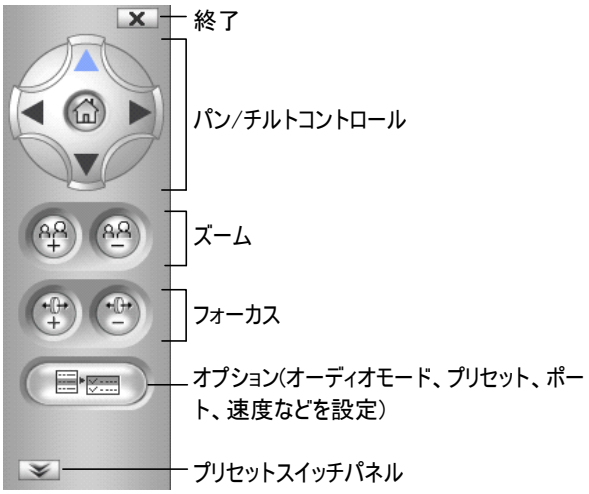

図 3-11

3.2.12 ビジュアルPTZ

PTZ コントロールパネルだけでなく、画像にビジュアル PTZ コントロールパネルを表示できます。この機能は、管理者があらかじめ PTZ を設定している場合にのみ利用できます。詳細については、*4.2.1 PTZ の設定*を参照してください。

図 3-12

- この機能にアクセスするには、**PTZ Control (PTZ コントロール)**ボタン(No.9、図 3-3)をクリックし、**Visual PTZ (ビジュアル PTZ)**を選択します。
- パネル設定を変更する場合は、上部左隅の緑の**[PTZ]**ボタンをクリックします。
  PTZ Control Type (PTZ コントロールタイプ)のオプションが表示されます。
  - **タイプ 1**: このモードで、マウスの矢印を 4 つの方向、上下左右に置くと、速度インジケータが 5 つのレベルで表示されます。要求される移動レベルをクリックしながらドラッグすると、カメラは指定した速度で移動します。
  - **タイプ 2**: このモードでマウスをクリックすると、PTZ コントロールパネルが表示されます。カメラの動きは、マウスの動きの速度によって変わります。

  [設定] (Configure)
  - **色設定**: パネルの色を変更します。選択できる色は次の 3 色です:**Red (赤)**、**Green (緑)**、**Blue (青)**。
  - **透明の度合い**: パネルの透明レベルを調整します。レベルは 10% (完全に透明)から 100% (完全に不透明)まで変更できます。

3.2.13 I/Oコントロール

I/O コントロールウィンドウは、カメラと I/O ステータス、アラームイベントをリアルタイムで表示します。更に、アウトプットがトリガーされるように強制することもできます。

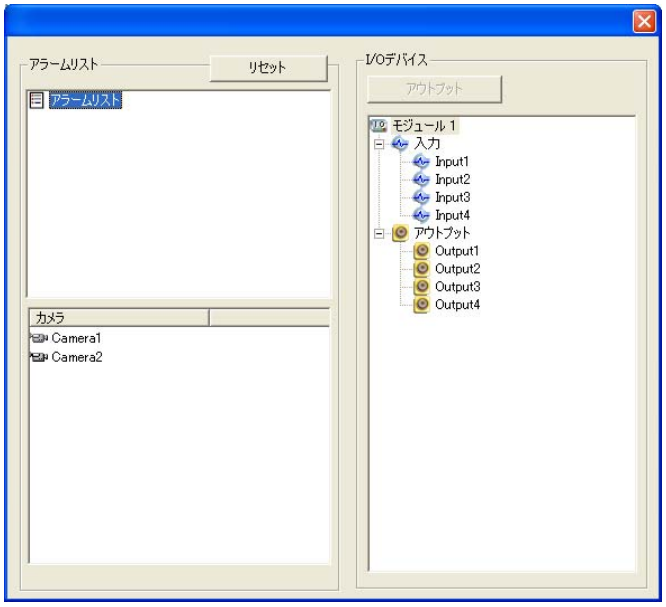

図 3-13

- I/O コントロールウィンドウを表示するには、**I/O Control (I/O コントロールボタン)**(No. 8、図 3-3)をクリックします。
- [アラームリスト]は、3 つのレベルで表示されます。最初のレベルは日付を示し、2 番目は時刻を、3 番目はアラーム ID を示します。**Reset (リセット)**ボタンをクリックすると、アラームリストが消去されます。
- アウトプットデバイスをトリガーするには、アウトプットをハイライトし、**Output (アウトプット)**ボタンをクリックします。

3.2.14 ビジュアルI/O

ビジュアル自動化は、画像をクリックするだけで電子デバイスの現在のステータス（電源を ON にするなど）を変更できるようにする機能です。この機能は、管理者があらかじめ[ビジュアル I/O]を設定している場合にのみ利用できます。詳細については、*4.1.7 ビジュアル I/O* を参照してください。

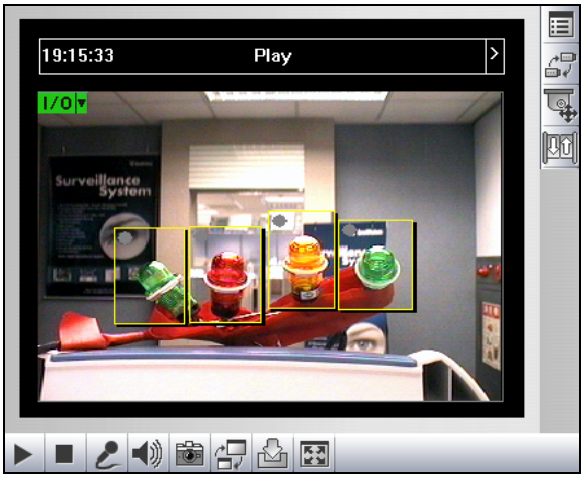

図 3-14

- この機能にアクセスするには、**I/O Control（I/O コントロール）**ボタン（No.8、図 3-3）をクリックし、**Visual Automation（ビジュアル I/O）**を選択します。
- 設定した領域のスタイルを変更する場合は、上部左隅の緑の**[I/O]**ボタンをクリックします。次のようなオプションがあります：
  - **すべて表示**：設定されたすべての領域を表示します。
  - **垂直フロート**：設定されたすべての領域を浮き出します。
  - **色設定**：設定されたすべての領域のフレーム色を変更します。

3.2.15 ネットワークステータス

ネットワークのステータスを参照する場合は、左メニューから **Network（ネットワーク）**をクリックして、**Status（ステータス）**を選択します。

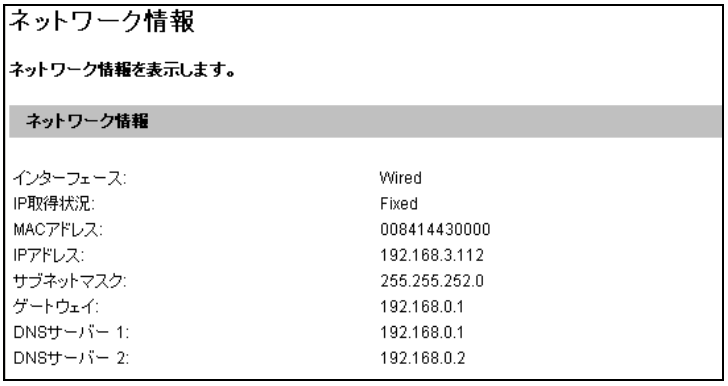

図 3-15

第 4 章　管理者モード

管理者は、インターネットを介してシステム設定にアクセスすることができます。ステム設定には、次の8つの設定カテゴリが存在します。**ビデオ&モーション、デジタル I/O と PTZ、イベントと警告、モニタリング設定、録画スケジュール、リモート ViewLog、ネットワーク、管理。**

- **▼ ビデオ&モーション**
  - ▶ ライブ表示
  - ▶ ビデオ設定
  - ▶ モーション検知設定
  - ▶ プライバシーマスク
  - ▶ テキスト表示
  - ▶ 撮影環境変化アラーム
  - ▶ ビジュアル自動化
  - ▶ 映像チャンネルソース設定
- **▼ デジタル I/O と PTZ**
  - ▶ I/O コントロール
  - ▶ PTZ 設定
  - ▶ GPS/Wiegand
  - ▶ ブザー
- **▼ イベントと警告**
  - ▶ 電子メール
  - ▶ FTP
  - ▶ Center V2
  - ▶ VSM
  - ▶ GV-GIS
  - ▶ バックアップセンター
  - ▶ ビデオゲートウェイ
  - ▶ ViewLog
  - ▶ 3GPP
- **▼ モニタリング**
- **▼ 録画スケジュール**
  - ▶ カメラ
  - ▶ I/O モニター
- **▼ リモート ViewLog**
- **▼ ネットワーク**
  - ▶ ステータス
  - ▶ LAN
  - ▶ 無線
  - ▶ 高度 TCP/IP
  - ▶ UMTS
  - ▶ マルチキャスト
  - ▶ IP フィルタリング
- **▼ 管理**
  - ▶ 日付&時刻
  - ▶ GPS マップ設定
  - ▶ 保存設定
  - ▶ ユーザーアカウント
  - ▶ ログ情報
- **▶ ツール**

図 4-1

主な機能の比較テーブル

Web インターフェース(図 4-1)左メニューのオプションまたは機能は、モデルによって異なることがあります。以下のテーブルでは、サポートされる機能の比較表になります。

モデル / 機能	GV-VS02 (ファームウェア V1.46)	GV-VS02A (ファームウェア V1.01 以降)	GV-VS04A (ファームウェア V1.0 以降)	GV-VS12 (ファームウェア V1.02 以降)
Wiegand	○	○	○	×
ブザー	×	○	○	×
マルチキャスト	○	○	○	×
撮影環境変化アラーム	×	○	○	○
ウォーターマーク	×	○	○	○
映像チャンネルソース設定	×	○	○	×
システムログ	×	○	○	○
バックアップセンター	×	○	○	○
ビデオゲートウェイ	×	○	○	○
GIS (2 つの接続を搭載)	×	○	○	○
テキスト表示	×	○	○	○
注: [ウォーターマーク]オプションはビデオ **Settings (設定)**ページに含まれています。				

4.1 ビデオ&モーション

このセクションでは、「ビデオ画像設定」について説明し、「マルチキャスト」、「モーション検知設定」、「プライバシーマスク」、「撮影環境変化アラーム」、「ビジュアル自動化」、「映像チャンネルソース設定」を利用した画像の管理方法を紹介します。

4.1.1 マルチキャスト

この機能は **GV-VS02** (ファームウェアバージョン 1.46 以降)、**GV-VS02A** (ファームウェアバージョン 1.01 以降)および **GV-VS04A** でのみご利用になれます。

「マルチキャスト」表示により、GV-Video Server はマルチキャストグループからビデオとオーディオストリームを受信できます。GV-Video Server はまた、マルチキャストグループのホストからオーディオブロードキャストを受信することもできます。

マルチキャストグループを結合しオーディオブロードキャストを聞き取るには、*4.7.5 マルチキャスト*で関連する設定をアクティブにする必要があります。

図 4-2

1. マルチキャストグループのホストは、ホストリストで自動的に表示されます。表示されたホストが見えない場合、**Configure (設定)**ボタンをクリックし、**General Setup (一般設定)**と **Multicast (マルチキャスト)**を順に選択し、関連する IP アドレス、ポート番号およびネットワークカードが正しく設定されていることを確認します。
2. 「ホスト」フォルダを展開し、希望のカメラを画面にドラッグして表示します。ホストにパスワードがすでに設定されている場合、このステップでパスワードを入力するように求められます。

3. オーディオブロードキャストを受信するには、まずスピーカーがローカルコンピュータに適切に取り付けられていることを確認します。それから、**Configure（設定）**ボタンをクリックし、**General Setup（一般設定）**と **Receive broadcast audio（ブロードキャストオーディオの受信）**を順に選択し、ブロードキャスト IP アドレスとポート番号が正しく設定されていることを確認します。
4. 将来使用するために画面区分とカメラ表示の現在設定を保存するには、**Configure（設定）**ボタンをクリックし、**Video List Setup（ビデオリスト設定）**と **Export（エクスポート）**を順に選択します。**Import（インポート）**を選択して定義済み設定を適用することもできます。

4.1.2 ビデオ設定

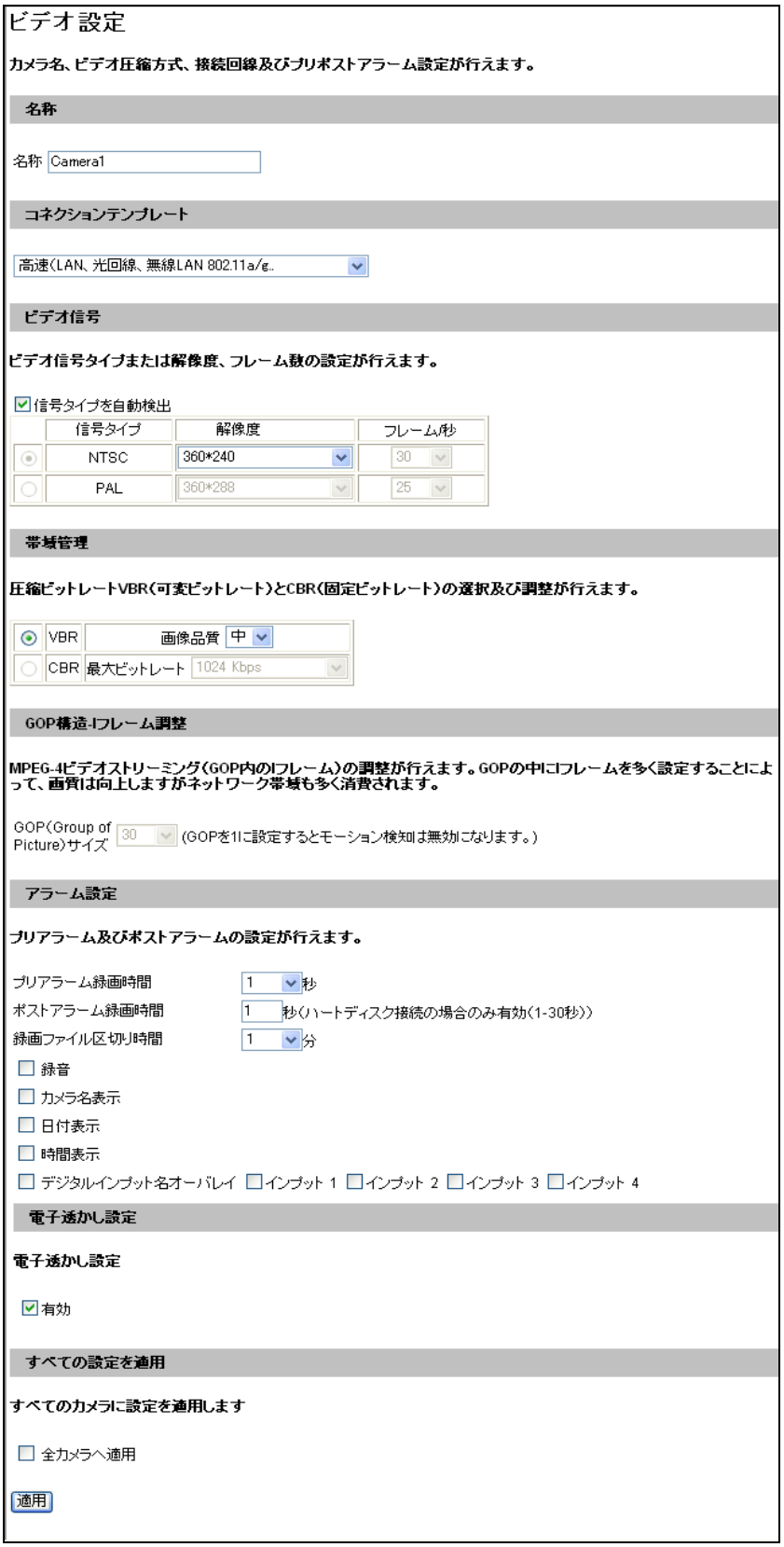

図 4-3

[名称]

カメラの名前を変更します。カメラ名は、Live View (ライブ表示)に表示されます。カメラの名称を表示するには、*3.2.9 カメラ名の表示*を参照してください。

[コネクションテンプレート]

ネットワークの接続タイプを選択します。**Customized (カスタマイズ)**以外では、自動的に推奨されたビデオ解像度、フレームレート、バンド幅、GOP サイズで設定されます

携帯電話(スマートフォン)接続の帯域幅限界により、360 x 240 (360 x 288)と 176 x 122 (176 x 144)のビデオ解像度のみサポートされます。高い解像度を選択すると、フレームレートが高くなるか、表示されるビデオ品質が高くなります。しかし、携帯電話で選択するビデオ解像度がサポートされている必要があります。

携帯電話(スマートフォン)接続の接続テンプレート:

GView V2 Supported	
解像度	**フレームレート**
NTSC 360 x 240	15
PAL 360 x 288	12.5
3GPPv7、Msview V2、Msview V3、Ssview V3、GView V2 Supported	
解像度	**フレームレート**
NTSC 360 x 240	7.5
PAL 360 x 288	8
3GPPv6, Msview V2、Msview V3、Ssview V3、GView V2 Supported	
解像度	**フレームレート**
NTSC 176 x 112	5
PAL 176 x 144	5

[ビデオ信号]

■ **信号タイプを自動検出**：映像入力の種類が NTSC、または PAL か自動的に検出します。

サポートされるコードは、モデルによって異なります。

モデル	コーデック
GV-VS02	MPEG4
GV-VS02A	MPEG4
GV-VS04A	MPEG4
GV-VS12	MPEG4、MJPEG、H.264
注：主なストリーミングタイプのドロップダウンリストは、GV-VS12 でのみ利用できます。	

映像の解像度を選択する際、4つのオプションがあります。

NTSC	PAL
720 x 480	720 x 576
720 x 480 デインターレース済み	720 x 576 デインターレース済み
360 x 240	360 x 288
176 x112	176 x 144

フレームレートの選択肢は次の通りです。

フォーマット	フレームレート
NTSC	1, 2, 3, 5, 7.5, 10, 15, 30
PAL	1, 2.5, 5, 8, 12.5, 25

[帯域管理]

MPEG-4 または H.264 を使用しているとき、ビットレートを制御し、それによって帯域幅の使用量を制御できます。

■ **VBR（可変ビットレート）**：ビデオストリームの品質は可能な限り一定に保たれていますが、その代わりビットレートは一定しません。CBR と比較すると、帯域幅をより有効に利用します。

画像品質の水準を次の 3 つのうち 1 つを設定します。**高、中、低。**

■ **CBR（固定ビットレート）**：CBR は、ストリームの品質を変えることによって、特定のビットレートを達成するために使用されます。選択できるビットレートは画像解像度によって異なります。

モデル	選択ビットレート
GV-VS02	3072 kbps、2048 kbps、1536 kbps、1024 kbps、768 kbps。 512 kbps、384 kbps、256 kbps、(3GPPV7)、 128 kbps (3GPPV7)、64 kbps (3GPPV6) 、52 kbps (3GPPV6)
GV-VS02A	
GV-VS04A	
GV-VS12	2048 kbps、1536 kbps、1024 kbps、768 kbps。 512 kbps、384 kbps、256 kbps、(3GPPV7)、 128 kbps (3GPPV7)、64 kbps (3GPPV6) 、52 kbps (3GPPV6)

[GOP 構造フレーム調整]

GOP 構造(GOP サイズリミット)内の最大フレーム数を設定します。この機能は、[コネクションテンプレート]で[カスタマイズ]を選択した場合にのみ利用できます。

[アラーム設定]

アラーム設定により、動作や I/O イベントが発生した前後の映像をキャプチャーすることができます。

- **プリアラーム録画時間**: イベント発生前に映像の録画を始めます。録画時間を 1 または 2 秒に設定します。
- **ポストアラーム録画時間**: イベント発生後、付属の USB 大容量記憶装置へのビデオ録画を有効にします。録画時間を 1 から 30 秒に設定します。
- **録画ファイル区切り時間**: 各イベントファイルの時間(1～5 分間)を決定します。
- **録音:** イベント発生時に音声記録を始めます。
- **カメラ名表示**: カメラ名をライブ映像と録画映像に表示します。
- **日付表示**: 日付スタンプをライブ映像と録画映像に表示します。
- **時間表示**: 時刻スタンプをライブ映像と録画映像に表示します。
- **デジタルインプット名表示**: 選択したインプット名をライブ映像と録画映像に表示します。

[電子透かし設定] すべての録画に電子透かしを入れるにはこのオプションを有効にします。電子透かしにより、ビデオが録画中または保存中に撮影環境が変化したかどうかを確認できます。*6.5 電子透かしを確認する*を参照してください。

[すべての設定を適用]

- **すべてのカメラに設定を適用:** 同じ設定を他のカメラに適用します。

4.1.3 モーション検知設定

モーション検知はビデオ画像に動きがあったとき、アラームを生成するために使用されます。モーション検知に対して、最大 8 つの領域を異なる感度値で設定できます。

図 4-4

1. 既定の感度値は、領域全体に対して 2 です。異なる感度値を定義するには、**[リセット]**をクリックします。
2. スライダーを使用し、目的の感度を選択します。3 つの値があります。値が高いほど、カメラは動作を敏感に感知します。
3. イメージ上でエリアをドラッグします。設定を確認するよう求められた場合は、**Add (追加)**をクリックします。
4. 異なる感度値で複数の領域を作成するには、ステップ 2 と 3 を繰り返します。
5. **Save (保存)**をクリックして設定を保存します。
6. 動作が検出されたときにアラーム出力をトリガーするには、アウトプット(アウトプット 1～アウトプット 4)を選択して、**Apply (適用)**ボタンをクリックします。アウトプット設定を達成するには、**Camera (カメラ)**モニタリングを手動で、またはスケジュールで開始する必要もあります。関連する設定については、*4.4 モニタリング*を参照してください。

注: GV-VS12 をお使いの場合、[ビデオ信号]フィールド(図 4-1)でコーデックとして MPEG が選択されているときこの機能は作動しません。詳細については、*4.1.2 ビデオ設定*を参照してください。

4.1.4 プライバシーマスク

プライバシーマスク機能を使用し、対象物をライブ表示/録画クリップの両方において、ブラックスボックスで覆い、閲覧できないようにブロックすることができます。この機能はディスプレイ、キーボードシーケンス(例：パスワード)のある場所、および機密情報を表示したくないロケーションに使用するのが最適です。

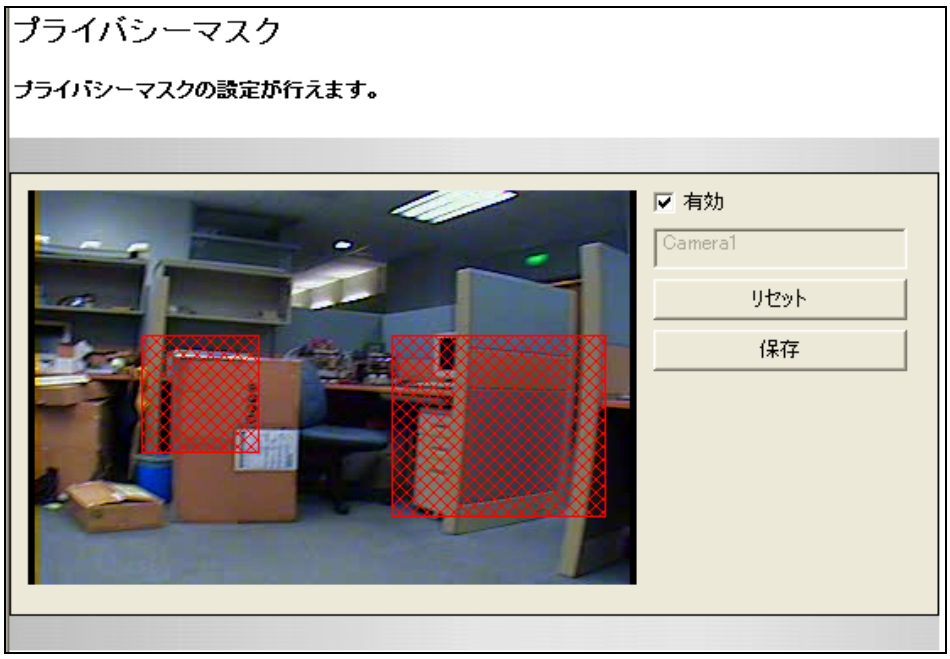

図 4-5

1. **Enable (有効)**オプションにチェックを入れます。
2. 映像をブロックアウトしたい領域をドラッグアウトします。設定を確認するダイアログが表示された場合、**Add (追加)**をクリックします。
3. **Save (保存)**ボタンをクリックして全ての設定を保存します。

4.1.5 テキスト表示

このオプションは **GV-VS02A** (ファームウェアバージョン 1.01 以降)、**GV-VS04A** および **GV-VS12**(ファームウェアバージョン 1.02 以降)でのみご利用になれます。

テキスト表示機能では、カメラ表示の任意の場所でテキストを入力できます。最大 16 のテキストメッセージを作成できます。表示されたテキストは、録画された画像でも保存されます。

図 4-6

1. **Enable (有効)**オプションにチェックを入れます。
2. 画像の任意の場所をクリックします。次のダイアログボックスが表示されます。

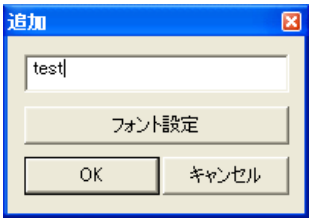

図 4-7

3. テキストを入力し、**OK** をクリックします。テキストが画像に表示されます。
4. テキストをクリックし、画像の任意の場所にドラッグします。
5. **Set Font (フォントの設定)**をクリックし、テキストのフォントスタイルを変更します。
6. **Save (保存)**をクリックして設定を適用するか、**Load (ロード)** (取り消し)をクリックして前の設定に戻します。

4.1.6 撮影環境変化アラーム

このオプションは **GV-VS02A** (ファームウェアバージョン 1.01 以降)、**GV-VS04A** および **GV-VS12**(ファームウェアバージョン 1.02 以降)でのみご利用になれます。

[撮影環境変化アラーム]は、カメラの撮影環境が物理的に変化したことを検出するために使用されます。カメラが移動したり、カバーを掛けられたり、フォーカスから外れると、アラームが鳴ります。アラームはトリガーされた出力デバイス、メール警告、システムブザーなどの場合に鳴ります。撮影環境変化アラームを有効にするには、まずこれらのアラームが鳴るように設定します。

- 撮影環境が変化したときに出力デバイスをトリガーするには、出力設定を有効にし、関連するカメラの**撮影環境変化アラーム**を選択します。*4.2.2 I/O コントロール設定の出力設定*を参照してください。
- 撮影環境が変化したときにメール警告をトリガーするには、メール設定を有効にし、関連するカメラの**撮影環境変化アラーム**を選択します。*4.3.1 電子メール*を参照してください。
- 撮影環境が変化したときにシステムブザーをトリガーするには、ブザー設定を有効にします。*4.2.4 ブザー*を参照してください。

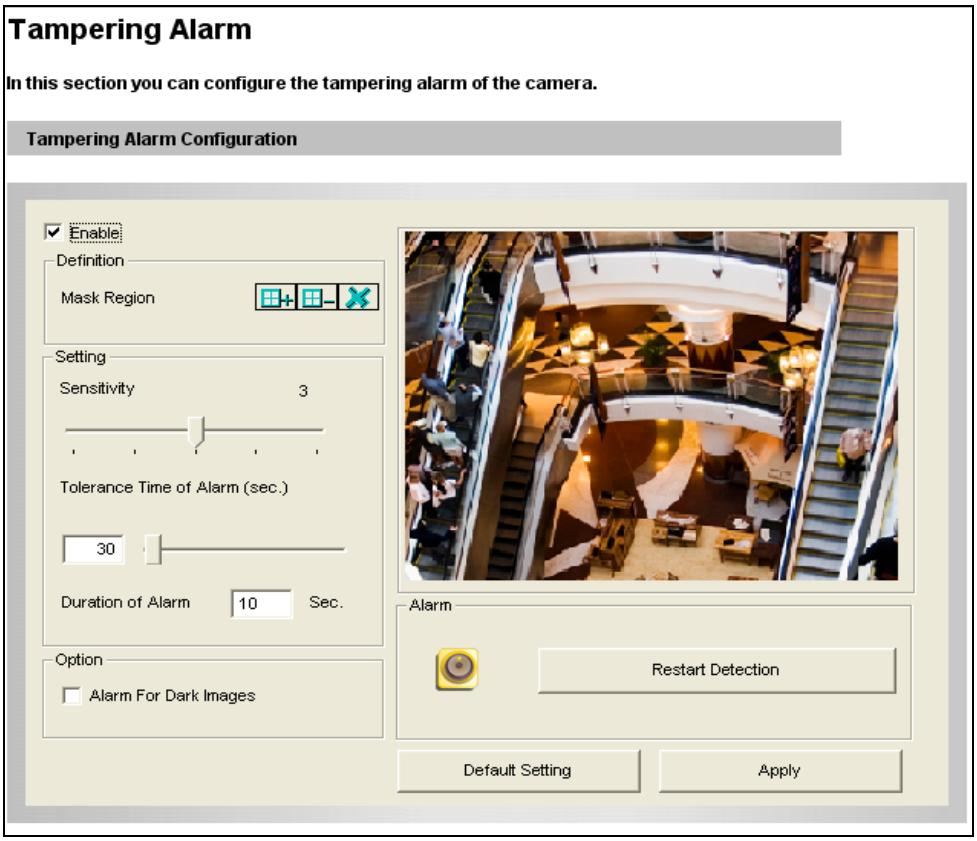

図 4-8

撮影環境変化アラームを設定するには:

1. **Enable (有効)**オプションにチェックを入れます。
2. GV-Video Server で特定エリアの動きやシーンの変化を無視するには、 ボタンをクリックしカメラ表示にエリアをドラッグします。
3. スライダーを使って、希望の検出感度を選択します。値が高ければ、それだけカメラは画面変化を敏感に感知します。
4. **アラームの許容時間**フィールドで、アラームが発生するまでに画面変化を許容する時間を指定します。
5. **アラームの間隔**フィールドで、トリガーされた出力デバイスやシステムブザーがオフになるまでのアラームの持続時間を指定します。
6. シーンが暗くなった時、例えばカメラのレンズにカバーが掛かったときにアラームをトリガーするには、**暗い画像の場合にアラーム**を選択します。
7. **Apply (適用)**をクリックしてすべての設定を保存します。
8. モニタリングを開始して機能を有効にします。ブザーアラームを有効にするには、**Camera (カメラ)**モニタリングを開始する必要があります。出力アラームを有効にするには、**Input (入力)**モニタリングを開始する必要があります。これら 2 つのタイプのモニタリングについては、*4.4 モニタリング*を参照してください。

カメラの撮影環境が変化したとき、出力デバイスとシステムブザーが起動します。出力デバイスとシステムブザーを直ちにオフにするには、この設定ページにもどり、**Restart Detection (検出の再起動)**をクリックします。

注: GV-VS12 はシステムブザーをサポートしていません。

4.1.7 ビジュアルI/O

ビジュアル自動化ボタン設定では、接続された出力をトリガーすることにより電子デバイスを自動化できます。電子デバイスの画像を直接クリックするだけで、簡単に現在の状態(例:ライト点灯)を変更できるようになります。

図 4-9

1. **Enable (有効)**オプションにチェックを入れます。
2. 電子デバイスの画像の領域をドラッグします。次のダイアログボックスが表示されます。

図 4-10

3. 接続されているモジュールと出力デバイスを指定します。[Note] (注)フィールドに、デバイスを管理する注釈を入力します。**[OK]**をクリックして設定を保存します。
4. 設定領域のフレーム色を変更するには、**Set Color (色指定)**ボタンをクリックします。
5. 設定領域を浮き出させるには、**Float Up (立体化)**オプションを選択してください。**Normal (通常)**オプションにチェックを入れとフラットを維持します。
6. **Save Set (設定の保存)**ボタンをクリックして設定を適用します。

機能を実行するには、*3.2.14 ビジュアル I/O* を参照してください。

4.1.8 映像チャンネルソース設定

このオプションは **GV-VS02A** (ファームウェアバージョン 1.01 以降)および **GV-VS04A** でのみ利用可能です。

この機能により、ビデオ入力を希望の映像チャンネルに割り当てて表示することができます。

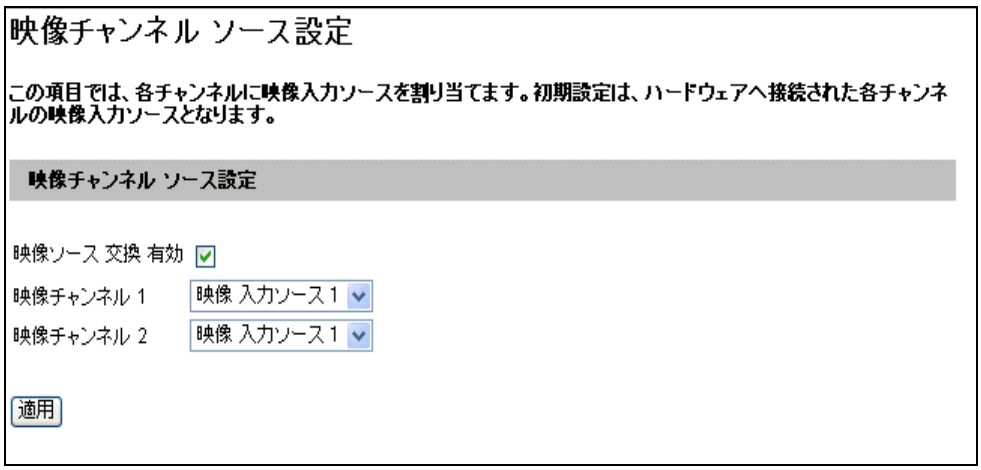

図 4-11

4.2 デジタルI/OとPTZ

補助デバイスコントロールの場合、**GV-VS12**（図 1-9 参照）.の背面パネルに GPS コントロール用の 1 つの RS-232 ターミナルブロックと 1 つの I/O / PTZ ポートがあります。または、**GV-VS02, GV-VS02A** and **GV-VS04A** の背面パネルの 16 ピンターミナルブロックに、補助デバイスコントロール用のすべての機能があります。詳しくは、*第 9 章 補助デバイスコネクタ*を参照してください。

すべてのモデルのすべてのターミナルブロック用コネクタと GV-VS12 の I/O / PTZ ポートは、使用するインターフェースに基づき 4 つのカテゴリに分類できます。

1. デジタル入力/リレー出力
2. PTZ コントロール用 RS-485 インターフェース
3. アクセスコントロール用 Wiegand インターフェース
   （GV-VS02、GV-VS02A、GV-VS04A で利用可能）
4. 車両追跡用 GPS インターフェース:
   - UART: GV-VS02（ハードウェアバージョン 2.0）、GV-VS02A、GV-VS04A で利用可能
   - RS-232: GV-VS12 で利用可能

4.2.1 PTZ設定

I/O ターミナルブロックの RS-485 インターフェースを通して、（モデルにより）2～4 つの PTZ カメラを接続することができます。PTZ カメラを GV-Video Server に追加する前に、インストールメニューの **Install PTZ（PTZ のインストール）**を選択することで、ソフトウェア DVD から PTZ コンポーネントをインストールする必要があります。この PTZ 設定ページを開いて、ボーレート、速度、アドレスを設定します。これらの機能については、PTZ のマニュアルを参照してください。

図 4-12

注：現在、GV-Video Server は、RS-232 インターフェースの PTZ カメラをサポートしていません。

4.2.2 I/Oコントロール

インプット設定

GV-Video Server が接続できるインプットデバイスの数は、モデルによって異なります。GV-VS02、GV-VS02A および GV-VS04A は最大 4 つのインプットデバイスに、GV-VS12 は最大 2 つのインプットデバイスに接続できます。

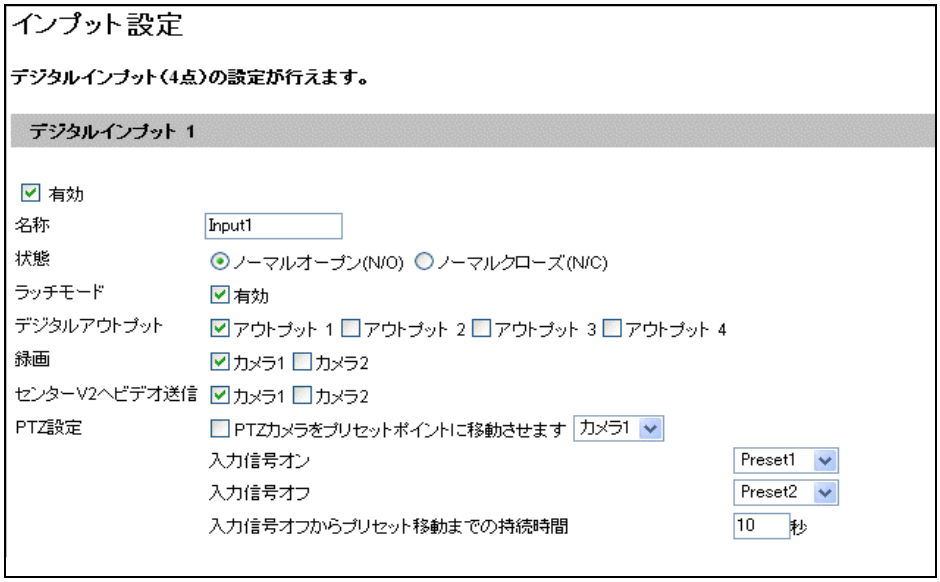

図 4-13

- **状態:** 動作をトリガーするためのインプット状態については、ノーマルオープン(N/O)またはノーマルクローズ(N/C)を選択して設定します。
- **ラッチモード:** このモードを有効にすると、瞬間的なアラームアウトプットが得られます。
- **デジタルアウトプット:** インプットがアクティブになったら、トリガーする出力を選択します。
- **録画:**インプットがアクティブになったら、録画を開始するカメラを選択します。
- **Center V2 へビデオ送信:** インプットがトリガーされたとき、画像を Center V2 に送信するカメラを選択します。

インプットトリガー時に、PTZ カメラをプリセットポイントに向けることができます。

- **PTZ カメラをプリセットポイントに設定:** プリセット機能を有効にし、PTZ カメラを表すカメラを選択します。
- **入力信号オン**: インプットがトリガーされたとき、PTZ カメラをプリセットポイントに向けます。
- **入力信号オフ**: トリガーされたインプットがオフになったとき、PTZ カメラを別のプリセットポイントに向けます。

■ **入力信号オフからプリセット移動までの持続時間:** 「インプットオフ」プリセットポイントに移動する前に、PTZ カメラが「インプットオン」プリセットポイントに留まる時間を指定します。

注: インプット設定は、**[Input] (インプット)**モニタリングを手動またはスケジュールによって起動した後でのみ機能します。インプットモニタリングを設定するには、*4.4 モニタリング*を参照してください。

PTZ の関連する設定については、*4.2.1 PTZ の設定*を参照してください。

アウトプット設定

GV-Video Server が接続できるアウトプットデバイスの数は、モデルによって異なります。GV-VS02、GV-VS02A および GV-VS04A は最大 4 つのアウトプットデバイスに、GV-VS12 は最大 2 つのアウトプットデバイスに接続できます。

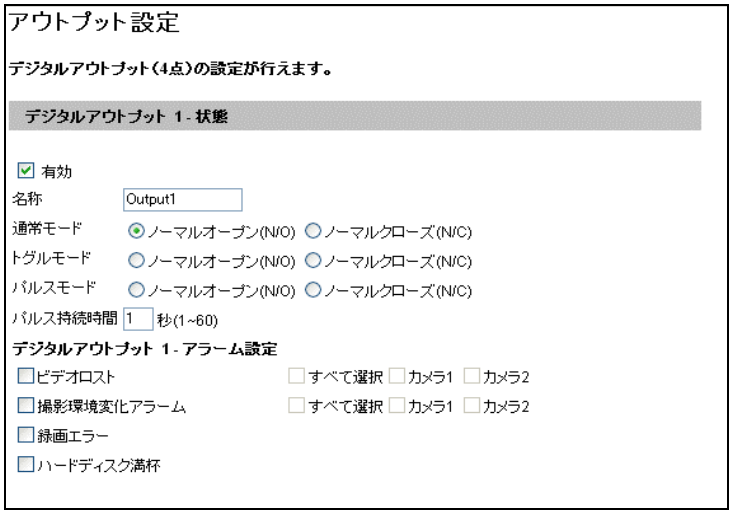

図 4-14

Enable (有効)オプションを選択して、アウトプットデバイスを有効にします。使用しているデバイスにもっとも適したアウトプット信号を選択します。N/O(開放回路)、N/O(接地回路)、N/O トグル、N/C トグル、N/O パルス、N/C パルス。**Toggle (トグル)**アウトプットの場合、一度トリガーされると次にトリガーされるまでアウトプットはオンになった状態を保ちます。**Pulse (パルス)**アウトプットタイプの場合、アウトプットは x 秒フィールドのトリガーパルスモードで指定した時間トリガーされます。

■ **アラーム設定:**

このオプションは **GV-VS02A**、**GV-VS04A** および **GV-VS12** でのみ利用可能です。

ビデオロスト、撮影環境変化アラーム、ディスク書き込みエラー(録画エラー)、ハードディスク満杯(HD Full)などの条件下では、アラーム用に設定されたアウトプットデバイスを自動的に有効にすることもできます。

4.2.3 GPS/Wiegand

GPS または Wiegand 機能のどちらを使用するか選択できます。2 つの機能を同時に有効にすることはできません。

図 4-15

GPS 機能

この機能は **GV-VS02A** (ハードウェアバージョン 2.0)、**GV-VS02A**、**GV-VS04A** および **GV-VS12** でのみ利用可能です。

GPS 機能を有効にするには、UART または RS-232 インターフェースをサポートする GV-GPS モジュールまたは GPS モジュールをまず GV-Video Server に接続する必要があります。*第 9 章 補助デバイスコネクタ*を参照してください。

- **GPS ボーレートの選択:** 4800 および 9600 の 2 つのボーレートオプションを利用できます。初期値は 9600 です。
- **GPS 更新間隔の設定:** GPS データの場合、更新間隔を秒で設定します。

GPS 機能が有効になると、Google マップで GV-Video Server のロケーションを表示できるようになります。*6.3 GPS トラッキング*を参照してください。モニタリングも有効になると、GPS 追跡ルートはビデオと共に記録されます。これにより、GV-System で追跡ルートとビデオを一緒に再生することができます。*5.2.3 GPS 追跡ルートの再生*を参照してください。

Wiegand 機能

この機能は **GV-VS02**、**GV-VS02A** および **GV-VS04A** でのみ利用可能です。

GV-Video Server は、Wiegand インターフェースカードリーダーと連動し、映像やカード所有者情報を中央モニタリングステーションの Center V2 や VSM、GV-System (DVR)に送信します。さらに、カードリーダーがトリガーされたり有効なカードがカードリーダーに挿入されると、GV-Video Server の Wiegand ポートをインプットとして使用して録画を有効にすることができます。

GV-Video Server がサポートしている Wiegand の出力フォーマットは、HID スタンダード 26 ビットと 37 ビットです。

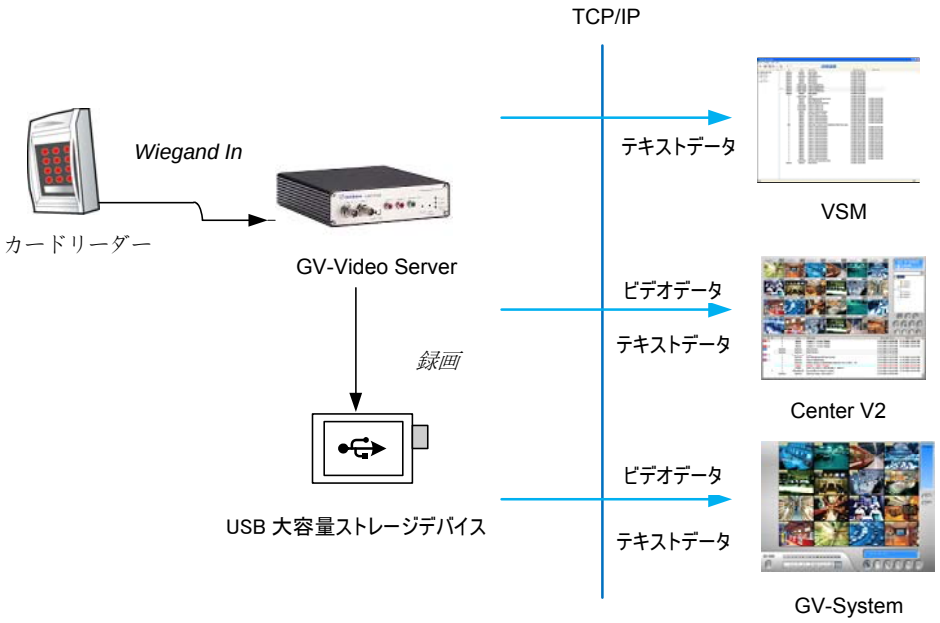

図 4-16

- **Center V2、VMS またはDVRにカード番号を送る**: カードリーダーがトリガーされると、カード所有者情報を Center V2、VSM または GV-System に送信します。
- **Wiegand デバイスがトリガーされるときに、ビデオを Center V2 や DVR に送信する:** 選択したカメラは GV-Video Server で記録を開始し、カードリーダーがトリガーされると関連するビデオも Center V2 や GV-System に送信されます。

注: GV-Video Server からカードホルダデータを受信するには、8.2 以降のバージョンの GV-System を使う必要があります。

関連する設定については、*4.3.3 Center V2*、*4.3.4 VSM*、*7.2 ビデオサーバーからカードホルダデータを受信する*を参照してください。

4.2.4 ブザー

この機能は **GV-VS02A** (ファームウェアバージョン 1.01 以降)および **GV-VS04A** でのみ利用可能です。

システムブザーは画像ロスト、インプットデバイスのトリガー、モーション検知、ディスク容量不足、ディスク書き込みエラー、撮影環境変化アラームなどの条件下で自動的に有効にすることもできます。ブザー音の間隔を **5 秒**、**10 秒**、**20 秒**、**30 秒**に設定することができます。ブザーをオンにするには、**On (オン)**を選択し、ブザーをオフにするには **Off (オフ)**を選択します。

ブザーを作動するには、モニタリングを開始する必要があります。モニタリングを開始するには、*4.4 モニタリング*を参照してください。

図 4-17

4.3 イベントと警告

動作検出や I/O トリガーなどのイベントに対して、管理者は 2 つのトリガーアクションを設定できます。

1. キャプチャされた静止画像を電子メールまたは FTP で送信します。
2. 映像またはテキスト警告により中央モニタリングステーション、Center V2、VSM または GV-GIS に通知します。

上記のトリガーアクションを利用するには、下記の機能を設定しておく必要もあります。

- [モーション検知設定] (*4.1.3 モーション検知設定*を参照)--- オプション
- インプット設定(*4.2.2 I/O コントロール設定*を参照)
- 電子メールや FTP 警告は、モニタリングを開始しておく必要があります。(*4.4 モニタリング*を参照)

注: [モーション検知設定]機能は、既定で有効にされてからはオプションの設定となっています。

4.3.1 電子メール

トリガーイベントの後、GV-Video Server はキャプチャされた静止画像を含む電子メールを、リモートユーザーに送信できます。

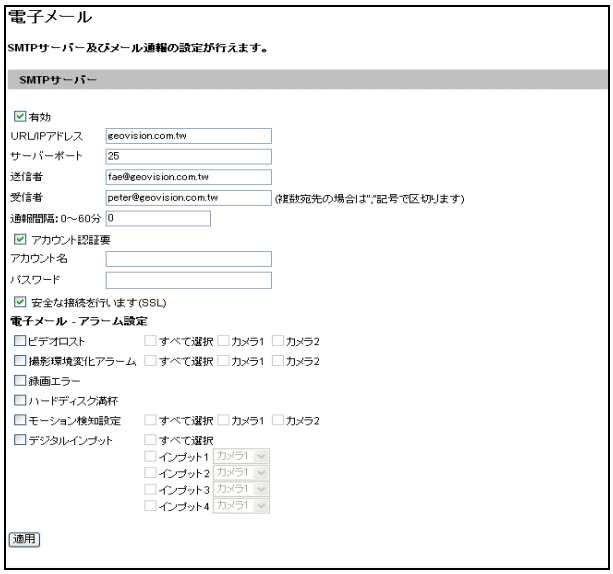

図 4-18

[Enable (有効)] 選択して、電子メール機能を有効にします。

- **URL/IP アドレス**: SMTP サーバーの URL アドレスまたは IP アドレスを入力します
- **サーバーポート**: SMTP サーバーのポート番号を入力します。または既定値の 25 を使用します。
- **発信者**: 送信者の電子メールアドレスを入力します。

- **受信者**: 警告の送り先となる電子メールアドレスを入力します。
- **通報間隔**: 電子メール警告の発信時間間隔を指定します。発信間隔は、0～60 分の間で設定できます。この間隔の間にトリガーされるイベントはすべて無視されるため、このオプションはたびたび起こるイベントの場合役に立ちます。

[アカウント認証要] SMTP サーバーが認証を必要とする場合は、このオプションを選択し、許可されたユーザー名とパスワードを入力します。

[このサーバーは安全な接続を必要とする] SMTP サーバーが安全な接続(SSL)を必要とする場合、このオプションを選択してください。

[アラーム設定] ビデオロスト、撮影環境変化アラーム、ディスク書き込みエラー(録画エラー)、ハードディスク満杯(HD full)などの条件下では、アラーム通知用に電子メールを自動的に送信にすることもできます。

注:

1. **このサーバーは安全な接続を必要とする**オプションは、GV-VS02A (ファームウェアバージョン 1.01 以降)、GV-VS04A および GV-VS12 (ファームウェアバージョン 1.02 以降)でのみご利用になれます。
2. **アラーム設定**オプションは GV-VS02A、GV-VS04A および GV-VS12.でのみ利用可能です。

電子メール警告送信の関連設定については、*4.1.3 モーション検知設定*、*4.2.2 I/O コントロール設定*、*4.4 モニタリング*を参照してください。

4.3.2 FTP

キャプチャされた静止画像をリモート FTP サーバーに送信します。

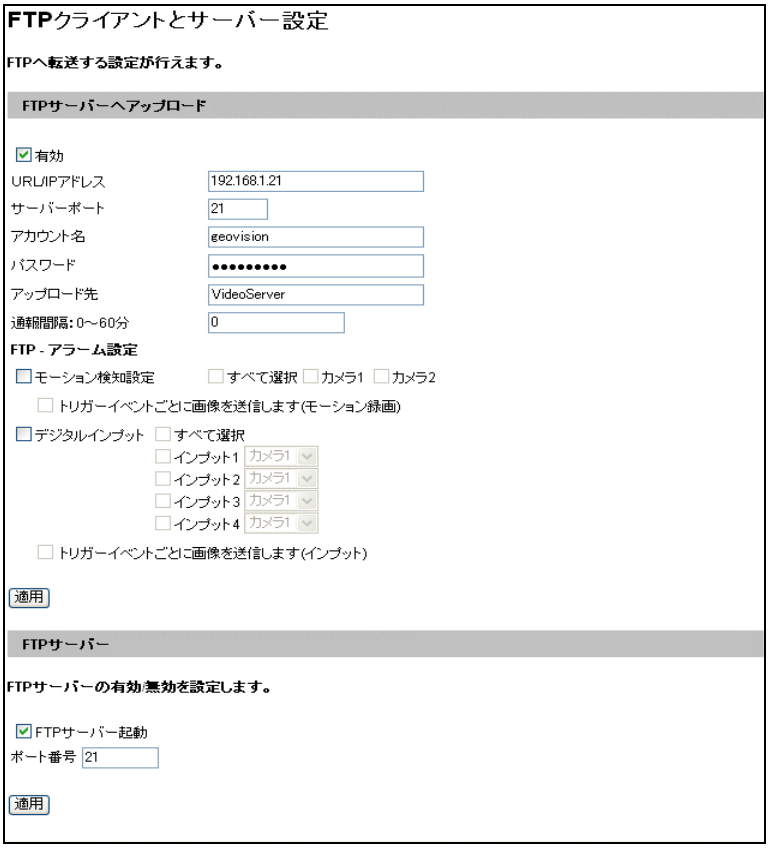

図 4-19

[FTP サーバーへアップロード]

- **Enable（有効）**: 選択し、FTP 機能を有効にします。
- **Sever URL/IP Address（URL/IP アドレス）**: FTP サーバーの URL アドレスまたは IP アドレスを入力します
- **ポート番号**: FTP サーバーのポート番号を入力します。または既定値の 21 を使用します。
- **ユーザー名**: FTP サーバーにログインするための有効なユーザー名を入力します。
- **パスワード**: FTP サーバーにログインするための有効なパスワードを入力します。
- **アップロード先**: FTP サーバー用のストレージフォルダ名を入力します。
- **通報時間**: FTP 警告の発信時間間隔を指定します。発信間隔は、0～60 分の間で設定できます。この間隔の間にトリガーされるイベントはすべて無視されるため、このオプションはたびたび起こるイベントの場合役に立ちます。

[アラーム設定]

- **モーション検知設定:** 選択したカメラでモーションが検出されると、静止画像が FTP サーバーに送信されます。
  - ⊙ **トリガーイベント時に画像を連続して送信する (モーション):** 選択したカメラでモーションが検出されると、一連のスナップショット画像が FTP サーバーにアップロードされます。
- **デジタルインプット:**選択したインプットがトリガーされると、**Camera 1 (カメラ 1)**の静止画像が FTP サーバーに送信されます。
  - ⊙ **トリガーイベント時に画像を連続して送信する (インプット):**選択したインプットがトリガーされると、**Camera 1 (カメラ 1)**の一連のスナップショット画像が FTP サーバーにアップロードされます。

注:デジタルインプットトリガーアプリケーションの場合、**Camera 1 (カメラ 1)**画像のみが FTP サーバーに送信されます。

- **スナップショット解像度:** (このオプションは GV-VS02A Firmware V1.0 でのみご利用になれます)。スナップショット画像の解像度には、D1 または CIF を選択してください。

[FTP サーバーとして機能する]

- **FTP サーバーの有効/無効を設定**: GV-Video Server を FTP サーバーとして機能させ、ユーザーが AVI ファイルをダウンロードできるようにします。
- **ポート番号**: 初期値のポートは 21 です。

Web ブラウザを通して内部 FTP サーバーにアクセスするには、以下のようにブラウザに GV-Video Server の IP アドレスまたはドメイン名を入力します。
ftp://192.168.0.10
ユーザー名とパスワードを求められたら、両方のフィールドに既定値の **videoserver** を入力します。トリガーイベントの後に録画された AVI ファイルが表示されます。

内部 FTP サーバーのログイン情報を変更するには、*4.8.5 ユーザーアカウント*を参照してください。FTP 警告送信の関連設定については、*4.1.3 I/O コントロール設定*、*4.2.2 I/O コントロール設定*と *4.4 モニタリング*を参照してください。

4.3.3 Center V2

動作を検出した場合や I/O デバイスがトリガーされた場合に、セントラルモニタリングステーション Center V2 はライブ映像やテキスト警告により通知を受けることができます。Center V2 を通したライブモニタリングについては、Center V2 で既に加入者アカウントを所有している必要があります。

注: インプットトリガーでビデオ警告を受信するには、バージョン 8.2 以降の Center V2 を使う必要があります。それ以前のバージョンの場合、Center V2 はインプットトリガーにテキスト警告しか含めません。

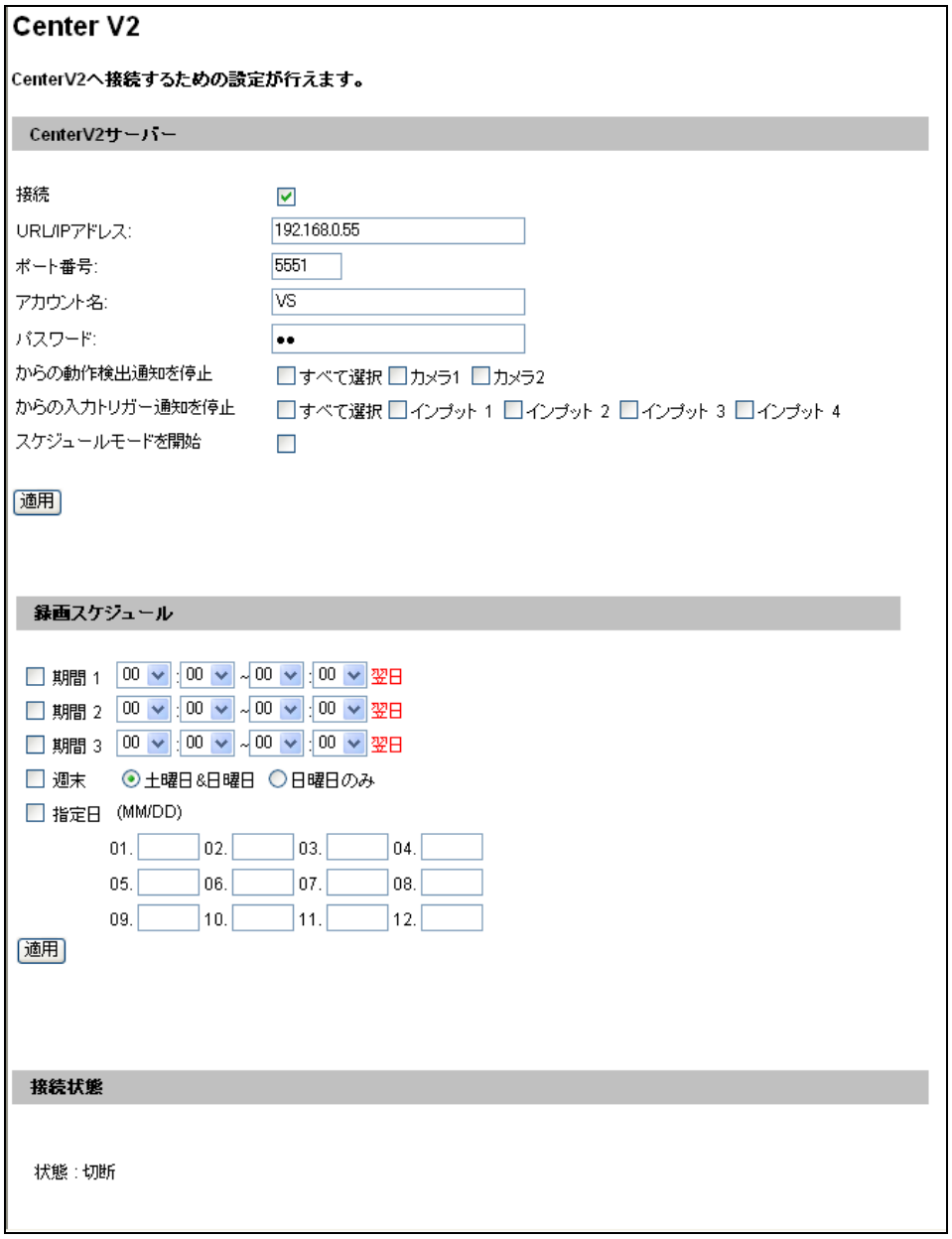

図 4-20

Center V2 接続を有効にする:

1. **接続**: Center V2 を通してモニタリングを有効にします。
2. **URI/IP アドレス**: Center V2 のホスト名、IP アドレスを入力します。
3. **ポート番号**: Center V2 でポートを**ポート 2** に合わせます。または初期値の 5551 を使用します。詳細は、*8.1 Center V2* を参照してください。
4. **ユーザー名**: Center V2 にログインするための有効なユーザー名を入力します。
5. **パスワード**: Center V2 にログインするための有効なパスワードを入力します。
6. **Apply (適用)**をクリックします。接続ステータスは「接続済み」と表示され、接続時間を表示します。

これらのオプションは、この Center V2 設定ページでも見ることができます。

- **モーション検出メッセージを停止する:** 選択したカメラからのモーション検出を Center V2 に通知しません。
- **インプットトリガーメッセージを停止する:** 選択したインプットからのインプットトリガーを Center V2 に通知しません。
- **スケジュールモードを有効にする**: **スケジュール時間の選択**セクションで設定したスケジュールに基づいて、Center V2 を通したモニタリングを開始します。同じ設定については、*4.5 録画スケジュール*を参照してください。

Center V2 を通したモニタリングを有効にするための関連設定については、*4.1.2 モーション検知設定*、*4.2.2 I/O コントロール設定*、*8.1 Center V2* を参照してください。

4.3.4 VSM

動作を検出した場合や I/O デバイスがトリガーされた場合に、セントラルモニタリングステーション VSM はテキスト警告により通知を受けることができます。VSM を通したライブモニタリングについては、VSM で既に加入者アカウントを所有している必要があります。

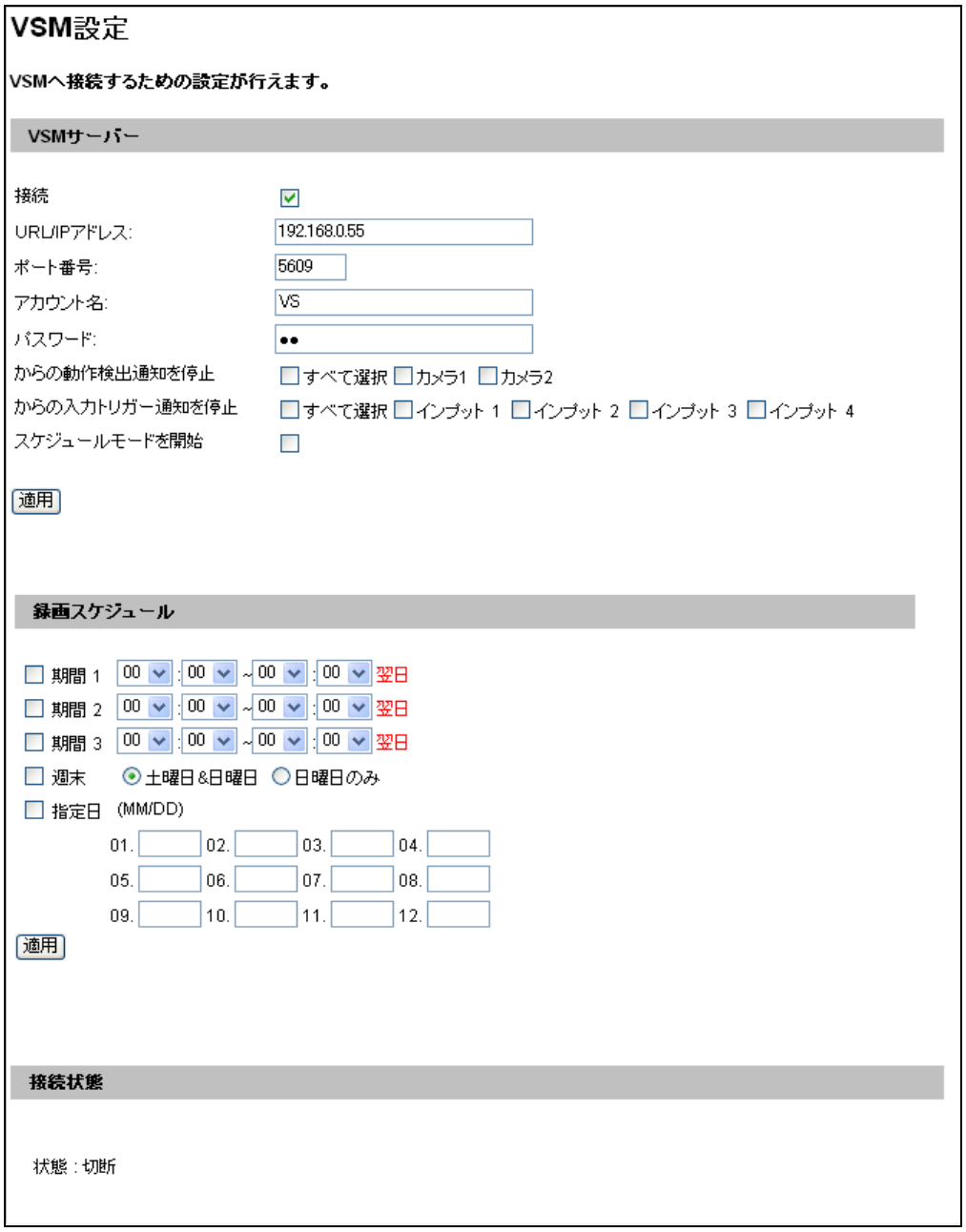

図 4-21

VSM 接続を有効にする:

1. **接続**: VSM を通してモニタリングを有効にします。
2. **URI/IP アドレス**: VSM のホスト名、IP アドレスを入力します。

3. **ポート番号**: VSM でポートを**ポート 2** に合わせます。または初期値の 5609 を使用します。 詳細は、*8.1 Center V2* を参照してください。
4. **ユーザー名**: VSM にログインするための有効なユーザー名を入力します。
5. **パスワード**: VSM にログインするための有効なパスワードを入力します。
6. **Apply (適用)**をクリックします。接続ステータスは「接続済み」と表示され、接続時間を表示します。

これらのオプションは、この VSM 設定ページでも見ることができます。

- **モーション検出メッセージを停止する:**選択したカメラからのモーション検出を VSM に通知しません。
- **インプットトリガーメッセージを停止する:**選択したインプットからのインプットトリガーを VSM に通知しません。
- **スケジュールモードを有効にする**:**スケジュール時間の選択**セクションで設定したスケジュールに基づいて、VSM を通したモニタリングを開始します。同じ設定については、*4.5 録画スケジュール*を参照してください。

VSM を通したモニタリングを有効にするための関連設定については、*4.1.3 モーション検知設定*、*4.2.2 I/O コントロール設定*、*8.2 VSM* を参照してください。

4.3.5 GV-GIS

2 つの接続のある GV-GIS オプションは **GV-VS02A** (ファームウェアバージョン 1.01 以降)、**GV-VS04A** および **GV-VS12** (ファームウェアバージョン 1.02 以降)でのみご利用になれます。

インターネット接続を通して、GPS 機能を有効にした GV-Video Server は、車両追跡、ロケーション確認およびライブモニタリング用に GPS データとライブビデオを GV-GIS (地理情報システム)に送信できます。GV-Video Server は、最大 2 つの GV-GIS ステーションを同時に接続することができます。

この設定ページで GV-GIS 接続を設定する前に、次の条件を満たす必要があります。

- GV-GIS で作成された加入者アカウント
- GV-Video Server で有効にされた UMTS 接続 (*4.7.4 UMTS* を参照してください)
- GV-Video Server で有効にされた GPS 機能 (*4.2.3 GPS/Wiegand* を参照してください)

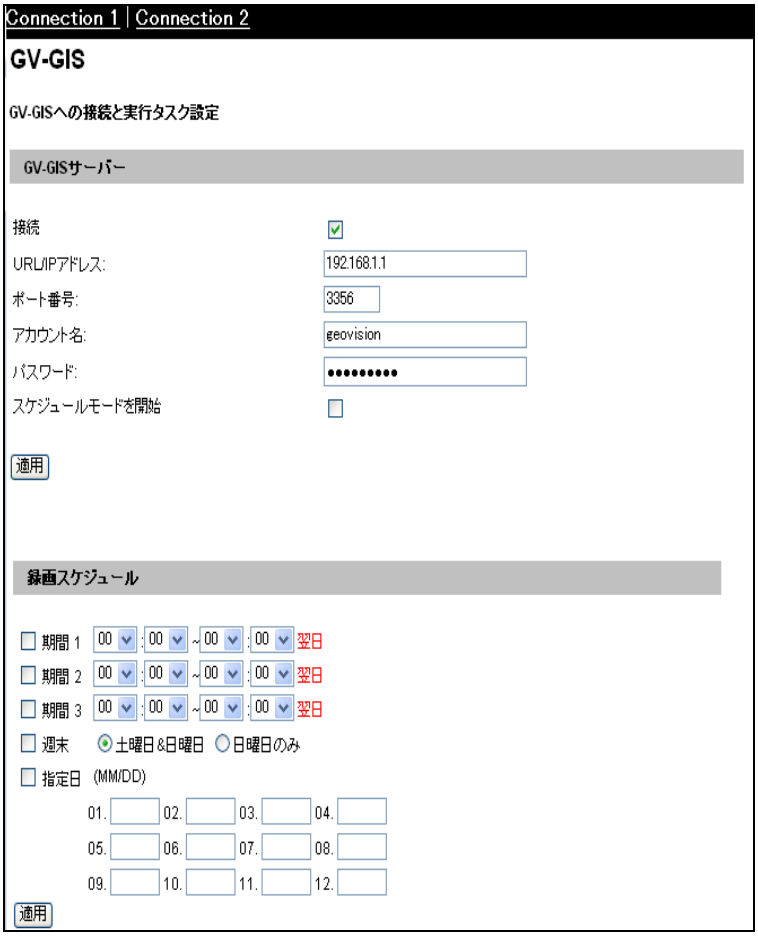

図 4-22

GV-GIS 接続を有効にするには:

1. **接続**: GV-GIS を通してモニタリングを有効にします。
2. **URI/IP アドレス**: GV-GIS のホスト名、IP アドレスを入力します。
3. **ポート番号**: GV-GIS で通信ポートに合わせます。または初期値の 3356 を使用します。
4. **ユーザー名**: GV-GIS にログインするための有効なユーザー名を入力します。
5. **パスワード**: GV-GIS にログインするための有効なパスワードを入力します。
6. **スケジュールモードを有効にする**:**スケジュール時間の選択**セクションで設定したスケジュールに基づいて、GV-GIS を通したモニタリングを有効にします。同じ設定については、*4.5 録画スケジュール*を参照してください。
7. **Apply (適用)**をクリックします。接続ステータスは「接続済み」と表示され、接続時間を表示します。
8. 2 番目の GV-GIS ステーションへの接続を確立するには、**Connection 2 (接続 2)**タブをクリックしステップ 1～7 を繰り返して設定を行います。

GV-GIS を通したモニタリングを有効にするための関連設定については、*4.1.3 モーション検知設定*と*4.2.2 I/O コントロール設定*を参照してください。

GV-GIS の詳細については、*GV-GIS ユーザーズマニュアル*を参照してください。

4.3.6 バックアップセンター

この機能は **GV-VS02A** (ファームウェアバージョン 1.01 以降)、**GV-VS04A** および **GV-VS12**(ファームウェアバージョン 1.02 以降)でのみご利用になれます。

バックアップセンターへの接続により、録画とシステムログの別のコピーをバックアップセンターにバックアップしながら、GV-Video Server でこれらのデータを接続されたハードディスクに保存することができます。

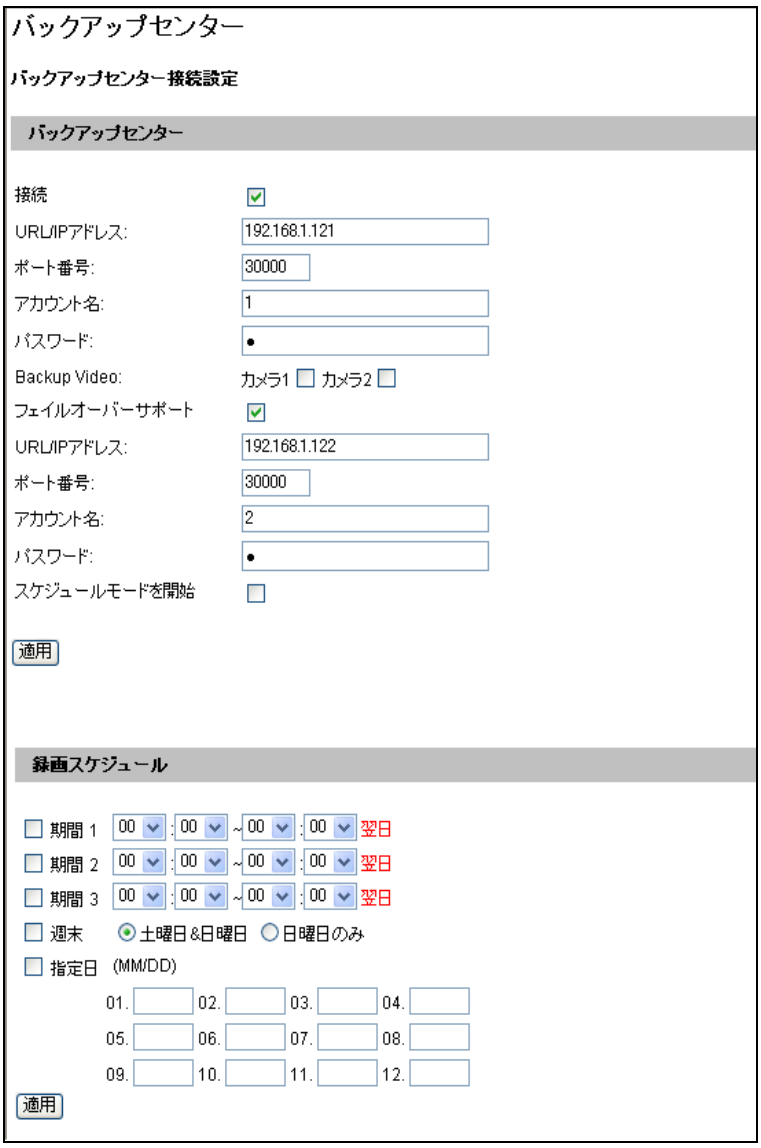

図 4-23

バックアップセンター接続を有効にするには:

1. **接続**: バックアップセンターへの接続を有効にします。
2. **URI/IP アドレス**: バックアップセンターのホスト名、IP アドレスを入力します。

3. **ポート番号**: バックアップセンターで通信ポートに合わせます。または初期値の 30000 を使用します。
4. **ユーザー名**: バックアップセンターにログインするための有効なユーザー名を入力します。
5. **パスワード**: バックアップセンターにログインするための有効なパスワードを入力します。
6. **スケジュールモードを有効にする**:**スケジュール時間の選択**セクションで設定したスケジュールに基づいて、バックアップセンター接続を有効にします。同じ設定については、*4.5 録画スケジュール*を参照してください。
7. **Apply (適用)**をクリックします。接続ステータスは「接続済み」と表示され、接続時間を表示します。

バックアップセンターに、バックアップセンターが故障した場合に途切れないバックアップサービスを提供するフェイルオーバーサーバーがある場合、接続をフェイルオーバーに設定することができます。

1. **更新間隔の設定:** GV-Video Sever が一定時間バックアップセンターから切断されると、GV-Video Sever はフェイルオーバーサーバーに向けられます。
2. **自動フェイルオーバーサポート:** GV-Video Server とバックアップセンターの接続が一定時間中断されると、フェイルオーバーサーバーへの自動接続が有効になります。
3. **URI/IP アドレス**: フェイルオーバーセンターのホスト名、IP アドレスを入力します。
4. **ポート番号**: フェイルオーバーセンターで通信ポートに合わせます。または既定値の 30000 を使用します。
5. **ユーザー名**: フェイルオーバーサーバーにログインするための有効なユーザー名を入力します。
6. **パスワード**: フェイルオーバーサーバーにログインするための有効なパスワードを入力します。
7. **Apply (適用)**をクリックします。

4.3.7 ビデオゲートウェイ

この機能は **GV-VS02A** (ファームウェアバージョン 1.01 以降)、**GV-VS04A** および **GV-VS12** (ファームウェアバージョン 1.02 以降)でのみご利用になれます。

ビデオ画像をビデオゲートウェイに送信するには、以下のステップに従います。

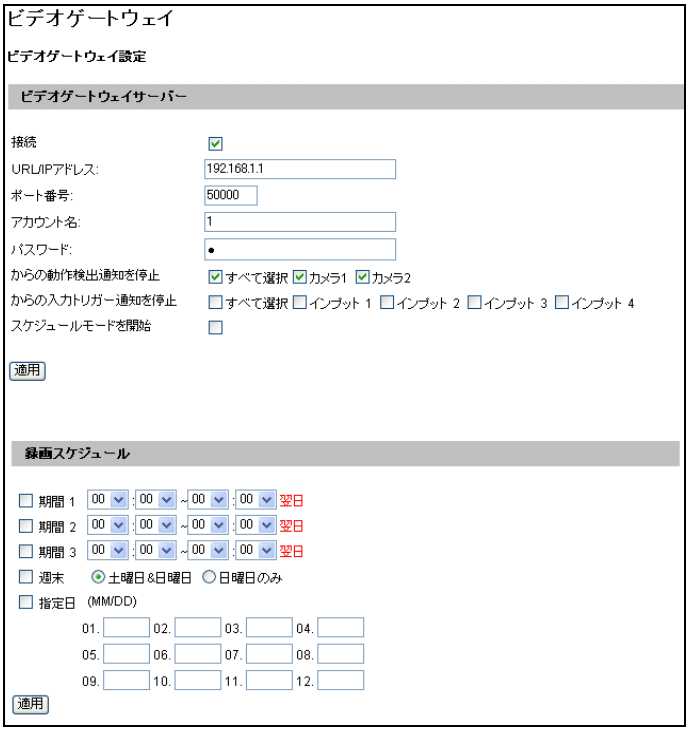

図 4-24

1. **接続**: ビデオゲートウェイへの接続を有効にします。
2. **URI/IP アドレス**: ビデオゲートウェイのホスト名、IP アドレスを入力します。
3. **ポート番号**: ビデオゲートウェイで通信ポートに合わせます。または初期値の 50000 を使用します。
4. **ユーザー名**: ビデオゲートウェイにログインするための有効なユーザー名を入力します。
5. **パスワード**: ビデオゲートウェイにログインするための有効なパスワードを入力します。
6. **モーション検出メッセージを停止する:** 選択したカメラからのモーション検出をビデオに送信しません。
7. **スケジュールモードを有効にする**: **スケジュール時間の選択**セクションで設定したスケジュールに基づいて、ビデオゲートウェイ接続を有効にします。同じ設定については、*4.5 録画スケジュール*を参照してください。
8. **Apply (適用)**をクリックします。接続ステータスは「接続済み」と表示され、接続時間を表示します。

4.3.8 ViewLogサーバー

ViewLog サーバーは、リモート録画再生のための機能です。このサーバーは、GV-Video Server にある録画ファイルにリモートアクセスし、ViewLog アプリケーションで録画再生することを可能ができます。

Enable (有効)を選択しサーバーを有効にします。初期値のポート **5552** を使用するか、必要に応じて変更してください。リモート再生の詳細については、*5.2.2 リモート ViewLog を利用した再生*を参照してください。

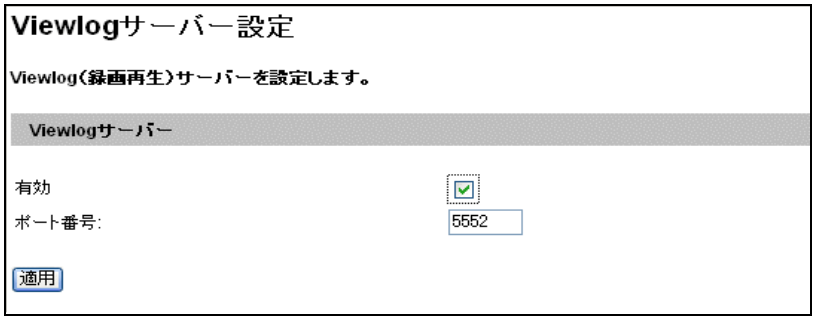

図 4-25

4.3.9 3GPP

3GPP サーバーは、3G 対応の携帯電話でビデオとオーディオをストリームします。

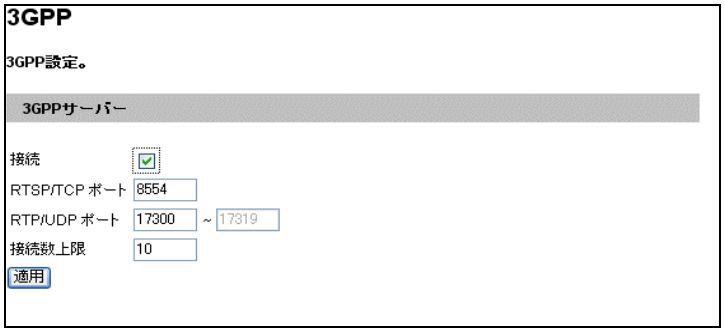

図 4-26

- **接続**: 3GPP サービスを有効にします。
- **RTSP/TCP ポート**: 既定のポート 8554 を使用するか、必要に応じて変更してください。
- **RTP/UDP ポート**: 既定の範囲 17300～17319 を使用するか、必要に応じて変更してください。使用できるポートの数は 20 が最大です。
- **接続数上限**: GV-Video Server への接続を最大数にします。デフォルト値は 20 です。

携帯電話でリモートモニタリングを行う詳細については、*10.4 3G 携帯電話*を参照してください。

4.4 モニタリング設定

スケジュールまたはインプットトリガーにより、録画を手動で開始することができます。

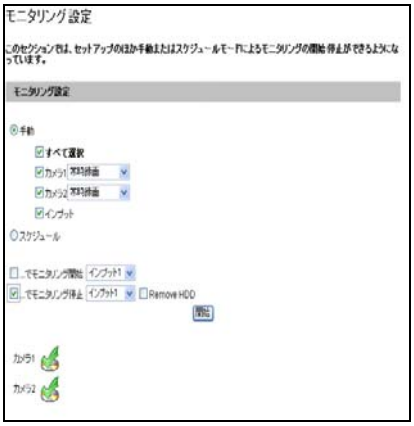

図 4-27

[手動]: 手動でモーション検出とインプットモニタリングを開始します。次のオプションから 1 つ選択し、**Start (開始)**ボタンをクリックしてください。

- **すべて選択**: 録画とインプットモニタリングも手動で開始します。
- **カメラ x:** 録画を手動で開始します。録画をするための目的のカメラと録画モードを選択します。
- **インプット**: インプットモニタリングを手動で開始します。インプットがトリガーされたとき、関連付けられたカメラとアウトプットが録画や警告機能と連動します。インプット設定については、*4.2.2 I/O コントロール設定*を参照してください。

[スケジュール] システムは、設定されたスケジュールにしたがって録画やインプットモニタリングを開始します。スケジュールについては、*4.5 録画スケジュール*を参照してください。

[インプット X によりモニタリングの開始] 指定されたインプットによってモニタリングを開始します。指定されたインプットがトリガーされると、システムは上記の**手動**または**スケジュール**オプションの録画またはインプットモニタリング設定に基づいて反応します。

[インプット X によりモニタリングの停止] 指定されたインプットによってモニタリングを開始します。 指定されたインプットがトリガーされると、システムはモニタリングを停止します。

- **HDD の取り外し**: インプットトリガーによりモニタリングが停止されると、録画用ハードディスクもシステムから取り外されます。

[カメラステータスアイコン]

: 手動録画

: スケジュール録画

: オンスタンバイ

: 動作検出やインプットトリガー機能有効

4.5 録画スケジュール

毎日指定した時間に録画と I/O モニタリングを有効にするため、スケジュール機能があります。

4.5.1 録画スケジュールの設定

それぞれのカメラに対して、異なるモニタリングスケジュールを設定できます。

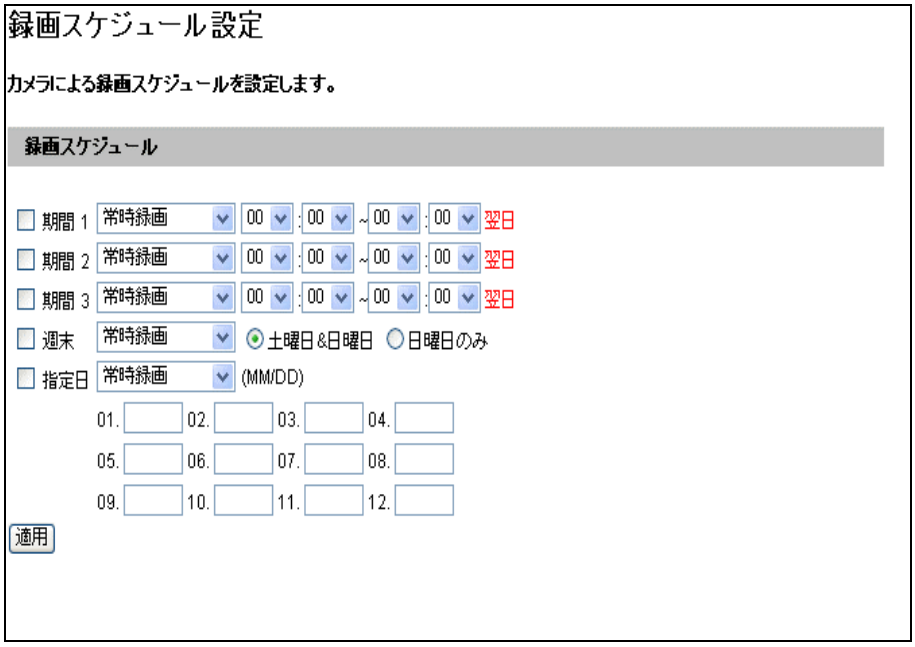

図 4-28

- **期間 1～期間 3:** 1 日のそれぞれの時間フレームに対して異なる録画モードを設定します。それぞれの日は、期間 1 から期間 3 まで、3 つの時間フレームに分けることができます。時間フレーム設定は月曜日～土曜日の間機能します。
- **週末**: このオプションを有効にすると、週末が終日モニタリングされ、使用される録画モードを選択します。週末に**土曜日&日曜日**と**日曜日のみ**の、どちらを含めるかどうかを定義します。
- **指定日**: 特別な日に録画モードを設定します。

注: 録画スケジュールや I/O モニタリングスケジュールでは、もしも[Special Day] (特別日)に設定した内容が[Span 1-3] (期間 1-3)または[Weekend] (週末)のスケジュールと衝突する場合は、[Special Day] (特別日)の設定が優先します。

4.5.2 I/Oモニタリング設定

開始する I/O モニタリングに対してスケジュールを設定することができます。

図 4-29

- **期間 1-3:** I/O モニタリングを有効にする日の間、異なる時間フレームを設定します。それぞれの日は、期間 1 から期間 3 まで、3 つの時間フレームに分けることができます。時間フレーム設定は月曜日～土曜日の間機能します。
- **週末**: このオプションを有効にすると週末の全日モニタリングが得られ、週末に**土曜日と日曜日**または**日曜日**を含めるかどうかを選択します。
- **指定日**: 指定した日に I/O モニタリングを有効にします。

4.6 リモートViewLog

リモート ViewLog 機能を利用すると、GV-Video Server に記録されたファイルを TCP/IP ネットワークを介して再生させることができます。

事前に、[リモート ViewLog] プログラムをソフトウェア DVD からインストールしてください。GV-Video Server にリモートでアクセスする場合、装置で **ViewLog サーバー**を有効にする必要があります。*4.3.6 ViewLog サーバー*を参照してください。

再生のための GV-Video Server への接続の詳細については、*5.2.2 リモート ViewLog を利用した再生*を参照してください。

4.7 ネットワーク

本項目では、GV-Video Server を TCP/IP ネットワークに接続するための、ネットワーク設定について説明します。

4.7.1 LAN

ネットワークの環境に応じて、動的 IP(DHCP)、静的 IP、または PPPoE を選択してください。

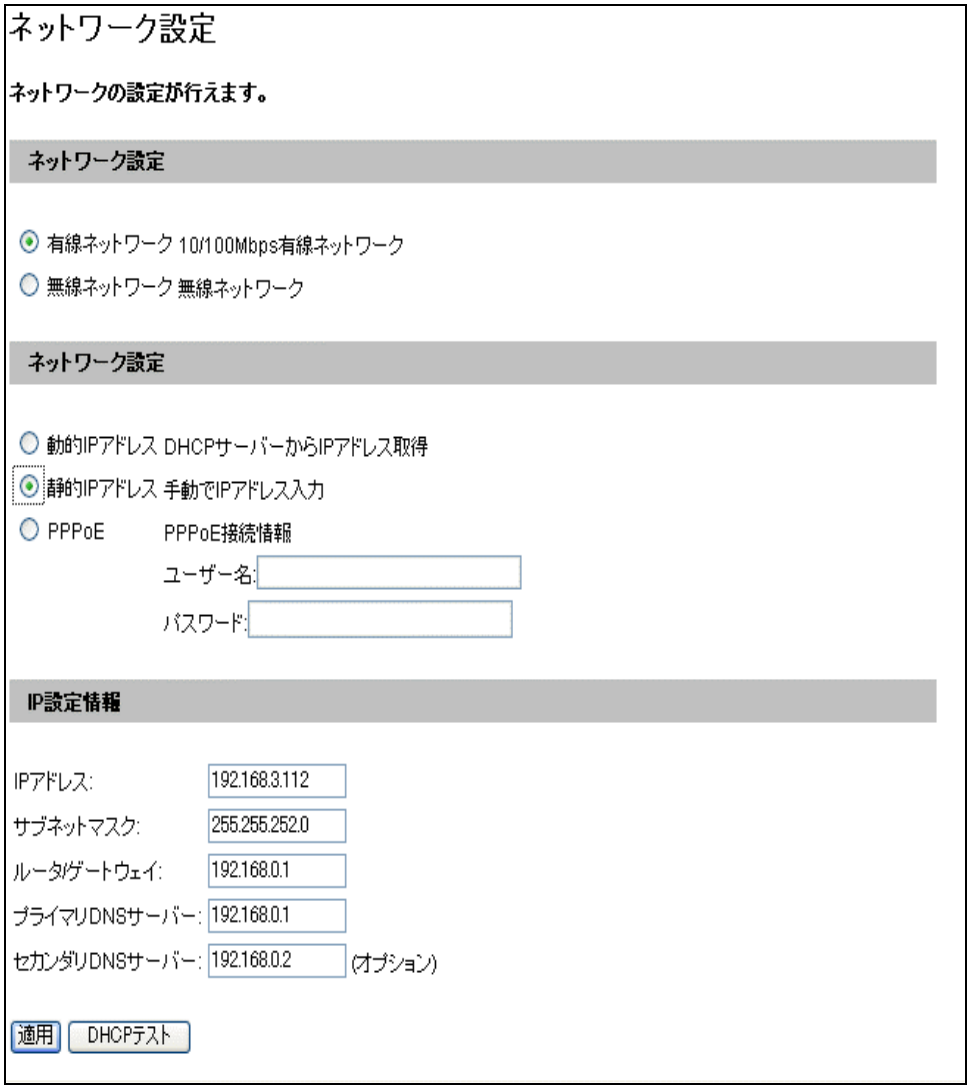

図 4-30

[ネットワーク設定]

ネットワークの環境に応じて、**有線**または**無線**を選択してください。

[無線]を有効にする場合は、あらかじめ**[WLAN 設定]**をセットアップしてください。詳細については、*4.7.2 無線クライアントモード*を参照してください。

[ネットワーク設定]

- **動的 IP アドレス**: ネットワーク環境に DHCP サーバーがあります。

  このオプションを有効にできるのは、GV-Video Server が DHCP サーバーのどの IP アドレスを取得するかがわかっている場合、または装置の動的 IP アドレスに関連付けられた DDNS サービスプロバイダよりドメイン名を取得している場合に限られます。

- **静的 IP アドレス**: GV-Video Server に静的 IP を割当てます。GV-Video Server の TCP/IP アドレス、DNS パラメータを「接続パラメータの設定」セクションのフィールドに入力します。

- **PPPoE:** ネットワーク環境がxDSL 接続の場合、ISP により提供されたユーザー名とパスワードを入力し接続を確立します。

  xDSL 接続が動的 IP アドレスを使用する場合、DDNS 機能を利用して装置の動的 IP に関連付けられたドメイン名を取得する必要があります。

[IP 接続情報]

GV-Video Server の IP アドレス、サブネットマスク、ルーター/ゲートウェイ、プライマリ DNS サーバー、セカンダリ DNS サーバーを入力します。

パラメータ	既定
IP アドレス	192.168.0.10
サブネットマスク	255.255.255.0
ルータ/ゲートウェイ	192.168.0.1
プライマリ DNS サーバー	192.168.0.1
セカンダリ DNS サーバー	192.168.0.2

Dynamic DNS サーバー設定の詳細については、*4.7.3 高度 TCP/IP* を参照してください。

4.7.2 無線クライアントモード

無線機能を使用するには、[無線 LAN USB アダプタ]が必要です。サポートされる無線 LAN アダプタについては、*付録 A* を参照してください。

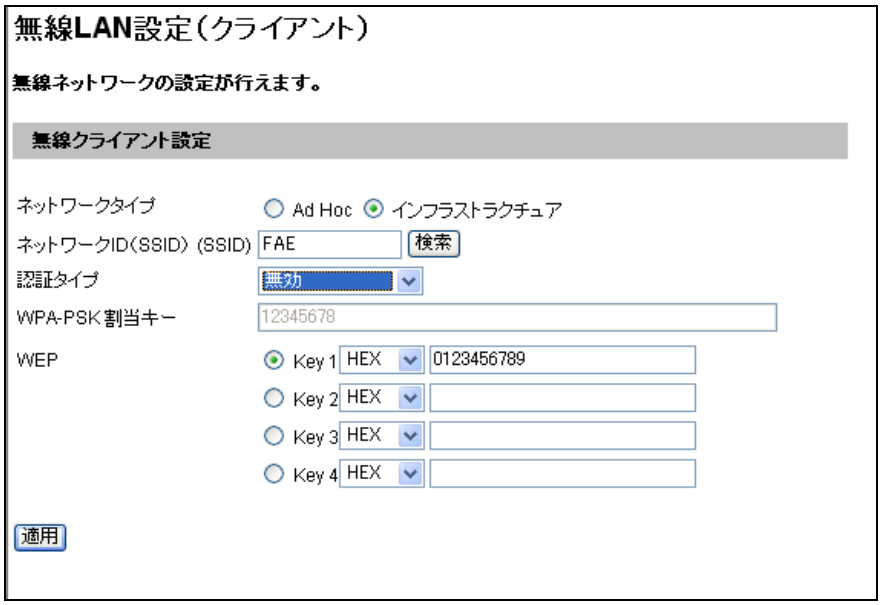

図 4-31

- **ネットワークタイプ**: ネットワークモードを**[AdHoc]**または**[Infrastructure] (インフラストラクチュア)**を選択してください。
  - **Infrastructure (インフラストラクチュア)**: インターネットに接続するために経由するアクセスポイント。このモードは、有線環境に加え、無線環境でもインターネットまたはデータ共有アクセス権を与えます。
  - **Ad-Hoc:** ピアツーピアモード。このモードは、他のコンピュータを WLAN カードで接続することができ、相互接続のためのアクセスポイントを必要としません。
- **ネットワーク ID (SSID)**: SSID (Service Set Identify:サービスセット ID)は特定の無線ネットワークを識別する固有の識別名です。無線 LAN グループまたは接続する予定のアクセスポイントの SSID を入力します。
  - **アクセスポイント検索**: お使いの WLAN カードの範囲内で利用可能なアクセスポイント(インフラストラクチュアモード)と無線ステーション (AD-Hoc モード)を全て検索する際にはこのボタンをクリックします。
- **認証タイプ:** 次の中からネットワーク認証とデータ暗号化の方法を1つ選択します。**使用しない、WEP、WPAPSK-TKIP、WPAPSK-AES、WPA2PSK-TKIP** または **WPA2PSK-AES**。
  - **使用しない**: 無線ネットワーク内で認証は必要としません。

- **WEP (Wired Equivalent Privacy):** データ暗号化の1つのタイプ。16 進数（ヘキサ)または文字列（アスキー)で4つの WEP キーを入力します。16 進数（ヘキサ)で入力する場合、0-9 の数字と A-F、a-f のアルファベットのみ使用可能です。
- **WPAPSK-TKIP** と **WPA2PSK-TKIP:** データ暗号化のため、WPA-PSK（事前割当キー)を入力します。
- **WPAPSK-AES** と **WPA2PSK-AES:** データ暗号化のため、WPA-PSK（事前割当キー)を入力します。

注: 暗号化設定は、ご利用になりたいアクセスポイントまたは無線ステーションで使われている暗号と一致するものを使用する必要があります。

4.7.3 TCP/IP

本項目では、DDNS サーバー、HTTP ポート、ストリーミングポートや UPnP を含む TCP/IP の詳細設定を説明します。

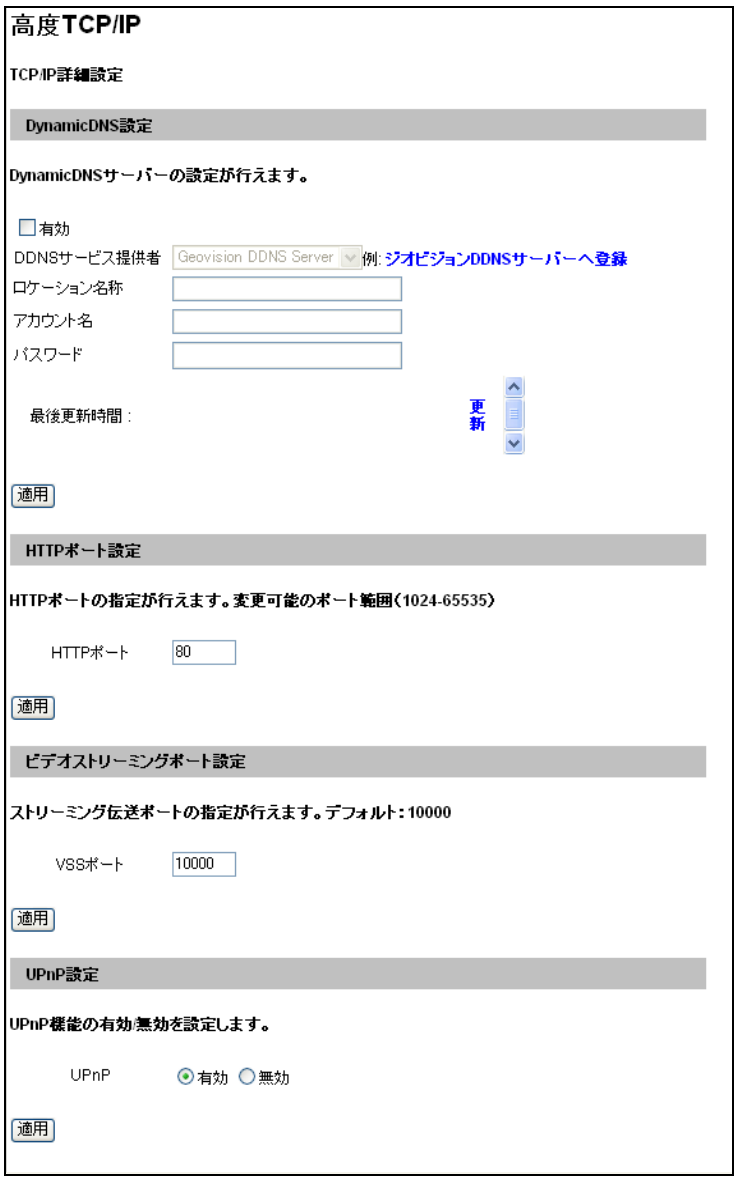

図 4-32

[Dynamic DNS 設定]

DDNS (ダイナミックドメイン名システム)は、動的 IP を使用時、GV-Video Server にアクセスするための便利な方法を用意しています。DDNS はドメイン名を GV-Video Server に指定します。本設定により、管理者は DHCP サーバーまたは ISP (xDSL 接続の場合)によって指定された IP アドレスに変更があったか確認する手間が省けます。

DDNS 機能を有効にする前に、管理者が DDNS サービスプロバイダの Web サイトにあらかじめホスト名を申請しておく必要があります。GV-Video Server には次の2つのプロバイダがリストアップされています。GioVision DDNS サーバー、DynDNS.org。

DNS 機能を有効にする:

1. **Enable (有効)**: DDNS 機能を有効にします。
2. **DDNS サービス提供者**: 登録をしている DDNS サービス提供者を選択します。
3. **ロケーション名称**: GV-Video Server に接続するためのホスト名を入力します。GeoVisionDDNS サーバーのユーザーは、システムがホスト名を自動的に検出するため、フィールドに必ず入力する必要があります。
4. **ユーザー名**: DDNS サーバーからのサービスを有効にするためのユーザー名を入力します。
5. **パスワード**: DDNS サーバーからのサービスを有効にするためのパスワードを入力します。
6. **Apply (適用)**をクリックします。

[HTTP ポート設定]

HTTP ポートは、GV-Video Server の WEB への接続を有効にします。セキュリティとして、初期値の HTTP ポート番号 80 から別のポート番号 (1024 から 65535 の範囲)に変更すると、一般の HTTP ポートからサーバーを隠すことができます。

[ビデオサーバーストリーミングポート設定]

VSS ポートは、GV-Video Server の GV-System への接続を有効にします。初期値の設定は 10000 です。

[UPnP 設定]

UPnP (Universal Plug & Play) は、ユニバーサルプラグ＆プレイフォーラムに加入する 400 以上のベンダーの間で設定されたネットワーク構造で、ネットワーク器材、ソフトウェアや周辺機器間に互換性をあたえるためのものです。本機能のサポートは、OS(例：Windows XP)のネットワークデバイステーブルにリストアップされるということを意味します。この機能を有効にすると、ネットワークデバイステーブルにリストアップされている GV-Video Server をクリックするだけで、GV-Video Server と接続することができます。

4.7.4 UMTS

UMTS は Universal Mobile Telephone System（ユニバーサル携帯電話システム)の略です。UMTS は毎秒 2 メガバイトのデータ転送速度を持つ、第三世代(3G)のブロードバンド、パケットベースのテキスト伝送、デジタル音声、ビデオ、マルチメディアです。UMTS はモバイルコンピュータと携帯電話ユーザーが世界のどこにいようとも、一貫したサービスを提供しています。

モバイルブロードバンドデバイス(UMTS、HSDPA などをサポート)が背面パネルの USB ポートに取り付けられ UMTS 機能が有効になった後、GV-Video Server の無線ブロードバンドにアクセスできるようになります。サポートされるモバイルブロードバンドデバイスについては、*付録 B* を参照してください。

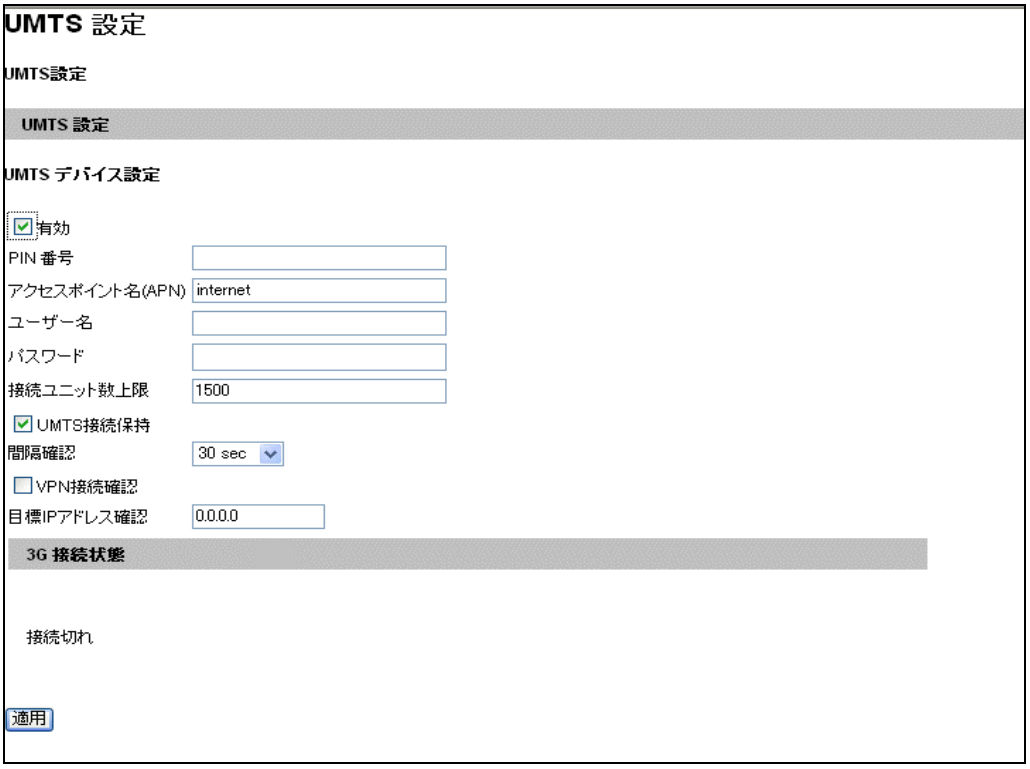

図 4-33

- **PIN 番号:** ネットワークプロバイダから与えられた PIN 番号を入力します。
- **アクセスポイント名 (APN)**: ネットワークプロバイダから与えられたアクセスポイント名を入力します。
- **ユーザー名:** ネットワークオペレータから UMTS サービスを有効にするには、有効なユーザー名を入力します。
- **パスワード**: ネットワークオペレータから UMTS サービスを有効にするには、有効なパスワードを入力します。

- **IP アドレス:** UMTS サービスを有効にした後、GV-Video Server の IP アドレスが表示されます。GV-Video Server に次にログインするとき、ブラウザに IP アドレスを入力する必要があります。動的 IP アドレスに UMTS 接続を使用する場合、DDNS 機能を利用して GV-Video Server の動的 IP に関連付けられたドメイン名を取得する必要があります。DDNS の詳細については、*4.7.3 アドバンスト TCP/IP* を参照してください。
- **接続ユニット数上限:** 接続ユニット数上限(MTU)を入力します。既定値は 1500 です。
- **UMTS 接続保持:** このオプションを選択して UMTS 接続ステータスをチェックし、ドロップダウンリストを使用して間隔確認に対して目的の長さを指定します。切断が検出されると、GV-Video Server は接続を再構築します。
- **VPN 接続確認:** (このオプションは GV-VS02A、GV-VS04A および GV-VS12 でのみ利用可能です)。VPN (仮想プライベートネットワーク)接続ステータスを確認するには、このオプションを選択します。IP アドレスを確認するには、**目標 IP アドレス確認**フィールドにターゲット IP アドレスを入力します。
- **3G 接続状態:** (このオプションは GV-VS02A、GV-VS04A および GV-VS12 でのみ利用可能です)。UMTS または VPN の接続状態を示します。

4.7.5 マルチキャスト

この機能は **GV-VS02** (ファームウェアバージョン 1.46)、**GV-VS02A** (ファームウェアバージョン 1.01)および **GV-VS04A** でのみご利用になれます。

マルチキャストでは、ホストのグループに単一ビデオとオーディオストリームを送信するメカニズムを利用できます。マルチキャストグループを結合したホストのみが、マルチキャストストリームを送受信できます。マルチキャストストリームは、ローカルネットワークのホストにのみ送信します。

この設定ページでは、2 つの設定が可能です。1 つの設定では、GV-Video Server をマルチキャストグループに結合します。もう一つの設定では、GV-Video Server がマルチキャストグループの他のホストからオーディオブロードキャストを受信します。

重要: GV-VS02 をお使いの場合、ビデオ解像度が CIF (360 x 240 / 360 x 288)または QCIF (176 x 112 / 176 x 144)に設定されているときのみマルチキャスト機能が作動します。

図 4-34

- **マルチキャストホスト名**：マルチキャストグループで GV-Video Server の名前を付けます。
- **マルチキャスト情報更新期間:** マルチキャストストリームの各更新間の時間を設定します。
- **マルチキャストデータ IP:** マルチキャストで使用される IP アドレスを入力します。既定の IP アドレスは 224.1.1.2 です。
- **マルチキャストデータポート:** マルチキャストで使用するポートを入力します。既定値は 8300 です。
- **マルチキャストビデオ:** マルチキャストを通してビデオを送信するカメラを選択します。
- **マルチキャストオーディオ:** マルチキャストを通してオーディオを送信するオーディオを選択します。
- **暗号の有効化**：このオプションを有効にして、マルチキャストストリームを安全にする暗号化キーを入力します。ビデオとオーディオストリームにアクセスするには、マルチメディアグループのホストでキーを入力する必要があります。
- **オーディオコールバックの有効化:** マルチキャストグループのホストからオーディオブロードキャストを受信するには、このオプションを有効にします。オーディオブロードキャストを受信する IP アドレスとポート番号を指定します。既定の IP アドレスは 224.1.1.3 でmポート番号は 8400 です。

マルチキャストを実行しオーディオブロードキャストを聞くには、*4.1.1 マルチキャスト*を参照してください。

4.7.6 IPフィルタ

管理者は GV-Video Server へのアクセスを制限するために IP フィルタリングを設定することができます。

図 4-35

IP フィルタ機能を有効にする:

1. **IP フィルタリング有効**: IP フィルタリング機能を有効にします。
2. **制限 IP:** アクセスを制限したい IP アドレスを入力します。
3. **動作設定**: 指定した IP アドレスについて、**許可**または**拒否**のアクションを選択します。
4. **Apply (適用)**をクリックします。

4.8 管理

本項目では、データ、時刻、USB 大容量記憶装置デバイス、そしてユーザーアカウントの設定について説明します。ファームウェアバージョン確認、特定のシステム操作を実行させることもできます。

4.8.1 日付と時刻設定

日付と時刻設定は、画像に日付と時刻スタンプを付けるために使用されます。

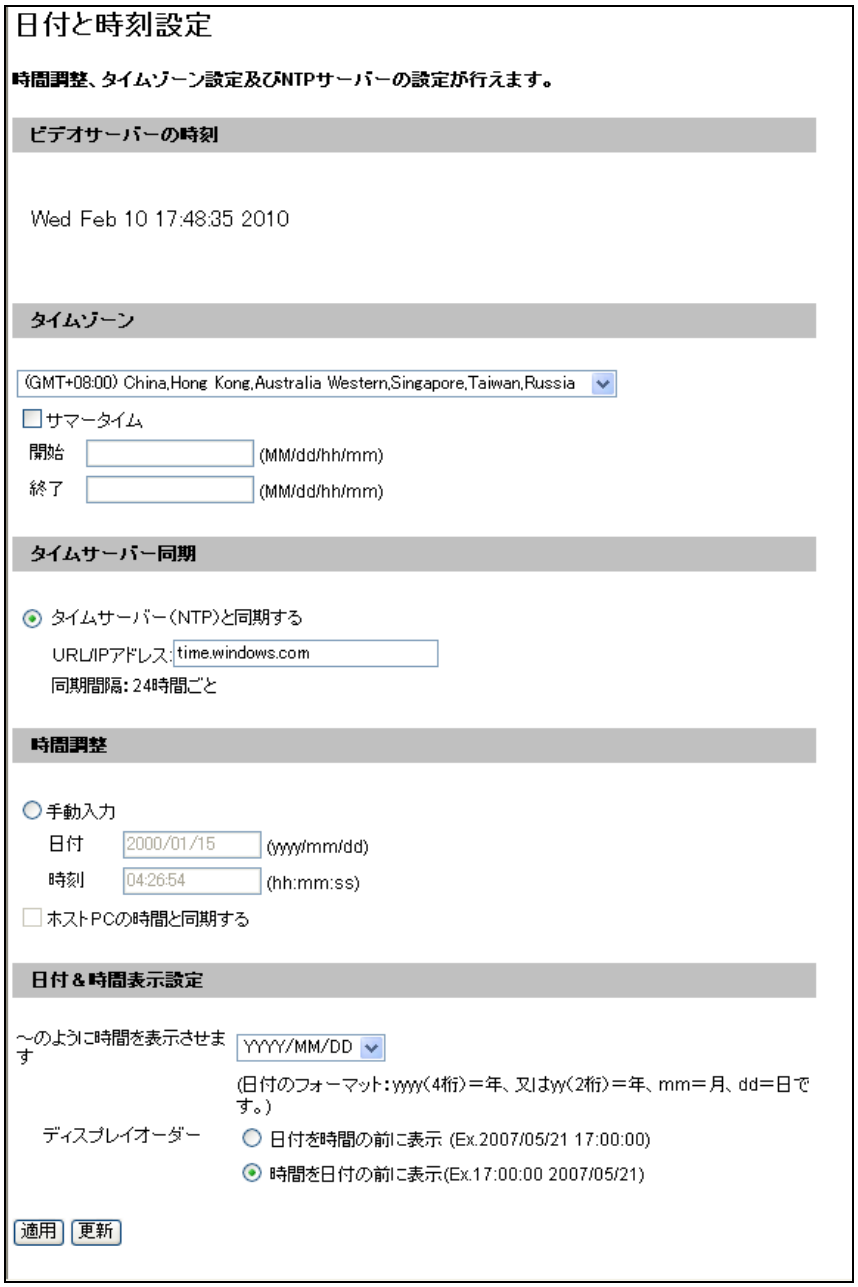

図 4-36

[ビデオサーバーの日付と時刻] 現在の日付と時刻を GV-Video Server に表示します。

[タイムゾーン] ローカル設定のタイムゾーンを決定します。**サマータイムを有効**を選択すると、自動的に GV-Video Server をサマータイムに調節します。開始時刻と終了時刻を入力して、サマータイム機能を有効にします。

*5.2.4 サマータイムイベントの再生*も参照してください。

[タイムサーバー同期] 既定で、GV-Video Serverは[time.windows.com](time.windows.com)のタイムサーバーを使用して、24 時間ごとにその内部クロックを自動的に更新します。ホスト名またはIP設定を関心のあるタイムサーバーに変更することもできます。

[時間調整] GV-Video Server の日付と時刻を手動で変更します。または、GV-Video Server の日付と時刻表示をローカルコンピュータの時刻と同期化します。

[日付&時間表示設定] 画像に付ける日付と時刻スタンプの表示形式を選択します。この機能が有効になるには、図 4-3 の**日付表示**と**時刻表示**オプションを有効にする必要もあります。

4.8.2 GPSマップ設定

この機能は **GV-VS02A** (ハードウェアバージョン 2.0)、**GV-VS02A**、**GV-VS04A** および **GV-VS12** でのみ利用可能です。

GV-Video Server は GPS (グローバルポジショニングシステム)をサポートして、車両をアクティブに追跡したり、ロケーション確認を行ったりします。車両のロケーションは、Google Maps で追跡されます。Google Maps を使用する前に、サインアップして Google Maps API キーを取得する必要があります。次に、登録された Maps API キー、GV-Video Server の経度と緯度、ロケーション名を入力して、この機能を有効にします。

GV-Video Server が動いている車両にインストールされている場合、車両のロケーションは GPS によって追跡されるため、デフォルトの**経度**とデフォルトの**緯度**を入力する必要はありません。ただし、GV-Video Server が GPS 機能を持たず位置を固定されている場合、Google マップにその正しいロケーションを表示できるように**経度**と**緯度**を入力する必要があります。

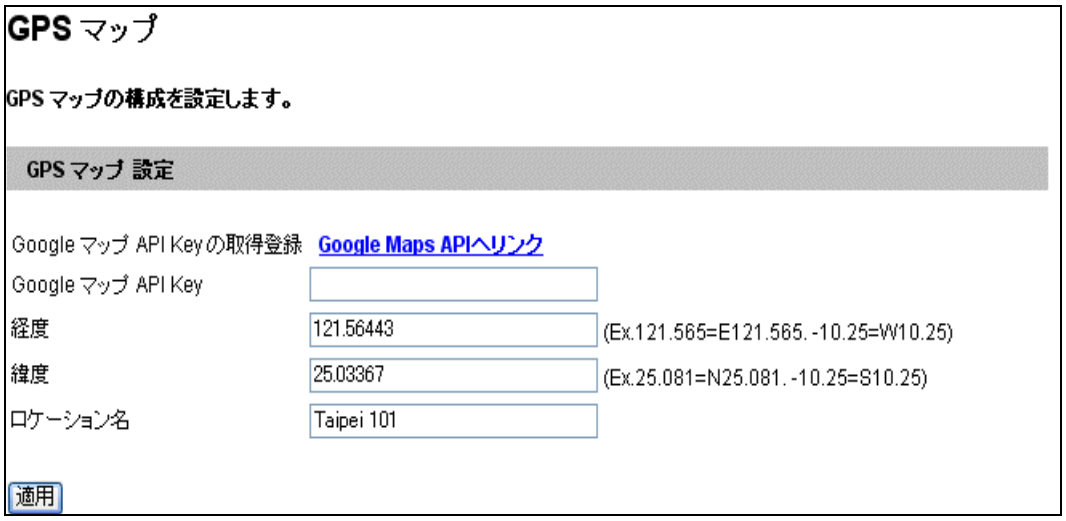

図 4-37

GPS アプリケーションの詳細については、*6.3 GPS トラッキング*を参照してください。

4.8.3 保存設定

GV-Video Server は、映像や音声記録用に外付 USB 大容量記憶装置デバイスをサポートしていますが、ファイルシステムは Linux ext3 をベースとなっています。通常 USB 大容量記憶装置デバイスは、Windows OS 仕様にてフォーマットされています。そこで、次の[保存設定]の手順からデバイスを再フォーマットを行う必要があります。フォーマットが完了すると、GV-Video Server にて、USB 大容量記憶装置デバイスを保存デバイス用として利用できるようになります。

図 4-38

[保存設定]

リサイクル有効オプションにチェックを行うと、USB 大容量記憶装置デバイスの保存領域が指定の領域より小さくなった場合、システムはデータを他のデバイスに書きこむか、最も古い録画ファイルに上書きします。

リサイクル有効オプションにチェックが入っていない場合、指定された容量に達したときにシステムは録画を停止します。

- **保存日数 (1-255):** ファイルを保存する日数を 1 日から 255 日までの範囲で指定します。**保存日数**と**リサイクル有効**が選択されているとき、システムは最初に適用される条件を適用します。たとえば、指定して保存日数より速く保存容量の指定された最小量に達した場合、リサイクルが最初に適用されます。

[Disk 情報]
この項目は接続されている保存デバイスの詳細を表示します。

[パーティション情報]
この項目は接続されている保存デバイスのパーティション詳細を表示します。

USB 大容量記憶装置デバイスを取り外す:

1. GV-Video Server へデバイスを接続します。
2. **Format (フォーマット)**ボタンをクリックします。

フォーマットが完了すると、パーティション情報が表示されます。1つのパーティションの最大スペースは 200 GB です。

USB 大容量保存デバイスを取り外す:

1. **Remove (取り外す)**ボタンをクリックします。
2. 取り外しの確認を求められた場合、**Yes (はい)**をクリックします。ページ情報が更新され、パーティション情報が表示されなくなります。
3. GV-Video Server からデバイスを取り外します。

注:

1. **リサイクル有効**が選択されている場合、USB 大容量記憶装置の空き容量は**ディスクの空き容量が x より少ない場合、録画またはリサイクルディスクの停止**オプションで指定した容量より大きくする必要があります。容量が指定した容量より少ないと、ビデオは録画されません。
2. 録画中に USB 大容量記憶装置デバイスを取り外すと録画データが無くなる場合があります。
3. USB 保存デバイスを適切に取り除外さなかった場合、別のコンピュータでデータを読み込むことができなくなります。この場合は、保存デバイスを再度 GV-Video Server に接続します。システムは自動的にデータの修復を行います。システムがデータを修復中のときは、[Remove] (取り除く) フィールドに、[Repairing] (修復中)と表示されます。

4.8.4 ユーザーアカウント

管理者、ゲスト、FTP サーバーユーザーとしてのログイン名、パスワード管理を行うことができます。

- 管理者の初期値のログイン名とパスワードは、**admin** です。
- ゲストの既定のログイン名とパスワードは、**guest** です。名前とパスワードを入力せずにゲストのユーザーがログインできるようにするには、**ゲストアカウントの識別を無効にする**を選択します。
- FTP サーバーの既定のログイン名とパスワードは、**videoserver** です。

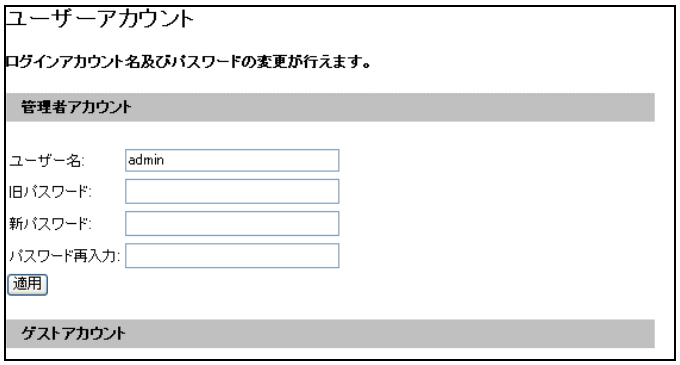

図 4-39

4.8.5 ログ情報

システムの起動セクションには、GV-Video Server のすべての開始時間が含まれます。開始時間はハードディスクに録画されるため、ハードディスクが GV-Video Server に取り付けられているときのみ情報を利用できます。

システムログセクションには、問題分析のためにサービススタッフが利用するデータが保存されます。

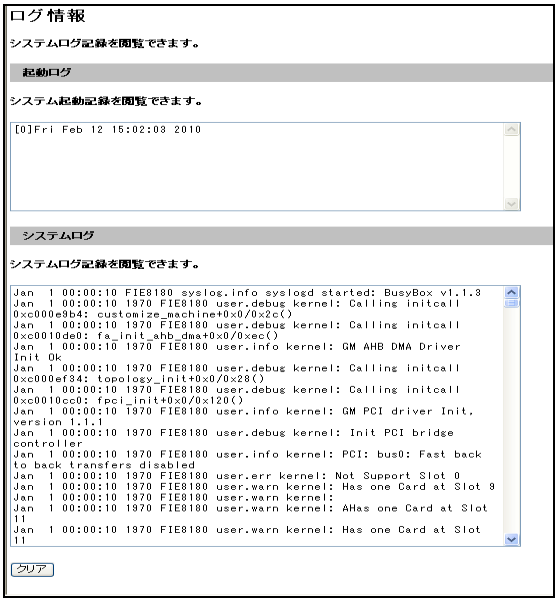

図 4-40

4.8.6 システムログ

この機能は **GV-VS02A** (ファームウェアバージョン 1.01 以降)、**GV-VS04A** および **GV-VS12** (ファームウェアバージョン 1.02 以降)でのみご利用になれます。

システムログでは、**システムイベント**、**モニタリングイベント**、**I/O イベント**、**ログイン/ログアウトイベント**の 4 種類のログにイベントを記録します。システムログでは、イベントの詳細な情報を検索し取得することができます。システムログを使用するには、GV-Video Server にハードディスクを接続する必要があります。

1. システムログを初めて使用する場合、まず **Create (作成)**をクリックして取り付けたハードディスクでシステムログデータベース(アクセスファイル)を作成します。

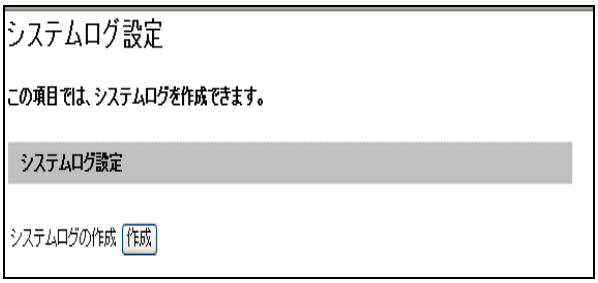

図 4-41

注: ハードディスクでシステムログを作成した場合、**Create (作成)**を再びクリックするとシステムログが消去されます。

2. ログの種類**システムイベント**、**モニタリングイベント**、**I/O イベント**または**ログイン/ログアウト**を Web インターフェースの左メニューから選択します。
3. フィルタリング基準を選択します。例えば、指定した時間の間ログインおよびログアウト情報を知る必要があります。
4. **[Query] (検索)**をクリックします。フィルタリング結果は以下の図のように見えることがあります。

図 4-42

4.8.7 ツール

本項目では、特定のシステム動作の実行やファームウェアバージョンの確認方法について説明します。

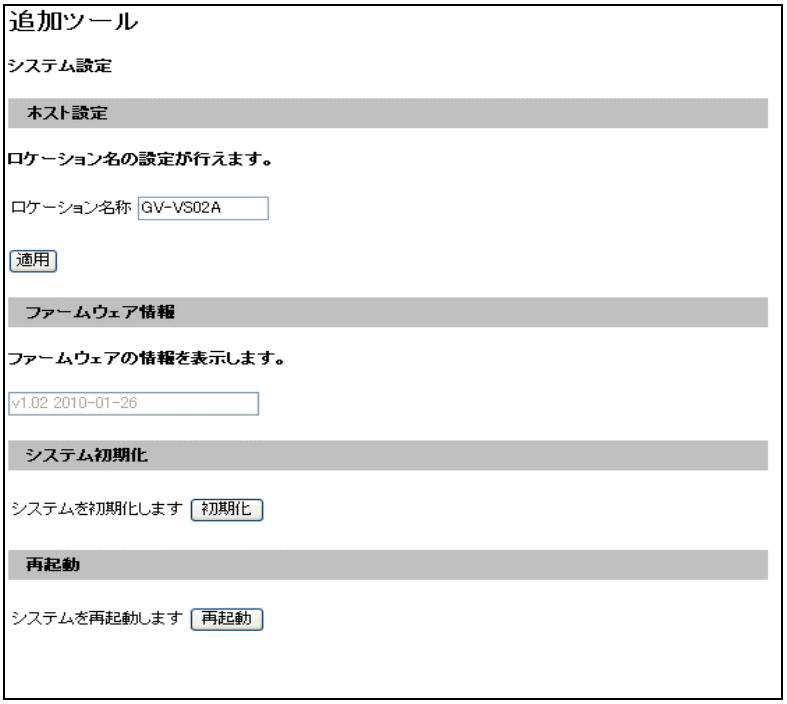

図 4-43

[ホスト設定] GV-Video Server の説明的な名前を設定します。

[ファームウェア情報] GV-Video Server のファームウェアバージョンを表示します。

[システム設定] Load Default (初期化)ボタンをクリックすると、GV-Video Server の設定が工場出荷時の既定の設定に戻ります。フロントパネルの ReadyLED が消灯します。再度 Ready LED が点灯するまで待ち、サーバーに再ログインします。

注: 初期化を行った後は、GV-Video Server のネットワーク設定を改めて設定し直す必要があります。

[再起動]

Reboot (再起動)ボタンをクリックすると、GV-Video Server は、ソフトウェアのリセットを実行します。フロントパネルの ReadyLED が消灯します。再度 Ready LED が点灯するまで待ち、サーバーに再ログインします。

第 5 章 録画と再生

GV-Video Server は映像/音声情報を直接、付属の USB 大容量保存デバイスに記録することができます。また、記録したファイルを GV-System や TCP/IP ネットワークを介して再生させることができます。

5.1 録画

録画機能を有効にします。

1. GV-Video Server に USB 大容量保存デバイスを接続します。*4.8.3 保存設定*を参照してください。
2. プレ録画、ポスト録画または音声録音を設定する場合、*4.1.2 ビデオ設定*を参照してください。
3. ビデオ録画や I/O モニタリングのスケジュールを設定する場合、*4.5 録画スケジュール*を参照してください。
4. モーション検出の領域と感度を設定するには、*4.1.3 モーション検出*を参照してください。
5. 録画を入力デバイスでトリガーするには、I/O デバイスの操作を設定します。*4.2.2 I/O コントロール設定*を参照してください。
6. 録画と I/O モニタリングを開始するには、*4.4 モニタリング設定*を参照してください。

   GV-Video Server は、動作検出、I/O トリガー、またはスケジュール時刻に録画を開始します。

5.2 再生

GV-Video Server に録画されたビデオファイルを再生する方法は2つあります。

- USB 大容量保存デバイスを直接 GV-System に取り付け再生する。
- TCP/IP ネットワークを介して Remote ViewLogm 機能により再生する。

5.2.1 USB大容量記憶装置デバイスを使った再生

GV-Video Server に録画されたファイルを再生するには、USB 大容量保存デバイスを直接 GV-System に取り付けます。GV-System は Windows システムで動作していますが、GV-Video Server の録画ファイルは Linux ファイルシステムです。Windows にてファイルを認識させるためには、ソフトウェア CD に含まれる **Ext2 Installable File System** プログラムをインストールする必要があります。

1. ソフトウェア DVD を挿入し、**IFS Drives (IFS ドライブ)**を選択し、画面の指示に従ってインストールを行います。
2. コントロールパネルから **IFS Drives (IFS ドライブ)**を実行し、USB 大容量保存デバイスのそれぞれのパーティションにドライブ名を割り当てます。

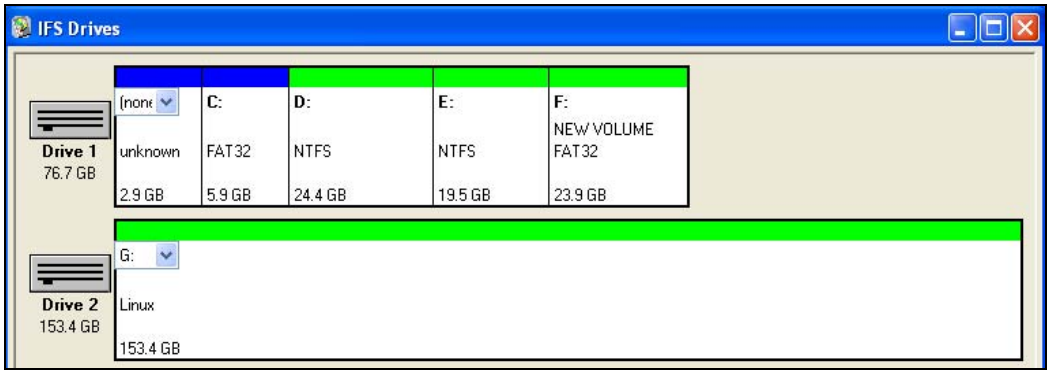

図 5-1

3. **ViewLog** を起動します。
4. **Advanced (詳細)**ボタン をクリックし、**Reload Database (データベースのリロード)**を選択し、**Video Server/Compact DVR (ビデオサーバー/コンパクト DVR)**を選択します。次のダイアログボックスが表示されます。

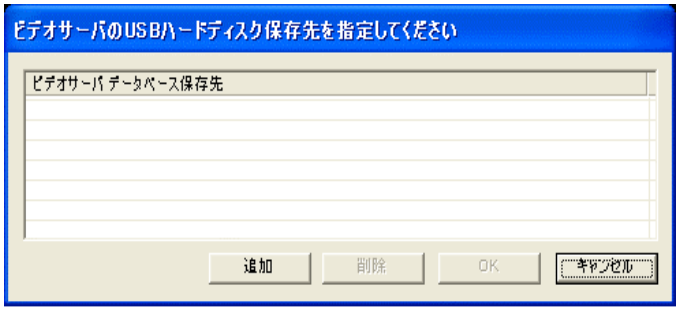

図 5-2

5. **Add (追加)**をクリックし、ハードドライブを割り当てます。
6. **OK** をクリックして ViewLog にデータをロードして再生します。

5.2.2 Remote ViewLogを利用した再生

Remote ViewLog 機能を利用すると、GV-Video Server に記録されたファイルを TCP/IP ネットワークを介して再生させることができます。

リモート再生を行うためには、GV-Video Server があらかじめ **ViewLog サーバー**を有効にし、アクセスを許可しておく必要があります。*4.3.8 ViewLog サーバー*を参照してください。

1. 初めてのユーザーは、**Remote ViewLog** プログラムをソフトウェア DVD から起動してください。次回以降は、GV-Video Server のウェブインターフェースからこのオプションにアクセスすることができます。
2. 次のダイアログボックスが表示されます。GV-Video Server の IP アドレス、ログイン ID、パスワードを入力します。既定のポート **5552** を使用するか、必要に応じて変更してください。

図 5-3

3. [ホストタイプ]フィールドで、**Video Server** を選択します。
4. **Connect (接続)**をクリックし、GV-Video Server のファイルにアクセスします。

注: [Remote ViewLog]の詳細については、ソフトウェア DVD の補足ユーザーマニュアルを参照してください。

5.2.3 GPSトラックの再生

GV-System では、GV-Video Server から再生する GPS トラックを検索することができます。GPS データを含む USB 大容量記憶装置を GV-System に取り付けて、再生することもできます。

次の指示は、インターネット上で GV-Video Server から GPS トラックを検索する方法について説明しています。USB 大容量記憶装置を使用して再生する場合、まず *5.2.1 USB 大容量記憶装置を使った再生*の指示に従って ViewLog にデータをロードし、以下のステップ 4-7 に従って GPS トラックを再生します。

1. GV-Video Server が **ViewLog サーバー**でリモートアクセスを有効にしておく必要があります。*4.3.8 ViewLog サーバー*を参照してください。
2. GV-System から GV-Video Server にリモートで接続するには、**Tools（ツール）**ボタンをクリックして **Remote ViewLog サービス**を選択します。[Connect to Remote ViewLog Service]（Remote ViewLog サービスに接続する）ダイアログボックスが表示されます。
3. GV-Video Server の接続情報を入力し、**Connect（接続）**をクリックします。接続が確立されると、[ビデオイベント]リストにビデオイベントが表示されます。
4. map API（アプリケーションプログラムインターフェース）を選択するには、**Tools（ツール）**ボタン、次に **Select Map API（Map API の選択）**を順にクリックします。次のダイアログボックスが表示されます。

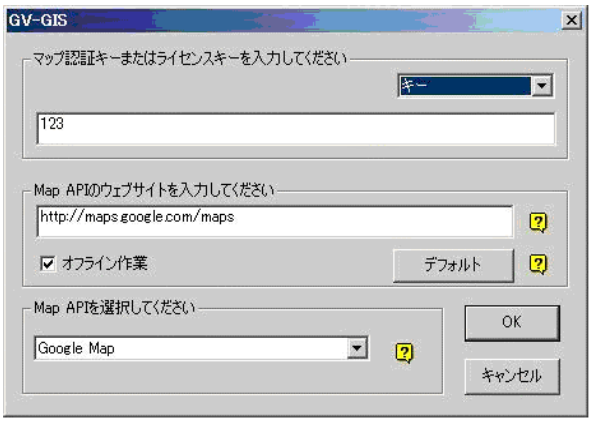

図 5-4

5. **Map APIを選択してください**で、Map APIを選択します。Googleマップの場合、Google Webサイト(http://code.google.com/apis/maps/signup.html)からAPIキーにサインアップし、**マップ認証キーまたはライセンスキーを入力してください**フィールドにAPIキーを入力します。

6. GPS トラックを再生するには、**Tools (ツール)**ボタンをクリックし、**Display GIS Window (GIS ウィンドウの表示)**を選択します。初めて使用するとき、ライセンス契約書を求められます。ライセンス契約条項を読み、**理解して同意する**をクリックして続行してください。

7. [ビデオイベント]リストから GPS トラック付きイベントを選択し、希望のビデオモードを選択し、**Play (再生)**ボタンをクリックして開始します。

図 5-5

注:

1. 再生機能は、GV-System バージョン 8.3 以降にのみ対応しています。
2. 自分で作成したマップを使用するには、:\GV folder\GIShtm-User でファイルを上書きし、「Map API を選択してください」ドロップダウンリスト(図 5-4)から **User Defined (ユーザー定義)**を選択します。
3. Google マップの有料クライアントの場合、「マップ認証キーまたはライセンスキーを入力してください」ドロップダウンリストから **Client (クライアント)**を選択してください。それ以外の場合、**Key (キー)**を選択してください。

5.2.4 サマータイムイベントの再生

GV-System では、GV-Video Server から DST(サマータイム)期間中に録画したイベントを検索して再生することができます。録画ファイルを含む USB 大容量記憶装置を GV-System に取り付けて、再生することもできます。

次の指示は、インターネット上で GV-Video Server から録画ファイルを検索する方法について説明しています。USB 大容量記憶装置を使用して再生する場合、まず *5.2.1 USB 大容量記憶装置を使った再生*の指示に従って ViewLog に録画ファイルをロードし、以下のステップ 4-7 に従って DST イベントを再生します。

1. GV-Video Serve **ViewLog サーバー**でリモートアクセスを有効にしておく必要があります。*4.3.8 ViewLog サーバー*を参照してください。
2. GV-System から GV-Video Server にリモートで接続するには、**Tools（ツール）**ボタンをクリックして **Remote ViewLog サービス**を選択します。[Connect to Remote ViewLog Service]（Remote ViewLog サービスに接続する）ダイアログボックスが表示されます。
3. GV-Video Server の接続情報を入力し、**Connect（接続）**をクリックします。接続が確立されると、[ビデオイベント]リストにビデオイベントが表示されます。
4. 日付ツリーで、サマータイムの日付を選択します。以下に示すように、個別の DST サブフォルダが表示されます。

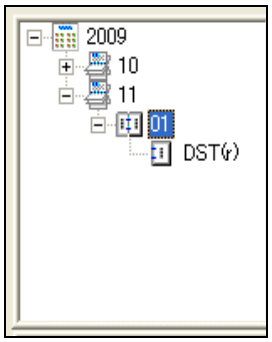

図 5-6

5. [ビデオイベント]リストで、希望のイベントを選択し、**Play（再生）**ボタンをクリックして開始します。

注：

1. 再生機能は、GV-System バージョン 8.3 以降にのみ対応しています。
2. DST 期間中に記録された AVI ファイルは、Event20081022xxxxxxxxx.avi のような接頭辞「Event」の付いた通常の AVI ファイルと区別するために、GvDST20081022xxxxxxxxx.avi のように接頭辞「GvDST」の付いた名前になります。

第 6 章 高度なアプリケーション

この章では、より高度なアプリケーションについて説明します。

6.1 システムファームウェアのアップグレード

GeoVision では、定期的にアップデートされたファームウェアを Web サイト上でリリースしています。新しいファームウェアは Web インターフェースまたはソフトウェア DVD に含まれる **IP デバイスユーティリティ**を使用することで、GV-Video Server にロードすることができます。

開始する前の重要な注意

ファームウェアの更新を開始する前に、下記点についてご注意下さい。

1. ファームウェアがアップデート中は、
   A. 電源装置が遮断されないように注意
   B. ケーブルが電源装置(サポートされるパワーオーバーイーサネットまたは PoE)に直接接続されている場合、イーサネットケーブルを抜かない
   ようにしてください。
2. ファームウェアがアップデートされてから 10 分間は電源をオフにしないでください。

警告: 更新中に電源装置が遮断されると、アップデートが失敗するだけでなく、GV-Video Server が故障する原因となります。故障した場合、販売代理店に連絡し修理を行って下さい。

6.1.1 Web インターフェースを使用する

1. ライブ表示ウィンドウで、**Show System Menu (システムメニューの表示)**ボタン（No.11、図 3-2）をクリックし、**Remote Config (遠隔設定)**を選択、**Firmware Upgrade (ファームウェアアップデート)**タブをクリックします。次のダイアログボックスが表示されます。

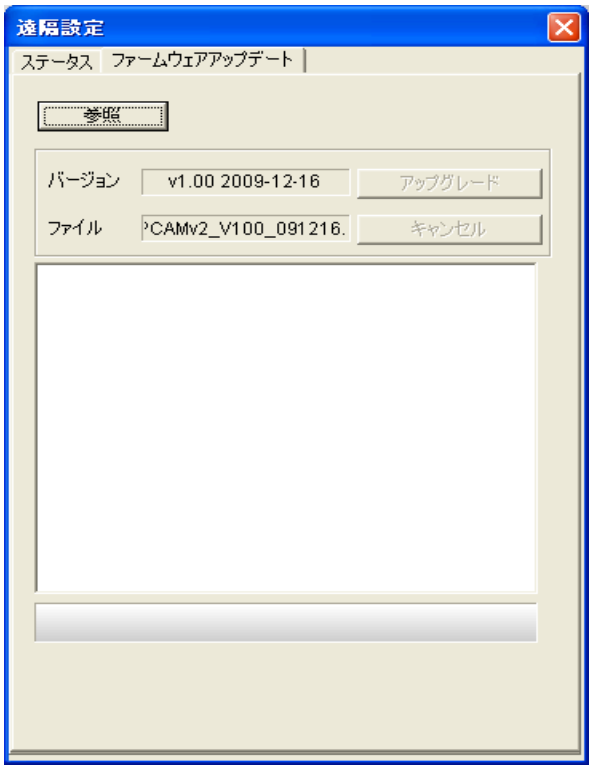

図 6-1

2. **Browser (参照)**ボタンをクリックし、ローカルコンピュータに保存のファームウェアファイル(.img)の場所を確認します。
3. **Firmware Upgrade (アップグレード)**ボタンをクリックして、更新します。

6.1.2 IP デバイスユーティリティを使用する

IP デバイスユーティリティは、複数の GV-Video Server の更新を行うことができます。

1. ソフトウェア DVD を挿入し、**IP デバイスユーティリティ**を選択し、画面の指示に従ってプログラムをインストールします。
2. デスクトップに作成された **GV IP デバイスユーティリティ**アイコンをダブルクリックします。次のダイアログボックスが表示されます。

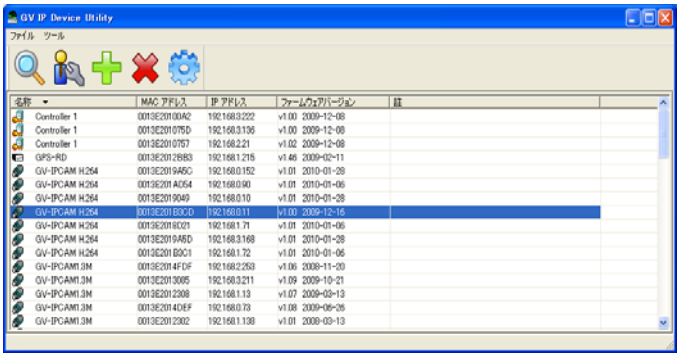

図 6-2

3. **Search (検索)**ボタン をクリックし、同じ LAN 内の適用可能な GV-Video Server を検索します。または **New (新規作成)**を選択し、インターネット経由で GV-Video Server を探します。対象から外す場合は、GV-Video Server リストから 1 つハイライトし、**Delete (削除)**をクリックして取り除きます。
4. リスト中の GV-Video Server をダブルクリックします。次のダイアログボックスが表示されます。

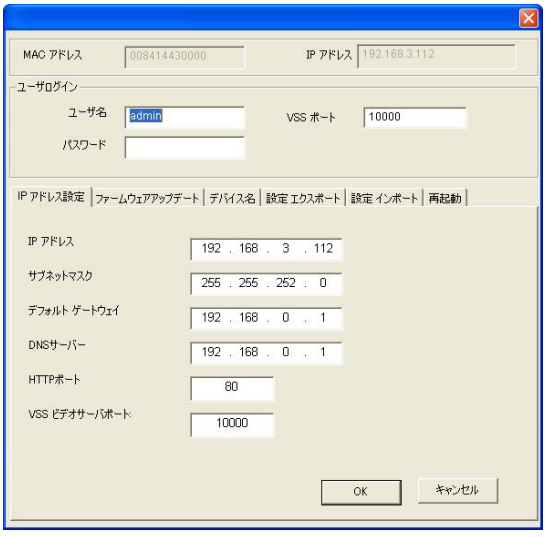

図 6-3

5. **Firmware Upgrade (アップグレード)** タブをクリックします。次のダイアログボックスが表示されます。

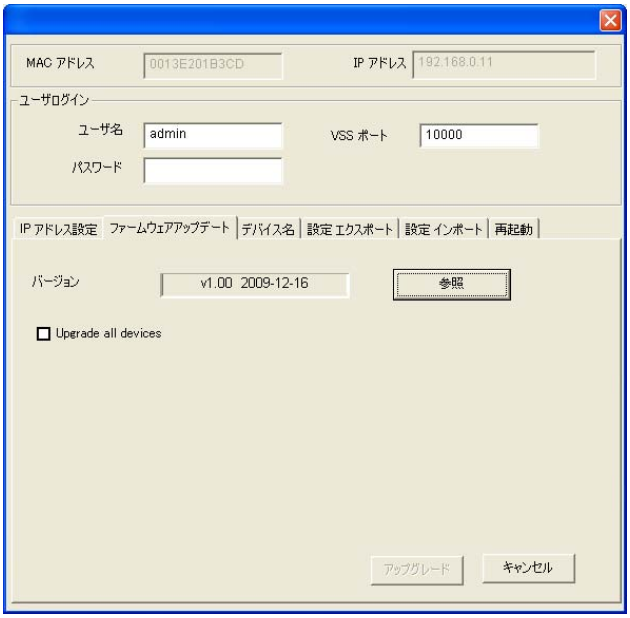

図 6-4

6. **Browse (参照)**ボタンをクリックし、ローカルコンピュータに保存のファームウェアファイル(.img)の場所を確認します。
7. リスト内の全ての GV-Video Server をアップグレードする場合は、**Upgrade all devices (すべてのデバイスを更新)**にチェックします。
8. **Password (パスワード)**を入力し、**Upgrade (アップグレード)**ボタンをクリック、アップグレードを行います。

6.2 バックアップおよび復元設定

ソフトウェア DVD に含まれる IP デバイスユーティリティから、GV-Video Server 設定のバックアップ、バックアップデータを現在、または新しいデバイスにインポートさせることができます。

6.2.1 設定をバックアップする

1. **IP デバイスユーティリティ**を実行し、希望の GV-Video Server を探します。*6.1.2 IP デバイスユーティリティ*のステップ 1-3 を参照してください。
2. リストの中の GV-Video Server をダブルクリックします。図 6-3 が表示されます。

3. **Export Settings (設定エクスポート)**ボタンをクリックします。次のダイアログボックスが表示されます。

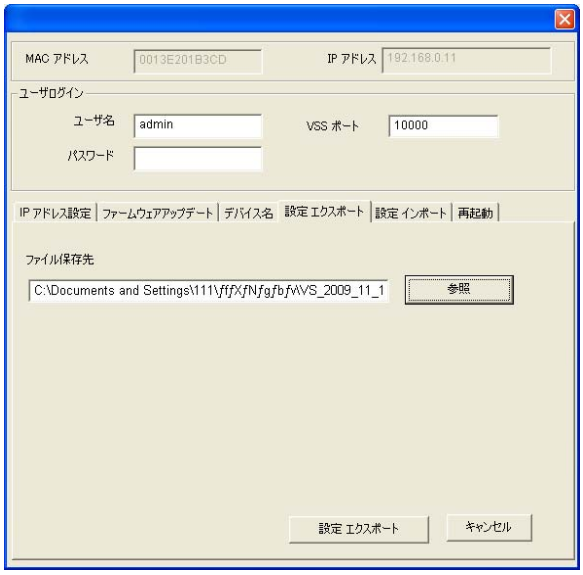

図 6-5

4. **Browse (参照)**ボタンをクリックし、ファイルパスを割り当てます。
5. **Password (パスワード)**を入力し、**Export Settings (設定エクスポート)**をクリック、バックアップファイルを保存します。

6.2.2 設定を復元する

1. 図 6-3 で、**Import Settings (設定インポート)**タブをクリックします。次のダイアログボックスが表示されます。

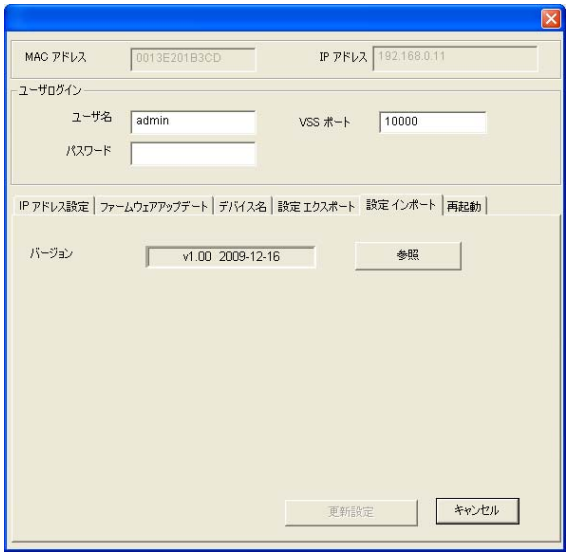

図 6-6

2. **Browse (参照)**ボタンをクリックし、バックアップファイル(.dat)の場所を確認します。
3. **Update Settings (アップデート設定)**をクリックして、復元を開始します。

6.3 GPSトラッキング

この機能は **GV-VS02A**（ハードウェアバージョン 2.0）、**GV-VS02A**、**GV-VS04A** および **GV-VS12** でのみ利用可能です。

GV-Video Server は GPS（グローバルポジショニングシステム）をサポートして、車両をアクティブに追跡したり、場所の確認を行ったりします。車両の場所は、Google Maps で追跡されます。

GV-Video Server の場所を追跡する:

1. GV-GPS モジュールまたは任意の GPS モジュールを、装置背面パネルのターミナルブロックに接続します。*第 9 章 補助デバイスコネクタ*を参照してください。
2. GPS 機能を有効にします。*4.2.3 GPS/Wiegand* を参照してください。
3. Google Maps API にサインアップし、GPS マップ設定を有効にします。*4.8.2 GPS マップ設定*を参照してください。
4. ライブ表示ウィンドウのコントロールパネルを開きます。

図 6-7

- **Start（スタート）**をクリックして、GPS トラッキングをアクティブにします。GV-Video Server の経度、緯度およびホスト時刻が表示されます。
- ローカルコンピュータに場所情報を保存するには、**Save message（メッセージの保存）**を選択し、**[...]**をクリックして保存パスを割り当てます。

5. Google マップで GV-Video Server を追跡するには、**Open (開く)**をクリックします。警告メッセージが表示されます。

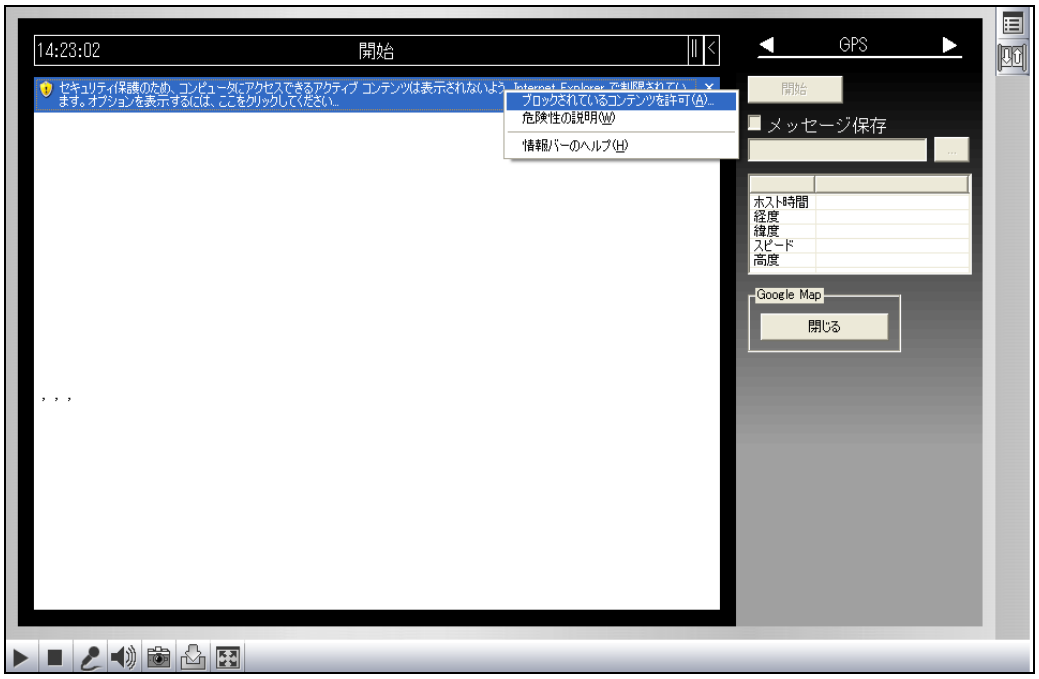

図 6-8

6. 警告メッセージを右クリックし、**ブロックされたコンテンツを許可する**を選択します。マップが表示されます。 アイコンは GV-Video Server の場所を示しています。右上には、衛星やハイブリッドなど、さまざまなマップ形式を表示するオプションがあります。

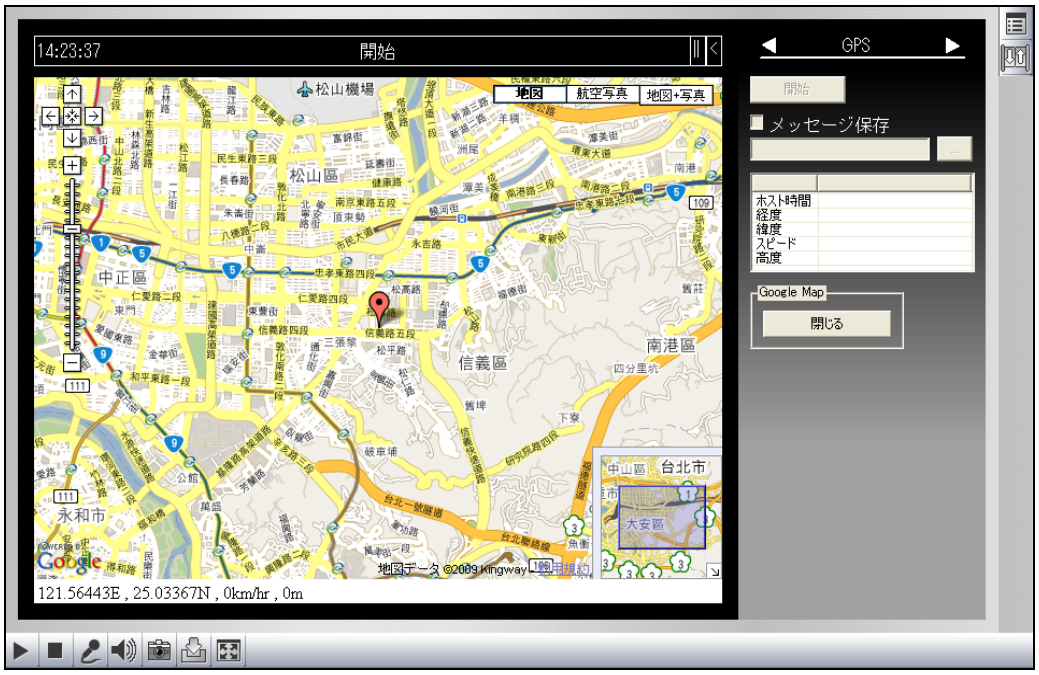

図 6-9

6.4 工場出荷時の既定値に復元する

GV-Video Server のモデルによって、元の既定値に復元する操作は同じではなく、LED が点滅する方法も異なることがあります。

既定の設定に復元するには、フロントパネルの **Reset (リセット)**と **Load Default (初期化)**ボタンを使用します。ボタンの場所については、*1.6 各部の説明*を参照してください。

GV-VS02、GV-VS02AおよびGV-VS04Aを既定値に復元する

1. **Reset (リセット)**ボタンを押してからすぐ放します。
2. 3 つの LED (Power、Ready、Disk Full/Fault)がオンになるまで、**Load Default (初期化)**ボタンを押します。処理は約 30 秒かかります。
3. **Load Default (初期化)**ボタンを放します。初期化プロセスが完全に行われると、GV-Video Server は再起動を開始し、3 つの LED をすべてオフになります。
4. Power および Ready LED が再びオンになるまでお待ちください。この後、すべての設定は既定値に戻ります。

GV-VS12 を既定値に復元する

1. 電源ケーブルを抜いてから差し込んで開始します。
2. Ready LED が点滅するまで、**Default (既定)**ボタンを押します。処理は約 30 秒かかります。Ready LED が 2 度点滅します。
3. **Default (既定)**ボタンを放します。初期化プロセスが完全に行われると、GV-Video Server は再起動を開始し、2 つの LED をオフにします。
4. Power および Ready LED が再びオンになるまでお待ちください。この後、すべての設定は既定値に戻ります。

注: Ready LED が再びオンになるまで電源ケーブルを抜かないでください。オンになる前に抜くと、既定値が読み込まれません。

6.5 電子透かしを検証する

この機能は **GV-VS02A** (ファームウェアバージョン 1.01 以降)、**GV-VS04A** および **GV-VS12**(ファームウェアバージョン 1.02 以降)でのみご利用になれます。

電子透かしは暗号化され圧縮段階の間にビデオストリームに埋め込まれたデジタル署名で、作成時点からビデオを保護します。電子透かしにより、画像が記録された後に編集または損傷されていないことを確認できます。電子透かし機能を有効にするには、[電子透かし]、*4.1.2 ビデオ設定*を参照してください。

Watermark Proof は電子透かしをチェックするプログラムです。セキュリティの高い機関に提出する際に、有効な機能です。

6.5.1 AVI ファイルにアクセスする

電子透かしを検証するには、まず以下の方法のいずれかで記録した AVI ファイルにアクセスする必要があります。

1. ライブ表示ウィンドウ(図 3-3)の **File Save (ファイルの保存)**機能を使って、ローカルコンピュータの記録を開始します。
2. **FTP サーバーとして機能**機能を使用し、GV-Video Server から AVI ファイルをダウンロードします。*4.3.2 FTP* を参照してください。
3. USB 記憶装置で記録されたファイルを使用します。USB 記憶装置に保存されたファイルは Linux ファイルシステムであるため、Linux ベースのファイルを Windows ベースのファイルに変換するにはソフトウェア DVD から **IFS ドライブ**を実行するようにしてください。指示については *5.2.1 USB 大容量記憶装置を使った再生*のステップ 1～2 を参照してください。

6.5.2 Watermark Proof を実行する

1. ソフトウェア DVD から **Watermark Proof** をインストールします。インストールされると、**WMProof** アイコンがデスクトップに作成されます。
2. 作成されたアイコンをダブルクリックします。Water Mark Proof ウィンドウが表示されます。
3. メニューバーから **File (ファイル)**をクリックし、**Open (開く)**を選択して記録したファイル(.avi)を検索します。選択したファイルがウィンドウに一覧表示されます。または、ストレージフォルダからウィンドウに直接ファイルをドラッグすることもできます。
4. 記録が変更されていない場合、**Pass (パス)**カラムにチェックマークが表示されます。変更されている場合、チェックマークが **Failed (失敗)**カラムに表示されます。記録を再生するには、ウィンドウに一覧されたファイルをダブルクリックします。

6.5.3 Watermark Proof ウィンドウ

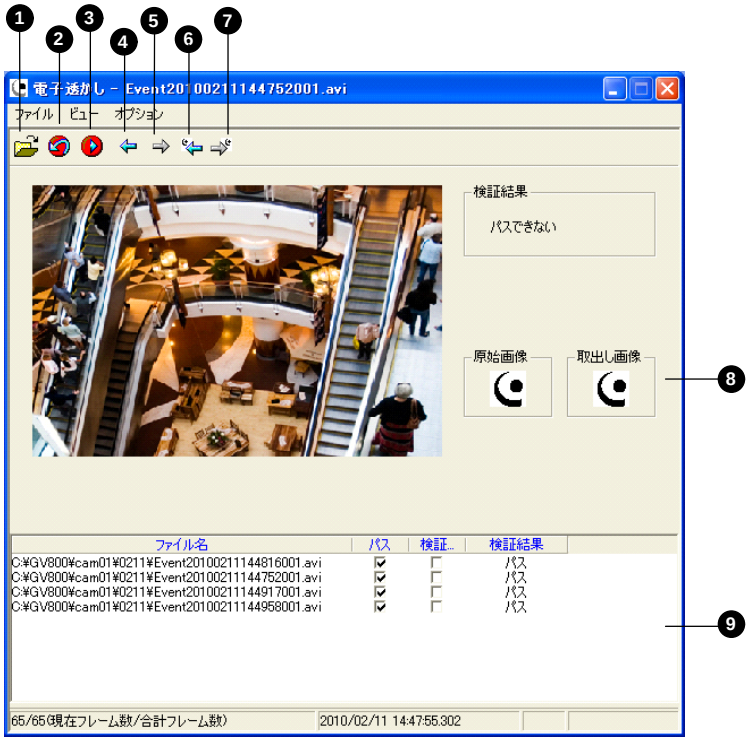

図 6-10

ウィンドウのコントロール:

No.	名前	説明
1	ファイルを開く	記録されたファイルを開きます。
2	最初のフレーム	ファイルの最初のフレームに移動します。
3	再生	ファイルを再生します。
4	前のフレーム	ファイルの前のフレームに移動します。
5	次のフレーム	ファイルの次のフレームに移動します。
6	前の電子透かしフレーム	電子透かしを含む前のフレームに移動します。
7	次の電子透かしフレーム	電子透かしを含む次のフレームに移動します。
8	原始画像と取出し画像	取出されたアイコンは、原始画像のアイコンと同じです。違う場合、録画の撮影環境が変化した証拠です。
9	ファイルリスト	検査結果を表示します。

第 7 章 DVR設定

GV-System は、GV-Video Server からのデジタル映像やその他のアナログビデオからの映像を統合したハイブリッドソリューションを提供します。デジタル映像については、ビデオビュー、録画、再生、警告設定など高機能なシステムを備えたビデオ管理能力を提供しています。次のような機能があります。

- GV システム バージョン 8.3.2 以降が必須となります。
- GV-Video Server に接続できる最大数は 20 です。GV-System1 機を GV-Video Sever に接続すると、4 つの接続を使用します。ユーザーが GV-Video Server にブラウザから接続すると、2 つの接続を使用します。ユーザーが Center V2 **でカメラ/音声コントロール**を操作すると、1 つの接続を使用します。
- デジタル映像のコーデックや録画解像度は、GV-System ではなく、GV-Video Server で設定されます。
- ハードウェア圧縮や RAM を使ったプレ録画（Pre-Recording Using RAM）機能は、GV-Video Server からの映像には利用できません。「RAM を使ったプレ録画」機能の詳細については、監視システムソフトウェア DVD の*ユーザーズマニュアル*、第 1 章、「システム設定」を参照してください。

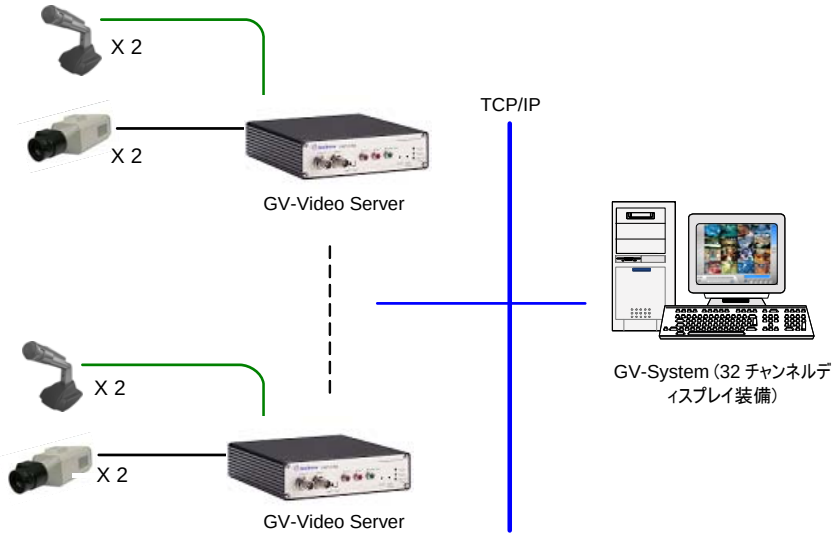

図 7-1

注: GV-250 カードは、GV-Video Server をサポートしません。

7.1 IPカメラの設定

GV システムで IP カメラを設定する際には、次の手順を実行してください。

1. メイン画面で、**Configure (設定)**ボタンをクリックし、**General Setting (全般設定)**を選択し、**Camera / Audio Install (カメラ/録音装置のインストール)**を選択し、**IP Camera Install (IP カメラ導入)**をクリックします。次のダイアログボックスが表示されます。

図 7-2

2. **Install IP Camera (IP カメラ導入)**にチェックを入れ、接続する IP カメラの台数を選択し、**Configure (設定)**をクリックします。次のダイアログボックスが表示されます。

図 7-3

- カメラを自動的に設定するには、**Scan Camera (カメラのスキャン)**をクリックして LAN 上の GV IP デバイスを検出します。
- カメラを手動で設定するには、**Add Camera (カメラ追加)**をクリックします。

次の手順は、手動設定の一例です。

3. **Add Camera (カメラ追加)**をクリックします。次のダイアログボックスが表示されます。

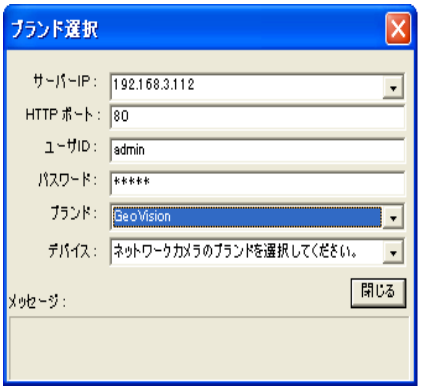

図 7-4

4. GV-Video Server の IP アドレス、ユーザ名、パスワードを入力します。必要に応じて、既定の HTTP ポートを変更します。**Brand (ブランド)**ドロップダウンリストから **GeoVision** を選択し、**Device (デバイス)**ドロップダウンリストから **GeoVison Video Server** を選択します。次のダイアログボックスが表示されます。

図 7-5

5. **Query (検索)**をクリックし、GV-Video Server を検出します。検出されたら、カメラリストセクションに使用できるカメラオプションが表示されます。

6. ライブ表示させるカメラを **Preview (映像確認)**のドロップダウンリストから選択、録画させるカメラを **Record (録画)**ドロップダウンリストから選択します。

7. **Apply (適用)**をクリックし、**Close (閉じる)**をクリックしてダイアログボックスを閉じます。サーバー情報が表示されます。

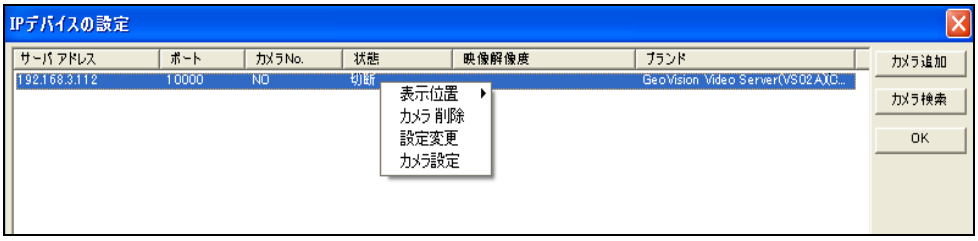

図 7-6

8. サーバー情報をクリックトし、**Display Position (表示位置)**を選択して IP カメラを GV システムのチャンネル内に位置づけします。

9. [状態]欄が「接続」と表示されます。**[OK]**をクリックします。

映像のプレビューと音声の設定

映像をプレビューし音声録音を有効にするには、目的のサーバーをハイライト（図 7-6 参照）して **Preview & Audio Setting（映像確認・音声設定）**を選択します。次のダイアログボックスが表示されます。

図 7-7

[選択中のカメラ映像確認]

- **ドロップダウンリスト**：ライブプレビューに使用するカメラを選択します。
- **デュアルストリームチャンネル映像確認**：このオプションは、デュアルストリームが設定されている場合にのみ利用できます。デュアルストリームでは例えば、ライブ表示用のカメラと録画用のカメラを別々に設定することができます。（図 7-5 参照）録画プレビューを行う場合に、チェックを入れます。

[音声設定]

- **映像検知感度:** 検出されるオーディオの感度を調整します。値が大きいほど、システムは周りの音を敏感に感知します。
- **ゲイン調整:** マイクのゲインを増加または減少させます。
- **音声出力:** GV-Video Server からのライブ音声を選択します。
- **録音:** オーディオ録音機能の稼動を選択します。

[ハードウェア圧縮されたデータ制御]

IP カメラ、ビデオサーバー、コンパクト DVR などのビデオ IP デバイスからハードウェア圧縮されたデータは、GV システムに再び圧縮せずに、リモートサーバーに直接転送することができます。リモートサーバーには、Center V2、コントロールセンター、WebCam が含まれます。GV-System に多くのリモートサーバーが一度にアクセスしているとき、この機能が役に立ちます。このオプションが選択されているとき、GV-System のシステム負荷が減少し、それぞれのリモートサーバーのフレームレートを増し、画像品質を向上することができます。

注: LAN 環境では多くのバンド幅が要求されるため、この機能を有効にするように強くお勧めします。

[記録フレームレートコントロール] ストレージ要件を満たすように記録フレームレートを設定します。

- **最大記録フレームレート:** IP カメラの記録コーデックが JPEG に設定されているとき、このオプションを利用できます。1～30 fps の範囲で、フレームレートを選択します。
- **記録キーフレームのみ:** IP カメラの記録コーデックが MPEG4 または H.264 に設定されているとき、このオプションを利用できます。ストレージ容量を保存するすべてのフレームの代わりに、キーフレームの記録を選択することができます。このオプションは、IP カメラの GOP 設定に関連します。例えば、GOP 値が 30 に設定されている場合、30 フレームの間にキーフレームは 1 つしかありません。GOP 設定については、*4.1.2 ビデオ設定*を参照してください。

[ライブ表示フレームレートコントロール] CPU 使用率を削減するように、ライブ表示のフレームレートを設定します。

- **最大ライブ表示フレームレート:** IP カメラの記録コーデックが JPEG に設定されているとき、このオプションを利用できます。1～30 fps の範囲で、ライブ表示のフレームレートを選択します。
- **ライブ表示キーフレームのみ:** IP カメラの記録コーデックが MPEG4 または H.264 に設定されているとき、このオプションを利用できます。CPU 使用率を削減するように、ライブ表示でキーフレームのビデオのみ表示するには、このオプションを選択します。このオプションは、IP カメラの GOP 設定に関連します。例えば、GOP 値が 30 に設定されている場合、30 フレームの間にキーフレームは 1 つしかありません。GOP 設定については、*4.1.2 ビデオ設定*を参照してください。

[GOP でプレレコード]

- **GOP でプレレコードを有効にする:** モーション検出イベントが発生する前に、最大 120 フレームのビデオ記録を有効にします。この機能を有効にするには、IP カメラが以下の要件を満たす必要があります。D1 または CIF 解像度、60 以下のフレームの GOP サイズ、MPEG4 または H.264 コーデック。

[GV-GIS 設定]

IP カメラから GPS データを受信します。GPS データを受信するには、GV-System の GIS 機能も有効にしてください (< アクセサリ < ローカル GIS の有効化ボタンの設定)。

7.2 ビデオサーバーからカードホルダデータを受信する

ネットワークを介して GV システムは Wiegand インターフェースカードリーダーからからカードホルダデータを受信できます。この転送は、GV-Video Server を通して行われます。

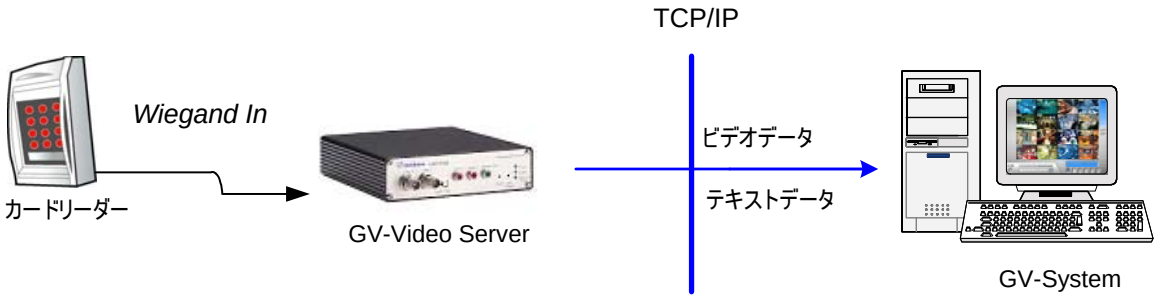

図 7-8

ビデオサーバーからカードホルダデータを受信するには、以下の手順に従います。

1. GV-Video Server を GV-System に追加します。*7.1 IP カメラを設定する*を参照してください。
2. **Configure (設定)**ボタンをクリックし、**Accessories (アクセサリ)**をポイントし、**GV Wiegand Capture Device Setting (GV Wiegand キャプチャデバイス設定)**を選択します。[GV-Wiegand Capture Setup] (GV-Wiegand キャプチャ設定)ダイアログボックスが表示されます。
3. **New (新規)**ボタンをクリックします。次のダイアログボックスが表示されます。

図 7-9

4. [Type] (タイプ)ドロップダウンリストから **GV-Video Server** を選択し、ビデオサーバーを説明する名前を入力し、[Address] (アドレス)ドロップダウンリストからビデオサーバーの IP アドレスを選択し、マップするカメラを選択します。
5. **Add (追加)**をクリックして、Wiegand カードリーダーをシステムに追加します。

6. カードホルダデータはマップされたカメラに表示されないことにご注意ください。カードホルダデータを表示するには、**ViewLog** ボタンをクリックし、**System Log (システムログ)**を選択してライブログブラウザを表示し、**Device (デバイス)**タブをクリックします。

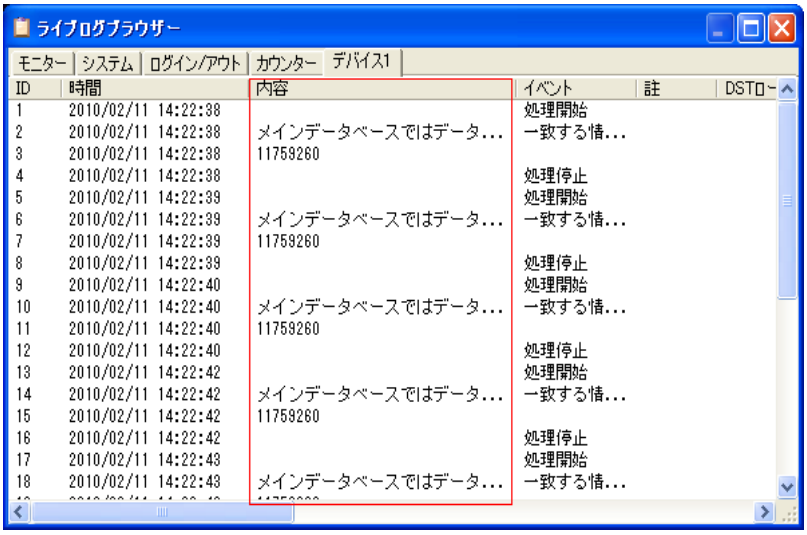

図 7-10

GV-Video Server 上での関連する設定については、*4.2.3 GPS/Wiegand の Wiegand 機能*を参照してください。

7.3 MultiViewを使用してのリモートモニタリング

MulitView は、GV-Video Server に接続されたカメラや I/O デバイスをモニターし管理できます。

GV-Video Serverに接続する

MultiView のプログラムは GV-System アプリケーションに組み込まれていますが、独立したプログラムとしてソフトウェア DVD にも含まれています。次の内容は、GV-System の WebCam サーバーを通して MultiView を起動する一例です。

1. GV-System へのリモートアクセスを有効にするには、**Network (ネットワーク)**ボタンをクリックし、**[WebCam Server]**を選択、[Server Setup] (サーバー)ダイアログボックスを表示します。**[OK]**をクリックし、WebCam Server をスタートします。
2. ローカル PC で、Web ブラウザを開き GV-System のアドレスを入力します。[単一表示]の画面が表示されます。
3. **Multi View (マルチ表示)**と目的の表示解像度を選択します。ログインのためには有効なユーザー名とパスワードが必要です。初めて使用する場合、ダウンロードページにアクセスするように指示されます。MultiView プログラムをインストールしてから、実行してください。

4. MultiView ウィンドウで、**Edit Host (ホスト編集)**ボタン をクリックします。[Edit Host] (ホスト編集)ウィンドウが表示されます。

5. ホストに接続するには、**New (新規)**ボタンをクリックします。ホストを作成する前に、グループを作成する必要があります。

6. [Device] (デバイス)ドロップダウンリストから**[GV-Video Server]**を選択します。GV-Video Server のホスト名、IP アドレス、ユーザ名、パスワードを入力します。必要に応じて、既定の VSS ポート **10000** を変更します。

図 7-11

7. **Save (保存)**をクリックして接続を確立します。

MultiView 機能の詳細については、監視システムソフトウェア DVD のユーザーズマニュアル、第 8 章の *『MultiView MPEG エンコーダービュアー』*を参照してください。

7.4 E-Mapを使ってリモートモニタリング

リモート E-Map は、GV-Video Server に接続されたカメラや I/O デバイスをモニターし管理できます。

GV-Video SeverのためのE-Mapファイルの作成

E-Map Editor の利用により、GV-Video Server に接続されたカメラや I/O デバイスの電子マップを作成することができます。E-Map Editor は、メインシステムと E-Map サーバーから利用することができます。次の内容は、メインシステムにある E-Map Editor の起動を例にしています。

1. ウィンドウズの **Start (スタート)**メニューをクリックし、**Programs (プログラム) GV folder (GV フォルダー)**をポイント、**[E-Map Editor]**をクリックします。
2. E-Map を作成するには、ツールバーの **Add Map (地図追加)**ボタンをクリックします。[新規地図]ファイルが表示されます。
3. [新規地図]ファイルをダブルクリックし、ツールバーの **Load Map (ロードマップ)**ボタンをクリック、画像ファイルをインポートをします。
4. ホストを作成するには、ツールバーで **Add Host (ホスト追加)**ボタンを右クリックし、**Add Video Server (ビデオサーバー追加)**を選択します。
5. ホスト表示で作成した[新規ホスト]を右クリックし、**Host Settings (ホスト設定)**を選択します。次のダイアログボックスが表示されます。

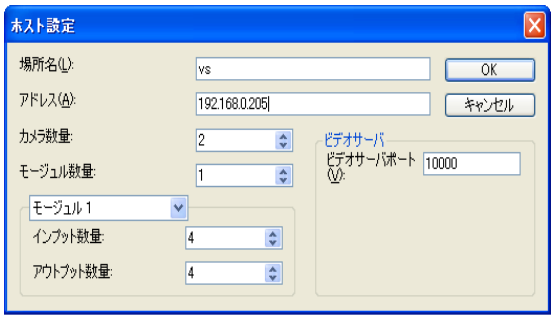

図 7-12

6. GV-Video Server に[場所名]を設定、IP アドレス(ドメイン名)を入力します。VSS ポートは既定の **10000** を使用、または GV-Video Server に合わせて変更します。
7. **[OK]**をクリックして設定を保存します。
8. 作成したホストフォルダを展開します。インポートした E-Map にカメラや I/O デバイスのアイコンをドラグアンドドロップします。
9. E-Map Editor を閉じます。ファイルを保存するよう求めらた場合は、**Yes (はい)**をクリックします。

E-Map 作成の詳細については、監視システムソフトウェア DVD の*ユーザーズマニュアル*、第 9 章、E-Map サーバーを参照してください。

GV-Video Serverに接続する

作成した E-Map ファイル（GV-System、E-Map サーバー、またはコントロールセンター）の保存場所によって、モニタリングのためにリモート E-Map ウィンドウを開く手順が若干違います。次の内容は、E-Map ファイルを GV-System に保存した場合を例にしています。

1. GV-System へのリモートアクセスを有効にするには、**Network（ネットワーク）**ボタンをクリックし、**WebCam Server** を選択、[Server Setup]（サーバー）ダイアログボックスを表示します。**[OK]**をクリックし、WebCam サーバーをスタートします。
2. ローカル PC で、Web ブラウザを開き GV-System のアドレスを入力します。[単一表示]の画面が表示されます。
3. **Emap** を選択します。ログインのためには有効なユーザー名とパスワードが必要です。初めて使用する場合、ダウンロードページにアクセスするように指示されます。E-Map プログラムをインストールしてから、実行してください。
4. [リモート E-Map]ウィンドウで、**Login（ログイン）**ボタンをクリックし、GV-Video Server となるホストを選択、そのビデオと I/O デバイスにアクセスします。GV-Video Server にログインするには、有効なユーザー名とパスワードが必要です。

リモート E-Map 機能の詳細については、監視システムソフトウェア DVD の*ユーザーズマニュアル*、第 9 章、リモート E-Map ウィンドウを参照してください。

第 8 章 CMS設定

本章では、中央モニタリングステーションの Center V2、VSM やディスパッチサーバーなどと GV-Video Server との接続を有効にするための設定について説明します。

8.1 Center V2

Center V2 は、GV-Video Server に接続されたカメラや I/O デバイスをモニターし管理できます。

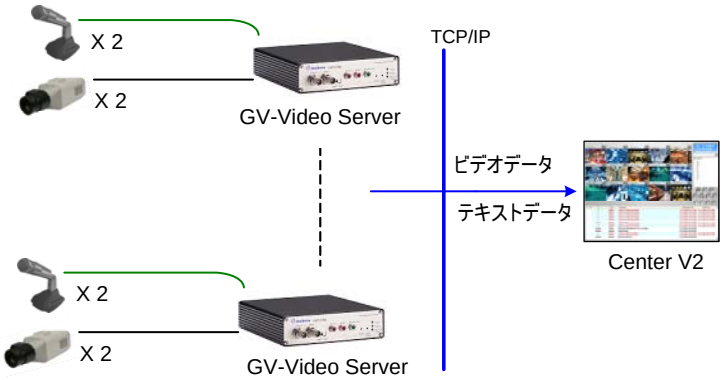

図 8-1

- GV-Video Server に対して適切なポート接続を設定するには、**Preference Settings (詳細設定)**ボタンをクリックし、**System Configure (システム設定)**を選択します。**Network (ネットワーク)**タブをクリックし、**Accept connections from GV-Compact DVR, Video Server & IP Cam (GV-Compact DVR、Video Server & IP Cam からの接続を受け入れる)**をチェックします。ポート 2 オプションの既定ポートの **5551** を使用、または GV-Video Server の Center V2 ポートに一致するようにポートを変更します。

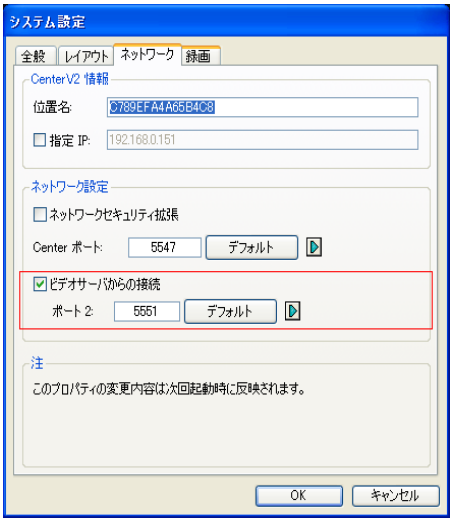

図 8-2

GV-Video Server からモーション検出やや入力トリガーで受信したビデオを表示する方法を定義するには、**Preference Setting (詳細設定)**ボタンをクリックし **System Configure (システム設定)**を選択します。次のダイアログボックスが表示されます。

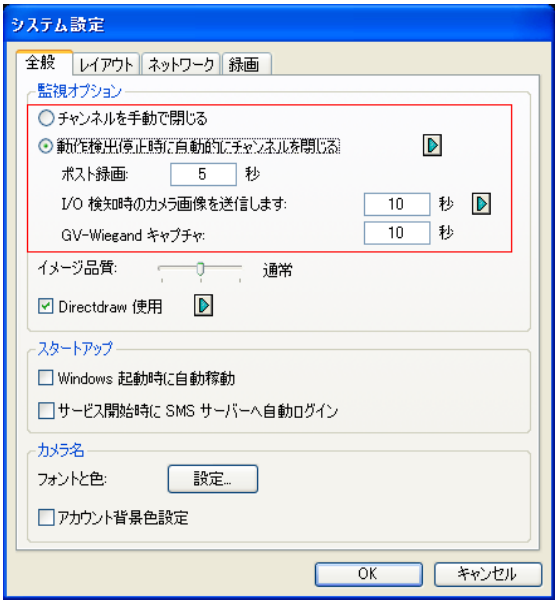

図 8-3

- **チャンネルを手動で閉じる:** トリガーされたカメラ表示を手動で閉じます。
- **動作検出停止時にカメラ表示を閉じる:** モーションが停止したときに、トリガーされたカメラ表示を自動的に閉じます。
- **ポストモーション:** モーションが停止した後に、モニタリングウィンドウに残っていたカメラ表示の間隔を指定します。
- **I/O トリガーで送信されたカメラがモニターされます:** I/O デバイスがトリガーされたときに、モニタリングウィンドウに残っていたカメラ表示の間隔を指定します。

  アラームが終了した後にも、モニタリングウィンドウに残っているカメラ表示を維持するには、右矢印ボタンをクリックし、**Latch Trigger (ラッチトリガー)**のチェックを解除します。カメラ表示は、指定された時間モニタリングウィンドウに引き続き表示されます。たとえば、アラームが 5 分間トリガーされている時に 10 分を設定すると、合計の表示時間は 15 分になります。
- **GV-Wiegand Capture により送信されたカメラをモニターする:** GV-Video Server に接続されたカードホルダーがトリガーされたときに、モニタリングウィンドウに残っていたカメラ表示の間隔を指定します。GV-Video Server 上での関連する Wiegand 設定については、*4.2.3 GPS/Wiegand* を参照してください。

GV-Video Server から受信したビデオを管理する方法の詳細については、*GV-CMS シリーズユーザーズマニュアル*を参照してください。

8.2 VSM

VSM は、GV-Video Server に接続されたカメラや I/O デバイスをモニターし管理できます。

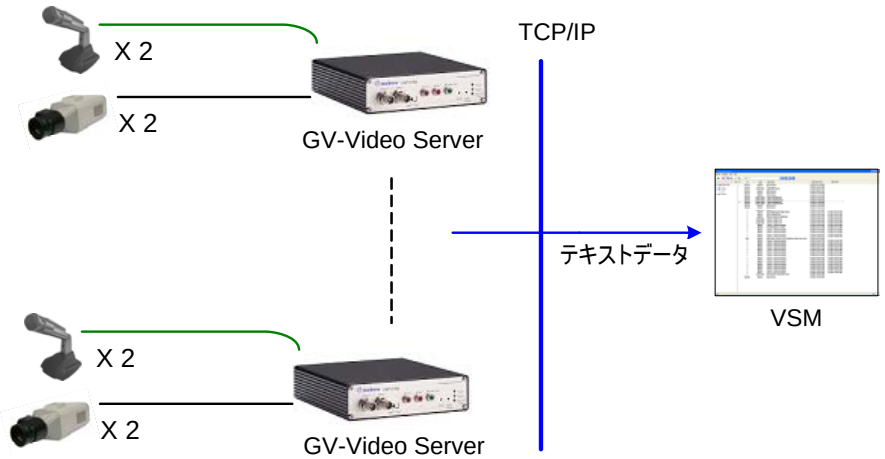

図 8-4

- GV-Video Server に接続しているとき適切なポートを設定するには、ウィンドウメニューで **Configure（設定）**と **System Configure（システム設定）**を順に選択してダイアログボックスを表示します。[接続ポート]フィールドで、ポート 2 オプションの既定値 **5609** を維持するか、GV-Video Server の VSM ポートに一致するように値を変更します。

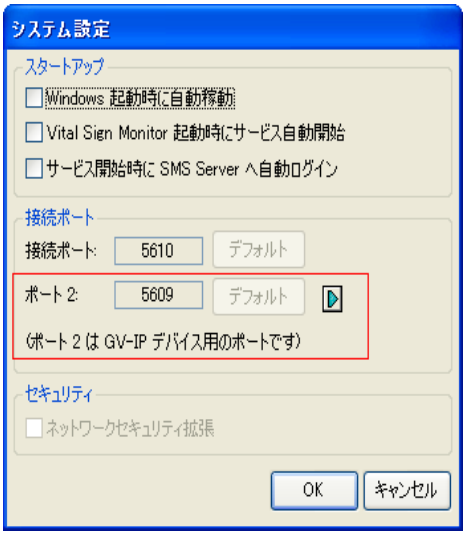

図 8-5

GV-Video Server から受信したビデオを管理する方法の詳細については、*GV-CMS シリーズユーザーズマニュアル*を参照してください。

8.3 ディスパッチサーバー

ディスパッチサーバーは GV-Video Server に接続されたカメラや I/O デバイスを管理し、Center V2 に送信させることができます。

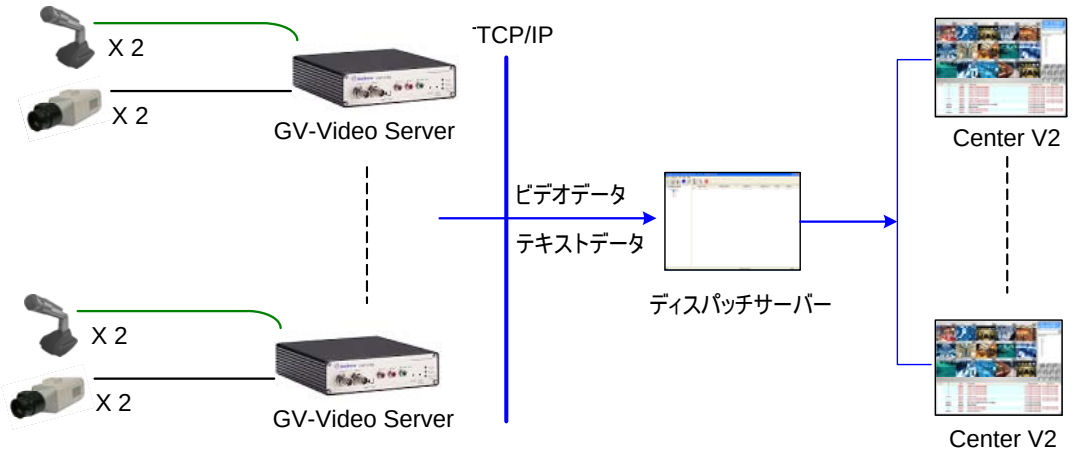

図 8-6

- GV-Video Server への接続を有効にするには、ツールバーの **Server Setting (サーバー設定)**ボタンをクリックし、**[ビデオサーバーから接続するために有効なポート番号]**を有効にします。既定ポートの **5551** を使用、または GV-Video Server の Center V2 ポートに一致するようにポートを変更します。

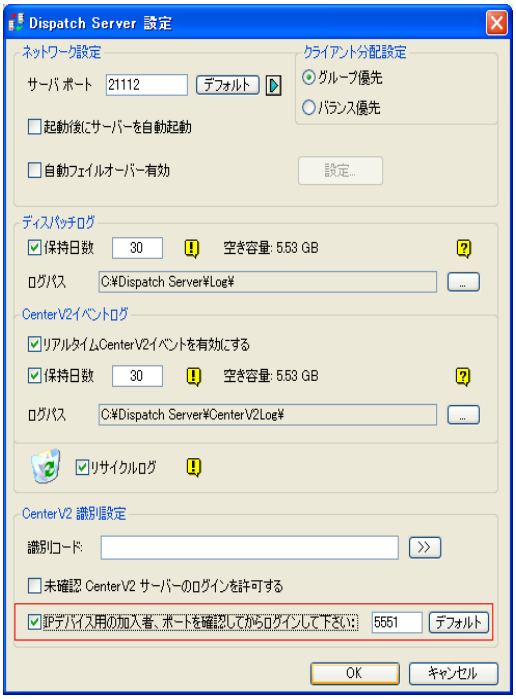

図 8-7

GV-Video Server から受信したビデオを管理する方法の詳細については、*GV-CMS シリーズユーザーズマニュアル*を参照してください。

第 9 章 補助デバイスコネクタ

9.1 GV-VS02、GV-VS02A および GV-VS04A

背面パネルにある 16 ピンターミナルブロックには 4 つのデジタルインプット、4 つのリレーアウトプット、RS-485 インターフェイス、ウィーガンドインターフェイス、GPS インターフェイス、補助電源用のインターフェイスが付いています。ターミナルブロックは、動作検出、電子メールまたは FTP を介したイベント警告、Center V2 や VSM によるセンターモニタリング、PTZ コントロール、Wiegand インターフェースカードリーダー、その他のさまざまな機能を持つアプリケーションに利用します。

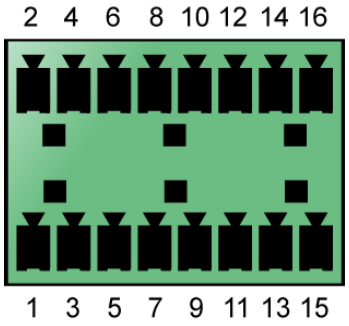

図 9-1

9.1.1 ピンの割り当て

以下のテーブルでは、ターミナルブロック用のピン割り当てを一覧表示します。

ピン	機能	ピン	機能
1	リレー出力x1	9	GV リレーモジュール用 DC5V 出力、または GPS モジュール
2	デジタル入力x1	10	アース、または GPS アース
3	リレー出力x2	11	RS-485+
4	デジタル入力x2	12	Wiegand D0、または GPS RX
5	リレー出力x3	13	RS485 -
6	デジタル入力x3	14	Wiegand D1、または GPS TX
7	リレー出力x4	15	アース
8	デジタル入力x4	16	Wiegand カードリーダー用 DC12V 出力

注: GPS モジュールの場合、電源装置の場合はピン 9、アースの場合はピン 10、GPS RX の場合はピン 12、GPS TX の場合はピン 14 を使用します。

9.1.2 リレーアウトプット

ターミナルブロックのリレー出力は、最高負荷 5V まで対応します。GV リレーV2 モジュールを使用することにより、より重い付加を与えることができるようになりました。GV リレーV2 モジュールを GV-Video Server に接続するには、以下の図と表を参照してください。

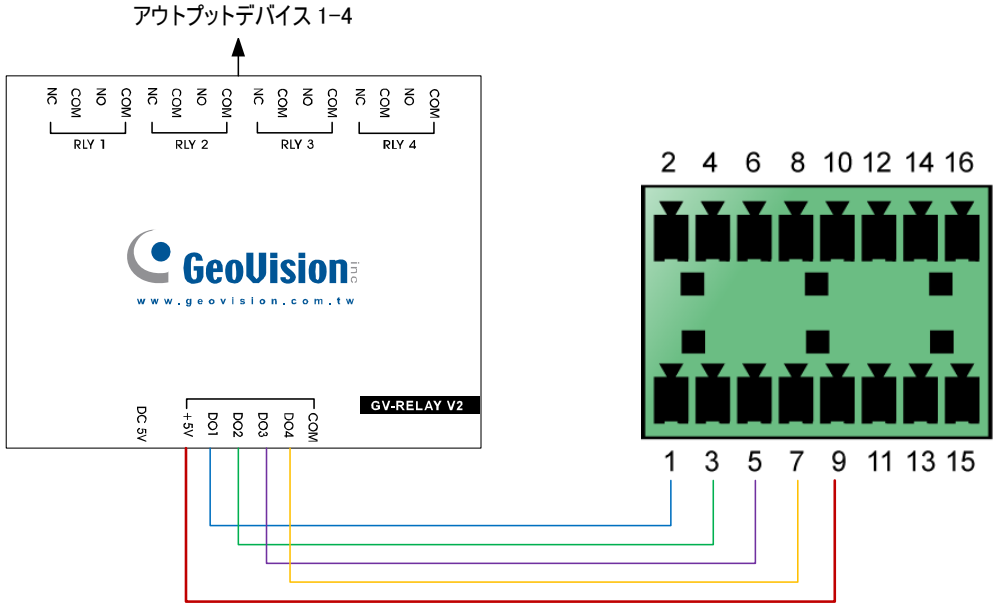

図 9-2

GV-Relay V2	I/O ターミナルブロック
DO 1	ピン 1
DO 2	ピン 3
DO 3	ピン 5
DO 4	ピン 7
+ 5V	ピン 9

電源は GV-Video Server から供給されるため、GV-Relay V2 モジュールで DC 5V コネクタを使用して電源を供給する必要はありません。

注: GV-Relay モジュールは、オプション製品です。

9.2 GV-VS12

GV-VS12 は I/O デバイスや PTZ カメラへの拡張接続用に **RJ-45 コネクタ付き I/O ケーブル**を装備しています。J-45 コネクタとシールド線の束はケーブルのそれぞれの端にあります。

まず目的の線を剥き、セクション 9.2.1 のピン割り当てに従って正しい線に補助デバイスを接続します。それから、RJ-45 コネクタを GV-VS12 の I/O/PTZ ポートに差し込みます(No. 4、図 1-9)。

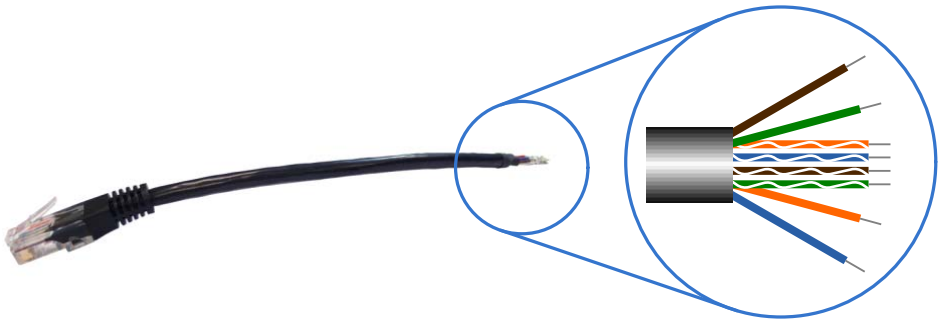

図 9-3

9.2.1 PIN の割り当て

以下のテーブルでは、RJ-45 コネクタ付き I/O ケーブルのシールド線用ピン割り当てを一覧表示しています。

ピン	線	機能
1	茶色	デジタルアウト 1
2	茶色の縞模様のある白	デジタルアウト 2
3	緑の縞模様のある白	アース
4	青い縞模様のある白	デジタルイン 1
5	青	デジタルイン 2
6	緑	アース
7	オレンジ	RS-485 -
8	オレンジの縞模様のある白	RS-485 +

9.2.2 RS-232 ターミナルブロック

GV-VS12 の RS-232 ターミナルブロックは、主に GPS モジュールへの接続に使用されます。

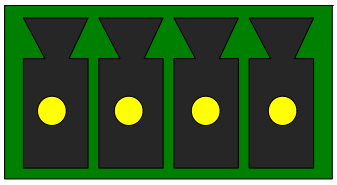

図 9-4

ピン	機能
TX	GPS RX（受信）
RX	GPS TX（送信）
G	アース
5V	DC 5V アウト

注：GV-VS12 に確実に接続するには、GPS RX を TX ピンに、GPS TX を RX ピンに接続する必要があります。

第 10 章 携帯電話接続

PDA、スマートフォン、3G 対応携帯電話を使って GV-Video Server から転送されるライブ映像を受信することができます。以下のチャートは、GV-Video Server をサポートしている GV モバイルアプリケーションの一覧です。

ハンドヘルドデバイス表示	対応 OS	ポート設定	GV-Video Server 設定
Gview V2	Windows Mobile 5.0、2003 (Pocket PC 用) Windows Mobile 6.0 / 6.1 Classic and Professional	TCP/IP ポート: 10000 RPB ポート: 5552 (ViewLog サーバー)	ビデオ設定 / GViewV2 Supported
MSView V2	Windows Mobile 5.0 および 2003 (Smartphone 用)	TCP/IP ポート: 10000 RPB ポート:5552 (ViewLog サーバー)	ビデオ設定 / 3GPP, MSViewV2, SSViewV3 をサポート
MSView V3	Windows Mobile 6.0 / 6.1 Standard and Professional	TCP/IP ポート: 10000 RPB ポート:5552 (ViewLog サーバー)	ビデオ設定 / 3GPP, MSViewV2, SSViewV3 をサポート
SSView V3	Nokia S60 2nd Edition および 3rd Edition (Smartphone 用)	TCP/IP ポート: 10000 RPB ポート:5552 (ViewLog サーバー)	ビデオ設定 / 3GPP, MSViewV2, SSViewV3 をサポート
3GPP	RTSP をサポートするプレーヤー付き携帯電話	TCP/IP ポート: 8554 UDP ポート: 17300-17319	ビデオ設定 / 3GPP, MSViewV2, SSViewV3 をサポート

チャート 1

注:

1. 3G 対応の携帯電話からも、GV-Video Server からライブビデオを受信することが可能です。GV 携帯用アプリケーションをインストールする必要がありません。
2. GV-Video Server からライブ画像を受信するには、携帯電話の TCP/IP ポートを入力します。ビデオを再生するには、GV-Video Server で ViewLog サーバーを有効にし、携帯電話で RPB ポートを入力します。

10.1 PDA

GView V2 は、Pocket PC デバイス用のリモート表示アプリケーションです。Windows Mobile オペレーティングシステムを搭載した PDA で実行できます。サポートされるオペレーティングシステムのバージョンについては、チャート 1 を参照してください。

GView V2 が携帯電話の大画面パネルを検出すると、GV-Video Server の画像が見やすくなるように水平回転されます。解像度は、既定で CIF に設定されています。

10.1.1 GView V2 をインストールする

GView V2 は、Microsoft Windows Mobile オペレーティングシステムを搭載した PDA デバイスにインストールする必要があります。

1. http://www.geovision.com.tw/english/5_3.aspから**Microsoft PDA Viewer V2** をダウンロードしてコンピュータにインストールします。
2. オンスクリーンの指示に従って、インストールを完了します。既定のインストールディレクトリは **C:\Microsoft PDA Viewer V2** です。
3. **ActiveSync** などの同期化プログラムを通して、インストールディレクトリから PDA に **GViewV2.exe** をインストールします。PDA にプログラムをインストールする方法については、PDA ユーザーズマニュアルを参照してください。

10.1.2 GView機能を有効にする

GV-Video Server へのリモートアクセスを許可するには、**3GPP、Msview V2、Msview V3、Ssview V3、GView V2 Supported** を[ビデオ設定]ページの[接続テンプレート]フィールドで接続タイプとして選択する必要があります。詳しくは、*4.1.2 ビデオ設定*の「接続テンプレート」を参照してください。

10.1.3 GV-Video Serverに接続する

GView V2 が PDA にインストールされたら、これを使って GV-Video Server をモニターすることができます。インターネットにアクセスするには、PDA に無線 LAN アダプタが正しく取り付けられている必要があります。

1. PDA で **GView V2** を実行します。

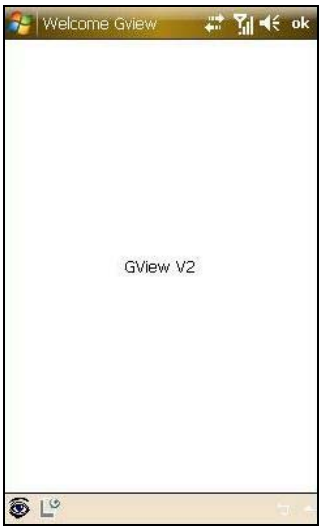

図 10-1

2. 左下にある ボタンをクリックします。ログイン画面が表示されます。

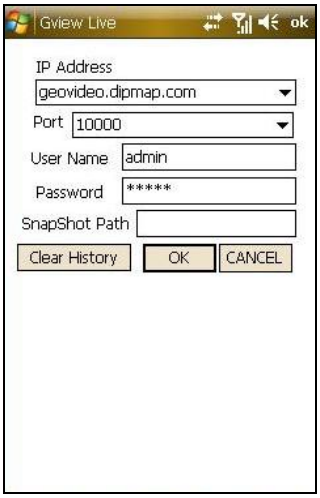

図 10-2

3. GV-Video Server の IP アドレス、ポート値(既定値は 10000)、ユーザー名、パスワードを入力します。**OK** をクリックします。
4. 接続が確立されると、ライブ画像が表示されます。

10.1.4 GV-Video Serverから録画を再生する

GV-Video Server から録画を再生するには、以下のステップに従います。

1. GV-Video Server で **ViewLog サーバー**を有効にします。接続ポート 5552 を使用するか、必要に応じて変更してください。詳しくは、*4.3.6 ViewLog サーバー*を参照してください。
2. PDA で **GView V2** を実行します。
3. 左下にある ボタンをクリックします(図 10-1)。ログイン画面が表示されます。

図 10-3

4. GV-Video Server の IP アドレス、ポート値(既定値は 5552)、ユーザー名、パスワードを入力します。**OK** をクリックして接続します。
5. イベントリストから目的のビデオ録画を選択して再生します。

10.1.5 その他の機能

GView V2 にはライブ表示と再生だけでなく、I/O デバイスの表示 / コントロール、PTZ コントロール、画像品質の調整、録画の開始 / 停止などの機能があります。

ライブ表示画面で、目的の機能を持つツールバーのボタンをクリックします。

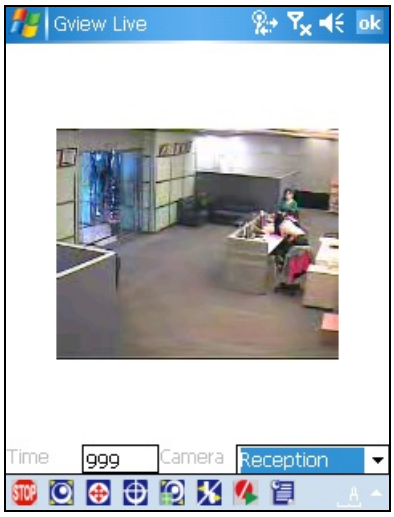

図 10-4

ボタン	説明
	接続を停止する場合、ボタンをクリックします。
	フォーカスイン / アウトとズームイン / アウトコントロールの場合、ボタンをクリックします。カメラが PTZ 機能に対応しているときのみ、この機能を利用できます。
	カメラをさまざまな方向に移動する場合、このボタンをクリックします。カメラが PTZ 機能に対応しているときのみ、この機能を利用できます。
	カメラをプリセット位置に移動する場合、ボタンをクリックします。カメラが PTZ 機能に対応しているときのみ、この機能を利用できます。
	画像品質を調整する場合、ボタンをクリックします。
	接続した I/O デバイスにアクセスする場合、ボタンをクリックします。
	録画を開始または停止する場合、ボタンをクリックします。
	カメラステータスを表示する場合、このボタンをクリックします。
Time 999	管理者は PTZ カメラをコントロールする最高の優先度を与えられ、60 秒の時間制限の間、規制されることはありません。管理者がログインすると、タイマーには 999 と表示されます。
Reception	カメラを切り替えるには、ドロップダウンリストを使用します。

I/Oデバイスにアクセスする

接続した I/O デバイスにアクセスするには、ドロップダウンリストを使って目的のカメラを選択し、 ボタンをクリックします。ツールバーに I/O モジュールボタンが表示されます。

図 10-5

ツールバーの数字は、接続したモジュールを示します。その I/O デバイスにアクセスするには、希望の数字をクリックします。ツールバーに I/O コントロールボタンが表示されます。

図 10-6

ボタン	説明
I	インプットトリガーのログを表示するには、このボタンをクリックします。
O	接続したアウトプットデバイスを表示し、強制作動させます。

インプットトリガーイベントを表示する

アラームリストに、すべてのインプットトリガーがログオンされます。トリガーイベントのリストを表示するには、「**I**」ボタン(図 10-6)をクリックします。

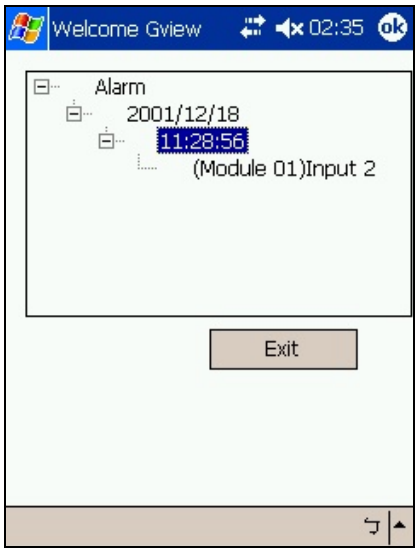

図 10-7

出力を強制作動する

接続した出力デバイスを強制的に作動するには、「**O**」ボタン(図 10-6)をクリックし希望の数字をクリックします。ツールバーの数字は、接続した出力デバイスを示します。

図 10-8

PTZカメラをコントロールする

PTZ カメラをコントロールするには、ドロップダウンリストを使って希望のカメラを選択し、ライブ表示画面(図 10-4)で ボタンをクリックします。

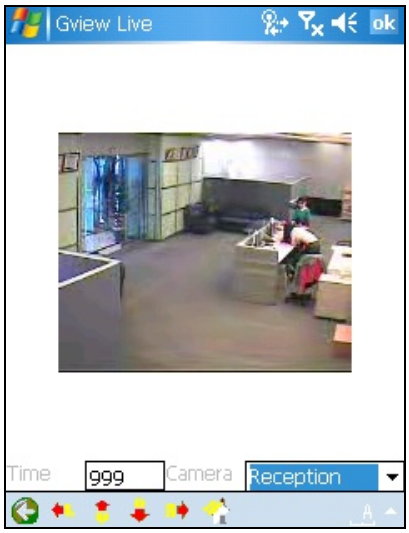

図 10-9

ボタン	説明
	ボタンをクリックすると、前のページに戻ります。
	PTZ カメラを上下左右に動かす場合、これらのボタンを使います。
	ボタンをクリックすると、ホームに戻ります。

カメラステータスを表示する

カメラステータスを表示する場合、ライブ表示画面で ボタンをクリックします(図 10-4)。

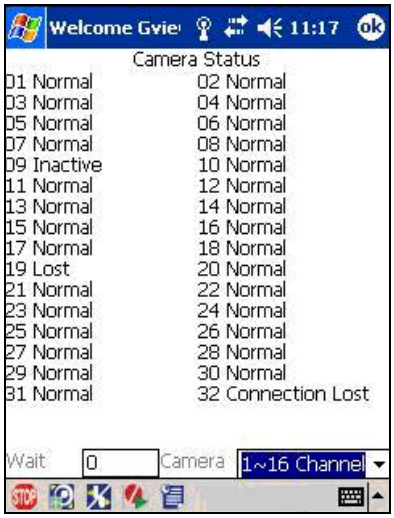

図 10-10

画面には、カメラ動作のステータスが表示されます。3 つのメッセージは、現在のカメラステータスを示します。

メッセージ	説明
通常	カメラは有効で、録画を行っていません。
非活動	カメラは無効になっています。
録画	カメラは録画を行っています。

10.2 Windowsスマートフォン

MSView アプリケーションでは、Windows ベースのスマートフォンを通して GV-Video Server をリモートでモニターすることができます。サポートされるオペレーティングシステムのバージョンについては、チャート 1 を参照してください。

10.2.1 MSView V2 / V3 をインストールする

1. http://www.geovision.com.tw/english/5_3.aspから**Microsoft Smaprtphone Viewer V2** または**Microsoft Smarphone Viewer V3** をダウンロードしてコンピュータにインストールします。
2. オンスクリーンの指示に従って、インストールを完了します。既定のインストールディレクトリは、**C:\SmartPhone Viewer V2** または **C:\SmartPhone Viewer V3** です。
3. **ActiveSync** などの同期化プログラムを通して、インストールディレクトリからスマートフォンに **MsviewV2.exe** または **MsviewV3.exe** をインストールします。スマートフォンにプログラムをインストールする方法については、スマートフォンユーザーズマニュアルを参照してください。

10.2.2 MSView V2 / V3 機能を有効にする

GV-Video Server へのリモートアクセスを許可するには、**3GPP、MSViewV2、SSViewV3 Supported** を[ビデオ設定]ページの[接続テンプレート]フィールドで接続タイプとして選択する必要があります。詳しくは、*4.1.2 ビデオ設定*の「接続テンプレート」を参照してください。

10.2.3 GV-Video Serverに接続する

次の操作は、モジュールごとにわずかに異なります。

1. お使いのスマートフォンで **MSViewV2.exe** または **MSViewV3.exe** を実行します。

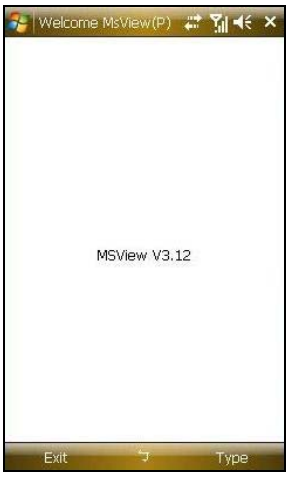

図 10-11

2. **Type (タイプ)**を、次に **Live (ライブ)**をクリックします。

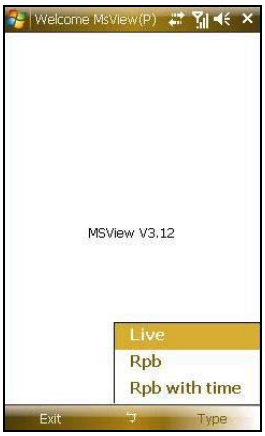

図 10-12

3. ログイン画面で、GV-Video Server の IP アドレス、ポート値(既定値は 10000)、ユーザー名、パスワードを入力します。**Control (コントロール)**をクリックし、**Connect (接続)**を選択します。

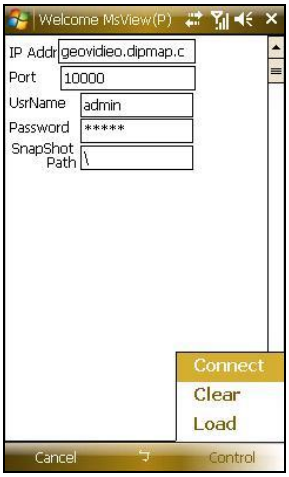

図 10-13

4. 接続が確立されると、ライブ画像が表示されます。スマートフォンのスクロールキーを使ってカメラチャンネルをナビゲートできます。

図 10-14

10.2.4 GV-Video Serverから録画を再生する

GV-Video Server から録画を再生するには、以下のステップに従います。

1. GV-Video Server で **ViewLog サーバー**を有効にします。接続ポート 5552 を使用するか、必要に応じて変更してください。詳しくは、*4.3.6 ViewLog サーバー*を参照してください。
2. スマートフォンで、**MSView V2** または **MSView V3** を実行します。
3. **Type (タイプ)**を、次に **Rpb** を選択します(図 10-12)。ログイン画面が表示されます。再生の特定期間内の録画を検索するには、**Rpb 時間**を選択します。

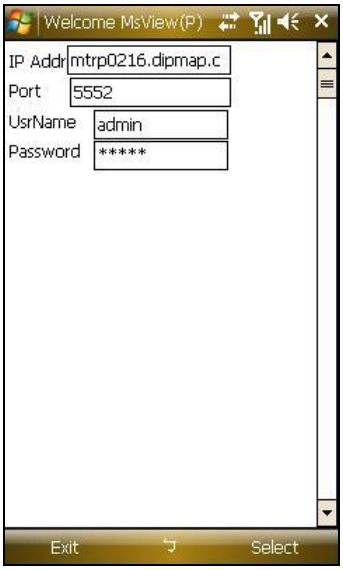

図 10-15

4. GV-Video Server の IP アドレス、ポート値 (既定値は 5552)、ユーザー名、パスワードを入力します。次に、**Select (選択)**、**GV Video Server** を順にクリックして接続を開始します。
5. イベントリストから目的のビデオ録画を選択して再生します。

10.2.5 その他の機能

MSView V2 または MSView V3 にはライブ表示だけでなく、カメラ表示のズームイン/アウト、画像の回転、出力のコントロールなどの機能があります。これらの機能を実行するには、**Control (コントロール)**オプションを選択します。

10.3 Symbianスマートフォン

SSView V3 アプリケーションでは、Symbian ベースのスマートフォンを通して GV-Video Server をリモートでモニターすることもできます。サポートされるオペレーティングシステムのバージョンについては、チャート 1 を参照してください。

10.3.1 SSView V3 をインストールする

Nokia S60 2nd と 3rd Edition 向けに SSView Version 3 をインストールするには:

1. http://www.geovision.com.tw/english/5_3.aspから**Symbian Smartphone Viewer V3** をダウンロードしてコンピュータにインストールします。
2. オンスクリーンの指示に従って、インストールを完了します。既定のインストールディレクトリは **C:\Symbain SmartPhone Viewer V3** です。
3. SsviewV3_2nd.sis または SsviewV3_3rd.sis の変更日を書き留めてください。ファイルを右クリックし、**Properties (プロパティ)**を選択し、Modified (変更済み)フィールドに一覧表示された日付を検出します。
4. まず、スマートフォンで日付設定を変更します。ここでは、ステップを示すために例として Nokia E61 を使用します。
   A. スマートフォンのメインメニューで、**Tools Option(ツールオプション) ▸ App.manager (アプリケーションマネージャ) ▸ Options (オプション) ▸ Open (開く) ▸ App.downloads (アプリケーションダウンロード) ▸ Options (オプション) ▸ Settings (設定) ▸ Online certif..check (オンライン認証のチェック)**を選択し、**Online certif..check(オンライン認証のチェック)** を **Off (オフ)**に設定します。
   B. メインメニューに戻り、**Tools (ツール) ▸ Options (オプション) ▸ Open (開く) ▸ Settings (設定) ▸ Options (オプション) ▸ Open (開く) ▸ Date and time (日付&時刻) ▸ Options (オプション) ▸ Open (開く)**を選択し、日付を[Date] (日付)フィールドのアプリケーションの変更日から 1 年以内の任意の日付にリセットします。例えば、SsviewV3_3rd.sis の変更日が 2007 年 1 月 30 日の場合、[Date] (日付)フィールドの日付を 2007 年 1 月 30 日から 2008 年 1 月 29 日の間の任意の日付にリセットできます。
5. スマートフォンで SSView V3 のインストールを開始します。スマートフォンが S60 2nd Edition の場合、インストールディレクトリからスマートフォンに **SsviewV3_2nd.sis** をインストールします。スマートフォンが S60 3rd Edition の場合、**SsviewV3_3rd.sis** をインストールします。スマートフォンにプログラムをインストールする方法については、スマートフォンユーザーズマニュアルを参照してください。
6. ステップ 5 に従って、日付を今日の日付に戻します。

10.3.2 SSView V3 機能を有効にする

GV-Video Server へのリモートアクセスを許可するには、**3GPP**、**MSViewV2**、**SSViewV3 Supported** を[ビデオ設定]ページの[接続テンプレート]フィールドで接続タイプとして選択する必要があります。詳しくは、*4.1.2 ビデオ設定*の「接続テンプレート」を参照してください。

10.3.3 GV-Video Serverに接続する

次の操作は、モジュールごとによって異なります。

1. スマートフォンで **SSView** を実行します。
2. メッセージ *SSView V3* が表示されたら、**Options (オプション)**、**Live Connect (ライブ接続)**を順に選択します。ログイン画面が表示されます。

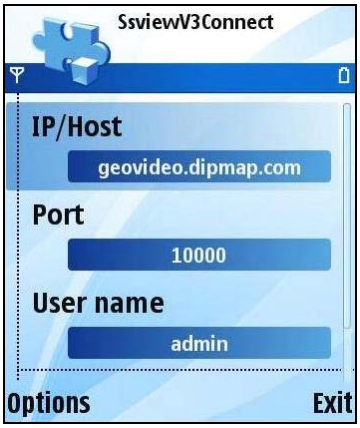

図 10-16

3. GV-Video Server の IP アドレス、ポート値(既定値は 10000)、ユーザー名、パスワードを入力します。**Options (オプション)**をクリックし、**Connect (接続)**を選択します。
4. 接続が確立されると、ライブ画像が表示されます。

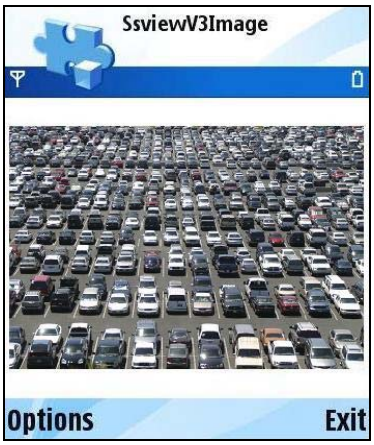

図 10-17

10.3.4 クイック接続

接続したサーバーの IP アドレスは、クイック接続用に保存できます。携帯電話の **[<]** と **[>]**ボタンを押して、目的の接続するサーバーを選択します。

10.3.5 GV-Video Serverから録画を再生する

GV-Video Server から録画を再生するには、以下のステップに従います。

1. GV-Video Server で ViewLog サーバーを有効にします。接続ポート 5552 を使用するか、必要に応じて変更してください。詳しくは、*4.3.6 ViewLog サーバー*を参照してください。
2. スマートフォンで **SSView** を実行します。
3. メッセージ *SSView V3* が表示されたら、**Options (オプション)**をクリックし、**Rpb** を選択します。ログイン画面が表示されます。再生の特定期間内の録画を検索するには、**Rpb 時間**を選択します。

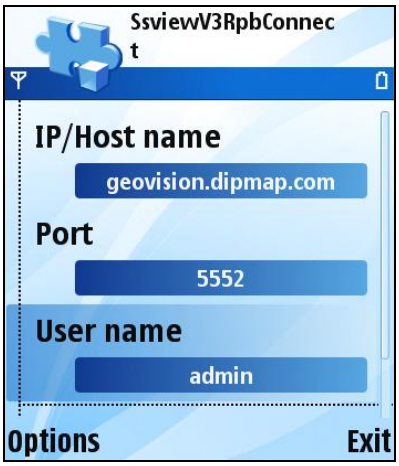

図 10-18

4. GV-Video Server の IP アドレス、ポート値 (既定値は 5552)、ユーザー名、パスワードを入力します。**Options (オプション)**をクリックし、**Video Server (ビデオサーバー)**を選択します。
5. イベントリストから目的のビデオ録画を選択して再生します。

10.3.6 その他の機能

SSView にはライブ表示だけでなく、カメラチャンネルの変更、カメラ表示のズームイン、画像の回転、アウトプットのコントロールなどの機能があります。これらの機能を有効にするには、**Options (オプション)**を選択します。

10.4 3G携帯電話

GV アプリケーションを一切インストールせずに、3G 携帯電話を使って GV-Video Server に直接アクセスすることができます。

10.4.1 3G携帯電話機能を有効にする

GV-Video Server へのリモートアクセスを許可するには、まず **3GPP、MSViewV2、SSViewV3 Supported** を[ビデオ設定]ページの[接続テンプレート]フィールドで接続タイプとして選択し、GV-Video Server で 3GPP Server を有効にする必要があります。詳しくは、*4.1.1 ビデオ設定* と *4.3.7 3GPP* を参照してください。

10.4.2 GV-Video Serverに接続する

1. 携帯電話のインターネットブラウザを開き、GV-Video Server の IP アドレス、ユーザー名、パスワードを入力します。**Apply (適用)**をクリックして接続します。

図 10-19

2. 接続が確立されると、この例のような画像が表示されます。

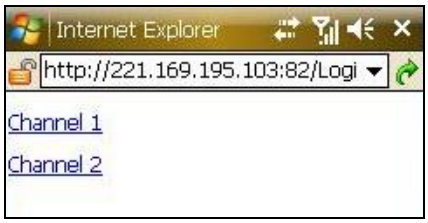

図 10-20

3. 希望のチャンネルを選択します。そのライブ画像が表示されます。

図 10-21

注: 現在、3GPP アプリケーションはリモート再生と I/O コントロールをサポートしません。

仕様

映像

モデル		GV-VS02	GV-VS02A	GV-VS04A	GV-VS12
ビデオ規格		NTSC, PAL			
映像入力		2 チャンネル		4 チャンネル	2 チャンネル
圧縮		MPEG4			H.264、MPEG4 MJPEG
フレームレート	NTSC	720 x 480 モード時 1ch あたり 30fps			
	PAL	720 x 526 モード時 1ch あたり 25fps			
解像度		720 x 480, 720 x 240, 360 x 240, 176 x 112			
映像ストリーミング		帯域幅, フレームレート調整			
画像調整		輝度, コントラスト, 彩度, 色相			

オーディオ

モデル	GV-VS02	GV-VS02A	GV-VS04A	GV-VS12
音声入力	2 チャンネル		4 チャンネル	2 チャンネル
圧縮	G.723			G.711

管理

イベント管理	トリガー	スケジュール、センサインプット、動作検出
	動作	映像保存（AVI フォーマット） キャプチャした画像を添付して電子メールを送信 キャプチャした画像を FTP サーバーにアップロード Center V2、VSM および GV-GIS を通してモニター 外部デバイスをコントロールするためにリレーアウトプットを有効
Firmware Upgrade（ファームウェアの更新）		HTTP によるリモートアップグレード ファームウェアの更新ユーティリティはソフトウェア DVD に同梱されています
ストレージ		USB 大容量記憶装置（オプション）
クライアント PC 要件		ブラウザ: Microsoft Internet Explorer 6.0 以上 OS: Windows 2000/XP/2003/Vista
セキュリティ		IP アドレス フィルタリング機能

ネットワーク

インターフェース	・ 10/100 Base-T イーサネット ・ 802.11b/g Wireless LAN (オプション)
プロトコル	HTTP, TCP, UDP, SMTP, FTP, DHCP, NTP, UPnP, DynDNS

パワーオーバーイーサネット

PoE 標準	IEEE 802.3af パワーオーバーイーサネット / PSE
PoE パワーオーバーサプライタイプ	エンドスパン
PoE パワーアウトプット	ポートあたり 48V DC、350mA. 最大 15.4 ワット

コネクタ

モデル		**GV-VS02**	**GV-VS02A**	**GV-VS04A**	**GV-VS12**
映像入力		BNC ポート(x2)		BNC ポート(x4)	BNC ポート(x2)
音声入力		RCA ポート(x2)		RCA ポート x4 ステレオフォン x2	RCA ポート(x2)
音声出力		RCA ポート(x1)			
端子台		デジタルインプット(x4)、 リレーアウトプット(x4)、RS±485、 Wiegand インターフェース(x1)、 UART インターフェース(x1)			GPS 用 RS-232 インターフェース
RJ-45 コネクタ		N/A			デジタルインプット(x2)、 リレーアウトプット(x2)、 RS±485
イーサネット		RJ-45、10 / 100 Mbps			
USB 2.0		ポート(x2)			
電源	**電源ジャック**	DC-In パワージャック(x1) DC-Out パワージャック(x1)			DC-In パワージャック(x1)
	インプット	100-240V、1.2A、50-60 mhz			
	アウトプット	12V, 3A, (最大 60W)			

アラーム

モデル	**GV-VS02**	**GV-VS02A**	**GV-VS04A**	**GV-VS12**
センサーインプット	インプット(x4)			インプット(x2)
アラームアウトプット	アウトプット(x4)			アウトプット(x2)

環境

モデル	GV-VS02	GV-VS02A	GV-VS04A	GV-VS12
操作温度	10～40℃			
湿度	10～80% RH (結露なきこと)			

外形寸法

モデル	GV-VS02	GV-VS02A	GV-VS04A	GV-VS12
寸法(長さ x 幅 x 高さ)	174 x 145 x 40 mm			123 x 106 x 25 mm /
重量	0.75 kg	0.74 kg	0.73 kg	0.345 kg

既定ポート値

HTTP ポート	80
ストリーミングポート	10000
電子メールサーバー	25
FTP サーバー	21
Center V2	5551
VSM	5609
GV-GIS	3356
ViewLog サーバー	5552
RTSP/TCP ポート	8554
RTP/UDP ポート	17300-17319

付録

A サポートされる無線LAN USBアダプタ

アダプタをサポートするモデルには、**GV-VS02** (ファームウェアバージョン 1.46 以降)、**GV-VS02A**、**GV-VS04A**、**GV-VS12** です。

ベンダー	モデル
D-Link	DWL-G122 C1 バージョン
Edimax	EW-7318Ug
Linksys	WUSB54GC
注: Linksys WUSB54GC ver. 3 はサポートされません。	

アダプタをサポートするモデルは、**GV-VS02A** (ファームウェアバージョン 1.01 以降)、**GV-VS04A** および **GV-VS12** です。

ベンダー	モデル
D-Link	DWA-140 (H/W バージョン B1)
Edimax	EW-7718Un
Linksys	WUSB600 (1st バージョン)

B サポートされるモバイルブロードバンドデバイス

デバイスをサポートするモデルには、**GV-VS02** (ファームウェアバージョン 1.46 以降)、**GV-VS02A**、**GV-VS04A**、**GV-VS12** です。

ベンダー	モデル
Huawei	E220 USB モデム(HSDPA/UMTS/EDGE/GPRS/GSM)
バージョン	無線 USB727 モデム(EVDO)

デバイスをサポートするモデルには、**GV-VS02A** (ファームウェアバージョン 1.01 以降)、**GV-VS04A** および **GV-VS12** です。

ベンダー	モデル
Huawei	E169
Huawei	E1750
Novatel	MC950D

C Internet Explore 8 の設定

Internet Explorer 8 を使用する場合、次の設定を完了する必要があります。

1. セキュリティを**中高 (既定)**に設定します。
2. **まだ未使用の ActiveX コントロールがプロンプトなしに実行するのを許可する**を有効にします。
3. **認証されたドメインのみがプロンプトなしに ActiveX を使用するのを許可する**を無効にします。